



SMART Reaction

ユーザース・ガイド

SA88-6532-00



SMART Reaction

SA88-6532-00

ユーザース・ガイド

お願い

本書の情報および本書によってサポートされるプロダクトをご使用になる前に、87ページの第7章、『特記事項と商標』の情報を必ずお読みください。

第 1 版 (1998 年 3 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典：

SMART Reaction
User's Guide

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1998.5

©Copyright International Business Machines Corporation 1998. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1998

目次

本書について	vii
第1章 SMART Reaction の概説	1
Predictive Failure Analysis (予測的障害分析)	1
バックアップとミラーリング	1
バックアップ機能	2
ミラーリング機能	2
ミラーリング機能とバックアップ機能の結合	3
フォルダーの構造	3
クライアントとサーバーの関係	4
SMART Reaction 機能への制御されたユーザー・アクセス	5
配布方法	5
操作環境	6
前提条件 - SMART Reaction マネージャー	6
前提条件 - SMART Reaction クライアント	6
第2章 SMART Reaction のインストールおよび開始	9
SMART Reaction マネージャーのインストール	11
Windows NT でフォルダーを共有可能にする	12
Windows 95 でフォルダーを共有可能にする	13
SMART Reaction クライアントのインストール	14
クライアント・ワークステーションの準備	14
Windows 95 クライアント・ワークステーションの準備	14
Windows NT クライアント・ワークステーションの準備	16
Windows Networking のインストール	16
SMART Reaction クライアント・プログラムのインストール	18
Web に基づくバージョンのインストール	19
ClientCare のインストール	19
SMART Reaction クライアントの初めての開始	20
スタートアップ・フォルダーからの SMART Reaction の削除	21
SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始	22
スタートメニューからの SMART Reaction の開始	22
第3章 SMART Reaction インターフェース	23
Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ	24
Configuration ノートブック	25
Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) ページ	26
Custom Program (カスタム・プログラム) ページ	28
電子メール・ページ	29
メッセージ・ボックス・ページ	30
Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ	32
Scheduler (スケジューラー) ページ	33
スケジュールされたイベントの設定ウィンドウ	35
コントロールとステータス・ウィンドウ	36
バックアップ・ページ - コントロールとステータス・ノートブック	38

ミラー・ページ - コントロールとステータス・ノートブック	39
リストア・バックアップ・ページ - コントロールとステータス・ノートブック	41
リストア・ミラー・ページ - コントロールとステータス・ノートブック	42
マネージャ・ページ - コントロールとステータス・ノートブック	43
Locks (ロック) ページ - コントロールとステータス・ノートブック	44
Default Settings (デフォルト設定) ノートブック	44
Names/Services (名前/サービス) ページ	45
General (一般) ページ	46
Backup (バックアップ) ページ	47
Mirroring (ミラーリング) ページ	49
Servers (サーバー) ページ	50
Password (パスワード) ページ	52
Group Settings (グループ設定) ノートブック	52
Group (グループ) フィールド	53
Refresh Group List (グループ・リストを更新) ボタン	53
Groups (グループ) ページ	53
Clients (クライアント) ページ	54
Client Settings (クライアント設定) ノートブック	55
Selected Client (選択されたクライアント) フィールド	55
Refresh Client List (クライアント・リストの更新) ボタン	55
Clients (クライアント) ページ	56
第4章 SMART Reaction マネージャー構成の理解	57
共有フォルダーおよびドライブ	57
SMART Reaction マネージャーのデフォルト設定	57
デフォルト設定をクライアント・ワークステーションに渡す	58
グループまたは個々のクライアント・ワークステーションの構成	58
第5章 手順	61
バックアップ、リストア、およびミラー設定の処理	62
バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成	62
バックアップ、リストア、およびミラーのグループ設定の作成	65
バックアップ、リストア、およびミラーのクライアント設定の作成	66
SMART Reaction データベースへの新規クライアントの追加	67
SMART Reaction データベースからのクライアントの削除	68
グループ設定へのクライアントの追加	69
既存のクライアント設定の変更	69
ハード・ディスクのバックアップ、ミラー、およびリストア	70
ハード・ディスクのバックアップ	70
ハード・ディスクのミラーリング	70
ハード・ディスクのリストア	71
ハード・ディスクのバックアップ・ファイルのリストア	71
ハード・ディスク・ミラー・ファイルのリストア	72
SMART Reaction マネージャー・パスワードの変更	72
プロファイルの処理	73
ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成	73
ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成	74
電子メール・プロファイルの作成	75
Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成	76

Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成	77
Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成	78
Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成	79
既存プロファイルの変更	80
プロファイルの削除	80
応答へのプロファイルの割り当て	81
スケジュールの処理	81
イベントのスケジューリング	81
イベントのスケジュール解除	82
スケジュールされたイベントの表示	82
第6章 障害追及のヒント	85
第7章 特記事項と商標	87
特記事項	87
商標	87
索引	89

本書について

本書は、SMART Reaction マネージャーのセットアップと維持を行うネットワーク管理者および SMART Reaction クライアントをインストールするか、SMART Reaction クライアントの設定を変更する必要があるクライアント・ワークステーションのエンド・ユーザーを対象にしています。

本書の情報は、以下の章に分かれています。

- 第1章、『SMART Reaction の概説』には、プロダクトの高度な説明、その使用法、前提条件、およびプロダクトを入手する方法が記載されています。
- 第2章、『SMART Reaction のインストールおよび開始』では、Windows NT および Windows 95 の準備、SMART Reaction マネージャーおよび SMART Reaction クライアントのインストール、およびプログラムの開始についてのステップ・バイ・ステップの指示を記載します。
- 第3章、『SMART Reaction インターフェース』では、インターフェースで使用されるさまざまなウィンドウ、ノートブック、およびフィールドを説明します。
- 第4章、『SMART Reaction マネージャー構成の理解』では、SMART Reaction 構成の概要ならびに SMART Reaction マネージャー、SMART Reaction クライアント、およびオペレーティング・システムのネットワーク・ファンクションの相互依存性を記載します。
- 第5章、『手順』では、最も一般的な SMART Reaction プロシージャを実行するためのステップ・バイ・ステップの手順を記載します。
- 第6章、『障害追及のヒント』では、発生しうる問題の解決に役立つ情報を提供します。

特記事項と商標のセクションおよび索引も記載されています。

SMART Reaction に関する最新の技術補足情報などについては、次の WWW アドレスを参照してください。

<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/sr>

第1章 SMART Reaction の概説

サーバーに常駐するデータを保護するための安全機能をインプリメントするのに多大な時間、努力、および計画が投入されます。しかし、統計的には、スプレッドシート、電子メール、およびその他の重要な文書などのミッション・クリティカルなデータの 2/3 までがサーバーには保管されず、エンタープライズのあちこちに散在するワークステーションに保管されています。これらのファイルを保護する集中自動化されたメソッドがない場合は、ユーザーが通常、データをバックアップする責任を負うことになります。そして率直に言って、あらゆるエンド・ユーザーがこの責任を十分に意識しているとは限りません。データが毎日バックアップされる場合であっても、せいぜい望むことができるのは、バックアップ時に存在していたデータのスナップショットにすぎません。バックアップ操作間でのデータへの変更は、ハード・ディスクの障害が発生したりすると失われます。

Predictive Failure Analysis (予測的障害分析)

IBM IntelliStation および PC 300 シリーズのコンピューターは、内蔵 Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (自己監視、分析、および報告テクノロジー) (S.M.A.R.T.) を搭載したハード・ディスク・ドライブを使用して、ドライブの状況を監視し、ドライブ内に潜在的な障害が存在する場合には Predictive Failure Analysis (PFA) (予測的障害分析) アラートを生成します。SMART Reaction はこれらのアラートを代行受信し、それらを有用な応答に変換します。SMART Reaction は、以下の任意の組み合わせを行うことにより、PFA アラートに応答することができます。

- ワークステーションで画面メッセージを表示する
- ネットワーク管理者または部門の責任者などの関係者に、特定のワークステーションに潜在的なハード・ディスク障害があることをアラートで知らせる。これらのアラートは、電子メールのメッセージの形で、またはポケットベル・システムを通じて英数字ページまたは数字ページとして送ることができます。
- 自動バックアップまたはミラーリング操作を実行する。
- エンド・ユーザーにデータを即時にバックアップするのか、バックアップをキャンセルするのかの選択を与える。
- コンピューターにインストールされたプログラムがあればそれを開始する。

バックアップとミラーリング

PFA アラートに応答することに加えて、SMART Reaction には以下の重要な機能があります。

- 最大 64 の指定されたフォルダーのコンテンツを動的にミラーリングする、内蔵されたハード・ディスク・ミラーリング・プログラム。元のファイルが保管されたとき、ミラーリングされたファイルは、同じデータを含むように自動的に更新されます。
- バックアップ・プログラムとして必要な諸機能。
- ハード・ディスク・バックアップまたはミラー操作の汎用スケジューラー。

SMART Reaction インターフェースでは、IBM ADSTAR Distributed Storage Manager (ADSM) など、コマンド行引き数によって呼び出すことができる外部のバックアップ、およびミラーリング・プログラムを起動することができます。

バックアップおよびミラーリングされたファイルは、サーバー、ピア・ワークステーション、または個別のローカル・ハード・ディスクに保管することができます。

バックアップ機能

SMART Reaction バックアップ・プログラムは、Windows NT Server、Windows NT Workstation、および Windows 95 環境用のバックアップおよび復元プログラムです。このプログラムを使用して、ロック・ファイル (バックアップ・プロセス中にオープンしているファイル) を除く完全なバックアップ操作または部分的バックアップ操作を行うことができます。

注: 部分的バックアップ操作を行うと、フォルダー内のファイル、またはアプリケーション・プログラムの .INI ファイル内に定義されたパス名とレジストリーとの同期が外れるかもしれません。したがって、部分的バックアップ操作を実行することは、あまり重要でないかもしれません。

SMART Reaction Backup プログラムは、ファイルの保全性を保証する次の 2 つの手段も提供します。

- オペレーティング・システムによるファイルの書き込み検査機能を使用可能にする。
- バックアップ操作中の検査プロセスを使用可能にする。この機能は、バックアップ・ディスクに書き込まれるファイルをバックアップされているコンピューター上の元のソース・ファイルと比較します。この検査プロセスは、余分の読み書きサイクルを追加するので、バックアップ操作をスローダウンすることがあります。

ミラーリング機能

SMART Reaction ミラーリング・プログラムを使って、最大 64 の選択されたフォルダーのコンテンツをミラーリングすることができます。ただし、各フォルダーおよびサブフォルダーは独立して定義する必要があります。サブフォルダーは、それより高いレベルのフォルダーが定義される場合は、自動的に組み込まれるわけではありません。ファイルは次の 2 つの方法でミラーリングすることができます。

- 連続モードでは、ソース・ドライブ上の選択されたフォルダー内のファイルのファイル属性が変更されたとき、ミラー・ドライブ上でも同じ変更を即時に生じさせます。これには、ファイルの保管、フォルダーとの間でのファイルの移動、またはファイルの削除などの変更が含まれます。このモードは、動的に変化する、ミッション・クリティカルなデータにおける変更を取り込むよう設計されています。ハード・ディスク障害の場合、別のワークステーションからアクセスすることにより、ミラー・ドライブ上のデータを即時に回復することができます。
- 非連続モードでは、エンド・ユーザーがミラー・ファイルの作成とミラーリング・プロセスの開始の時期を決めるか、ミラーリング・プロセスが SMART Reaction スケジューラーによって開始されます。ミラー・ファイルは、ソース・ファイルの "スナップショット" であり、次のミラーリング・プロセスが開始されるまでは再び更新されません。

SMART Reaction Mirroring プログラムは、ファイルの保全性を保証する次の 2 つのメソッドも提供します。

- オペレーティング・システムによるファイルの書き込み検査機能を使用可能にする。
- ミラーリング操作中の検査プロセスを使用可能にする。この機能は、ミラー・ディスクに書き込まれるファイルをミラーリングされているコンピューター上の元のソース・ファイルと比較します。この検査プロセスは、余分の読み書きサイクルを追加するので、ミラーリング操作をスローダウンすることがあります。

ミラーリングはオープンまたはロックしたファイルを保護することができないことにも注意してください。たとえば、保存コマンドがないデータベース・アプリケーションを使用している場合は、データベース・ファイルがミラー・ドライブにコピーされる前にアプリケーションをクローズする必要があります。 .INI ファイルなどのアプリケーションによって使用されるファイルは、アプリケーションが実行されている限りロックされ、アプリケーションをクローズするまでミラーリングすることができません。

ミラーリング機能とバックアップ機能の結合

日常の定期的なバックアップ操作を SMART Reaction の連続モード・ミラーリング機能と結合することにより、データをほとんど失うことなくハード・ディスク障害から回復することができます。ハード・ディスク障害の場合、正しく構成されたピア・ワークステーションは、障害を起こしたハード・ディスクが交換されるまで、ミラー・ドライブからミッション・クリティカル・ファイルにアクセスすることができます。障害を起こしたハード・ディスクが交換されると、影響を受けたワークステーションは、以下のことを行うことにより復元することができます。

1. 基本オペレーティング・システムを再インストールする。
2. SMART Reaction クライアントを再インストールする。
3. SMART Reaction バックアップ/リストア・プログラムを起動して、最後のバックアップ操作時に取り込まれたデータを復元する。
4. SMART Reaction ミラー/リストア・プログラムを起動し、ミラー・ドライブから最新のミッション・クリティカル・ファイルを復元することにより、コンピューターのデータを最新にする。

SMART Reaction プログラムは、ミラー・ファイルとバックアップ・ファイルの両方を圧縮形式で保管することができるので、必要な記憶スペースの量を約 50% 減らすことができます。ただし、圧縮形式で保管されたデータは、最初に SMART Reaction Restore プログラムを使用してデータを解凍された状態に復元しないと、ネットワーク上のどのコンピューターもそれを使用できません。

フォルダーの構造

SMART Reaction がバックアップまたはミラー操作を実行するとき、サーバーまたはピア・ワークステーション上の共用フォルダーのもとでクライアント・ワークステーション用のフォルダーを自動的に作成します。SMART Reaction は、フォルダーを識別するのにクライアント・ワークステーションのコンピューター名を使用します。実行されるバックアップまたはミラー操作のタイプに応じて、SMART Reaction は、以下の名前をもつサブフォルダーの集合を作成します。

- Cm: 論理ドライブ C 用のミラー・フォルダー
- Dm: 論理ドライブ D 用のミラー・フォルダー
- Cb: 論理ドライブ C 用のパス・バックアップ・フォルダー
- Db: 論理ドライブ D 用のパス・バックアップ・フォルダー
- Cd: 論理ドライブ C 用の PFA バックアップ・フォルダー
- Dd: 論理ドライブ D 用の PFA バックアップ・フォルダー

注: フォルダー名の最初の文字は、バックアップまたはミラーリングされた論理ドライブのドライブ名を示しています。ドライブ名は、ここに示されている C と D 以外のものであっても構いません。フォルダー名の 2 番目の文字は、データをフォルダーに入れるのに使用されるプロセスを反映しています (m=ミラーリング、b=パス・バックアップ、d=PFA バックアップ)。

パス・バックアップ操作は、エンド・ユーザーまたはスケジューラーによって開始される日常のバックアップです。コントロールとステータス・ノートブックの Backup (バックアップ) ページの情報は、どのフォルダーがバックアップされるかを決定します。詳細については、38ページの『バックアップ・ページ - コントロールとステータス・ノートブック』を参照してください。パス・バックアップは、定義されたフォルダーの集合または全論理ドライブのコンテンツを含むことができます。これは、複数の論理ドライブ (区画) および物理ドライブにまたがることもできます。パス・バックアップが開始されるたびに、サブフォルダー (cb、db など) 内のすべてのデータが削除され、新規のバックアップ・データで置き換えられます。

PFA バックアップ操作は、PFA アラートにより起動されます。影響を受けた物理ドライブ上のすべてのデータが、物理ドライブが含む論理ドライブの数とは無関係にバックアップされます。PFA バックアップが開始されるたびに、サブフォルダー (Cd、Dd など) 内のすべてのデータが削除され、新規のバックアップ・データで置き換えられます。

以下は、2 つのクライアント・ワークステーションについてのフォルダー構造の例です。最初のワークステーション用のフォルダーである computer_name_1 は、ミラーリング、パス・バックアップ、および PFA バックアップ操作のサブフォルダーを含んでいます。computer_name_2 用のフォルダーは、パス・バックアップ操作のフォルダーしか含んでいません。

```
shared_folder-|
|-computer_name_1-|
|   |-Cm-|
|   |   |-mirrored_folder_1
|   |   |-mirrored_folder_2
|   |   |-mirrored_folder_3
|   |
|   |   |-Dm-|
|   |   |   |-mirrored_folder_4
|   |   |   |-mirrored_folder_5
|   |
|   |   |-Cb-|
|   |   |   |-path_backup_folder_1
|   |   |   |-path_backup_folder_2
|   |
|   |   |-Cb-|
|   |   |   |-path_backup_folder_3
|   |   |   |-path_backup_folder_4
|   |
|   |   |-Cd-|
|   |   |   |-PFA_backup_all_folders
|   |
|   |   |-Dd-|
|   |   |   |-PFA_backup_all_folders
|
|-computer_name_2-|
|   |-Cb-|
|   |   |-path_backup_folder_1
|   |   |-path_backup_folder_2
```

クライアントとサーバーの関係

SMART Reaction プログラムは、次の 2 つの部分から構成されます。

- SMART Reaction マネージャー。これはサーバーまたはピア・ワークステーション上に常駐します。
- SMART Reaction クライアント。これは、バックアップ、ミラーリング、またはメッセージ交換機能を使用する各クライアント・ワークステーション上に常駐します。

SMART Reaction マネージャーは、SMART Reaction クライアントと同じ機能をすべて持ちますが、ネットワーク管理者が以下のことを行えるようにする管理機能も持っています。

- 選択された SMART Reaction 機能へのエンド・ユーザーのアクセスするのを制限する。
- バックアップ、復元、およびミラーリング構成をリモートからセットアップする。

SMART Reaction マネージャーを通じてのバックアップ、復元、およびミラーリング構成のリモートからのセットアップは、SMART Reaction の部分として納入される SMART Reaction Backup、Restore、および Mirroring プログラムに制限されます。IBM ADSM またはその他のバックアップ・プログラムを使用する場合には、SMART Reaction マネージャー・インターフェースを通じて構成をリモートからセットアップすることはできません。

本質的に、内蔵された Backup、Restore、および Mirroring プログラムに関連するすべての操作は、SMART Reaction クライアントによって行われます。ネットワーク管理者が SMART Reaction マネージャーを使用して、バックアップ、リストア、またはミラー操作を開始する場合、これは実際に SMART Reaction クライアントに操作を実行することを命令しています。ファイルは、SMART Reaction マネージャーを実行するコンピューターをパススルーせず、バックアップまたはミラーリング・データを保存するために使用されるコンピューターに直接送られます。

SMART Reaction 機能への制御されたユーザー・アクセス

SMART Reaction マネージャーの複数のコピーが同じネットワーク内で常駐することができます。SMART Reaction マネージャーの各コピーには、それがインストールされる時に固有な名前が与えられます。SMART Reaction クライアントがインストールされる時、それにも固有な名前が与えられ、特定の SMART Reaction マネージャーに割り当てられます。

SMART Reaction マネージャーを使用して、以下のことを行うことができます。

- 個別のグループ上で、またはグローバル・ベースで、バックアップ、ミラーリング、および復元の構成を作成する。構成が作成された後、SMART Reaction マネージャー・プログラムは構成を、影響を受けるクライアント・ワークステーションに渡します。これにより、サポート・スタッフは、エンド・ユーザーの介入なしに、バックアップ、ミラー、およびリストア・プロセスを制御することができます。
- 選択された SMART Reaction クライアント機能へのエンド・ユーザーのアクセスを制限する。管理者は、SMART Reaction Backup、Restore、および Mirror プログラムのどの機能にエンド・ユーザーがアクセスできるかを選択することができます。たとえば、管理者はエンド・ユーザーにミラーリングされるフォルダーのリストにフォルダー名を追加する機能を与えたいが、エンド・ユーザーが使用できるサーバー・ディスク・スペースの最大容量に対する制御は管理者だけにしたい場合があります。あるいは、管理者がエンド・ユーザーから SMART Reaction クライアント機能をすべてロックアウトすることにして、SMART Reaction Backup、Restore、および Mirror プログラムのすべての局面をリモートから制御したい場合があります。

配布方法

SMART Reaction マネージャーは、WWW から自己解凍形式の実行可能ファイルとして入手可能です。

SMART Reaction クライアントは、次の 2 つの方法で入手可能です。

- IBM PC 300 GL モデル 6561 および 6591 を除く、すべてのサポートされているモデルについて、SMART Reaction クライアントは、ClientCare プログラムの一部として *Ready-to-Configure Utility Program CD* に入れて用意されています。ClientCare は、これらのモデルではインストール済みのソフトウェア・パッケージの一部でもあります。SMART Reaction クライアントは、ClientCare とは別個にインストールすることはできません。
- IBM PC 300 GL モデル 6561 および 6591 の場合のみ、SMART Reaction クライアントは、WWW 上でダウンロード可能な、自己解凍形式の実行可能ファイルとして入手可能です。

SMART Reaction クライアントとマネージャーの両方の WWW アドレスは次のとおりです。

<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/sr>

操作環境

SMART Reaction プログラム (Client および Manager) は、ネットワーク環境で使用するように設計されています。

前提条件 - SMART Reaction マネージャー

- SMART Reaction マネージャー・プログラムは、次のいずれかにインストールすることができます。
 - Windows NT Server 4.0 (Service Pack 3 適用済) サーバー
 - または -
 - Windows NT Workstation 4.0 (Service Pack 3 適用済)、または Windows 95 (OSR 2) ピア・ワークステーション
- SMART Reaction マネージャーがインストールされるコンピューターでは、TCP/IP ネットワーキングが使用可能にされている必要があります。SMART Reaction は、クライアント・ワークステーションと通信するのに TCP/IP を使用します。
- バックアップおよびミラーリング・データを保管するために使用されるサーバーまたはピア・ワークステーションは、バックアップまたはミラーリング・データに使用されるドライブまたはフォルダーがファイル共有として構成されている必要があります。TCP/IP ネットワーキングも使用可能にされている必要があります。
- SMART Reaction マネージャーを実行する際、少なくとも 32 MB のメモリーおよび 20 MB の空きディスク・スペースが必要です。
- バックアップまたはミラーリングされるファイルを保持するために、ネットワーク上に十分なディスク・スペースを予約することも必要です。

前提条件 - SMART Reaction クライアント

SMART Reaction クライアント・プログラムは、次のいずれかを実行するクライアント・ワークステーション上にインストールすることができます。

- Windows NT Workstation 4.0 (Service Pack 3 適用済)
- または -
- Windows 95 (OSR 2)

インストールの前に

- SMART Reaction クライアントをクライアント・ワークステーションにインストールする前に、SMART Reaction マネージャーをインストールし、それをネットワーク上の少なくとも 1 つのコンピューター (サーバーまたはピア・ワークステーション) で実行させておく必要があります。
- 各クライアント・ワークステーションをアクティブなネットワークに接続し、それを SMART Reaction マネージャーを実行するサーバーまたはピア・ワークステーションを識別するように構成する必要があります。ネットワークングを使用可能にし、TCP/IP サポートをインストールしておく必要があります。
- ワークステーションにサービスする SMART Reaction マネージャー・プログラムに割り当てられた名前を知る必要があります。ネットワーク上に SMART Reaction マネージャーの 2 つ以上のコピーをインストールしても構いませんが、各コピーは固有の名前を持つ必要があります。正しい名前については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- SMART Reaction クライアントの電子メール機能を使用する各クライアント・ワークステーションに Windows Messaging をインストールする必要があります。

- SMART Reaction のポケットベル機能を使用する予定の場合は、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 上の少なくとも 1 つのコンピューターがモデムを備える必要があります。

第2章 SMART Reaction のインストールおよび開始

SMART Reaction クライアントまたは SMART Reaction マネージャーのいずれかをインストールする前に、以下の点に注意してください。

- SMART Reaction クライアントをインストールする前に、SMART Reaction マネージャーをインストールし、構成し、実行させておく必要があります。
- SMART Reaction マネージャーは、WWW を通じてのみ配布されます。ご使用のモデルに応じて、SMART Reaction クライアントは、WWW を通じて、またはコンピューターと共に提供される *Ready-to-Configure Utility Program CD* 上の ClientCare パッケージの一部として配布されます。詳細については、5ページの『配布方法』を参照してください。
- SMART Reaction クライアントは、そのインストール・ルーチンの間にモデルの検査を行います。古いバージョンの SMART Reaction クライアントは、そのバージョンの SMART Reaction クライアント (または ClientCare) が入手可能にされた以降に発表されたモデルでは機能しない場合があります。
- インストール手順の一部として、SMART Reaction クライアントおよび SMART Reaction マネージャーは、Desktop Management Interface (DMI) バージョン 2.0 以降の存在を検査します。DMI がいない場合、インストール・プログラムが DMI をインストールします。それより前のバージョンがある場合、インストール・プログラムは DMI をバージョン 2.0 に更新し、既存の DMI データベースをそのまま残します。
- Windows NT で使用する場合、SMART Reaction をインストールできるのは、(ローカルまたはドメインの) 管理者権限をもったユーザーだけです。また、インストールを行ったユーザーのスタートメニューにだけ (下記注参照)、SMART Reaction のショートカットが作成されます。システム管理者は、そのシステム管理方針に基づき、SMART Reaction を実行する必要がある各ユーザーのユーザー・プロファイルを編集する必要があります。

注: SMART Reaction マネージャーまたは SMART Reaction クライアントをインストールしたときに、SMART Reaction を起動するためのショートカットは、以下の 2 つのフォルダーの中に作成されます。

C:\¥(a)\¥Profiles¥(b)\¥スタートメニュー¥プログラム¥SMART Reaction¥

C:\¥(a)\¥Profiles¥(b)\¥スタートメニュー¥プログラム¥スタートアップ¥

(a) は Windows NT システムがインストールされているディレクトリー
(通常は、"Winnt" または "Winnt40")

(b) は SMART Reaction のインストールを行ったユーザー名

この章では、SMART Reaction マネージャーおよび SMART Reaction クライアントをインストールして開始する方法について説明します。以下の目次を使用して、関係のある手順を見つけてください。

SMART Reaction マネージャーのインストール	11
Windows NT でフォルダーを共有可能にする	12
Windows 95 でフォルダーを共有可能にする	13
SMART Reaction クライアントのインストール	14
クライアント・ワークステーションの準備	14
Windows 95 クライアント・ワークステーションの準備	14
Windows NT クライアント・ワークステーションの準備	16
Windows Networking のインストール	16
SMART Reaction クライアント・プログラムのインストール	18
Web に基づくバージョンのインストール	19
ClientCare のインストール	19
SMART Reaction クライアントの初めての開始	20

スタートアップ・フォルダーからの SMART Reaction の削除	21
SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始	22
スタートメニューからの SMART Reaction の開始	22

SMART Reaction マネージャーのインストール

SMART Reaction マネージャーをインストールする手順は次のとおりです。

1. SMART Reaction マネージャー・インストール・ファイルを WWW からダウンロードし、SMART Reaction マネージャーをインストールするフォルダーに入れます。
2. 自己解凍形式の実行可能ファイル SMARTM.EXE を実行し、ファイルを解凍します。これらはインストール・ファイルで、後ほどのステップで使用するセットアップ・ファイル SETUPSMLI.EXE が含まれています。
3. ネットワーク上にドメイン・コントローラーがある場合、ドメイン・コントローラー上に SRMGR という名前の共用フォルダーを作成します。バックアップのドメイン・コントローラーがある場合は、そこにも共用 SRMGR フォルダーを作成します。SMART Reaction は、インストール・プロセス時に SRMGR フォルダーにいくつかのファイルをインストールします。
4. オープンしたウィンドウおよびプログラムをすべてクローズします。
5. デスクトップから、スタート をクリックします。
6. ファイル名を指定して実行 をクリックします。
7. SETUPSMLI.EXE ファイルへのパスを入力し、次に **OK** をクリックします。
8. Installation Wizard (インストール・ウィザード) が表示されます。

注: ネットワーク上にドメイン・コントローラーがない場合は、「プライマリドメインコントローラーのマネージャリストにコンピュータ名を追加するのに失敗しました。」というメッセージが表示されることがあります。メッセージを無視し、次 をクリックして続きます。

画面の指示に従い、SMART Reaction マネージャーを希望のロケーションにインストールします。デフォルトのロケーションは、C:\SRMGR です。インストール手順中に、SMART Reaction マネージャー用のパスワードを作成するよう求められます。このパスワードの最大長は 32 文字です。パスワードをメモし、将来参照するときのためにそれを安全な場所に保管しておきます。パスワードなしに SMART Reaction マネージャーを開始することはできません。

注: インストール先をデフォルト以外にした場合には、インストール先のフォルダーを共有可能に設定してください。

インストールが完了すると、Windows を再始動するようプロンプトで指示されます。

インストール Wizard (ウィザード) は、SMART Reaction マネージャーに Network (ネットワーク) ノートブック (Control Panel (制御パネル) を通じてアクセス可能) の Identification (識別) タブで定義された コンピューター名 で名前を付け、SMART Reaction マネージャーを Startup (始動) フォルダーに追加します。オペレーティング・システムが再始動されるたびに、SMART Reaction はパスワードを入力するよう求めます。パスワード・フィールドをクリックし、SMART Reaction マネージャー・パスワードを入力し、次に **OK** (了解) をクリックします。SMART Reaction クライアントを初めてインストールし、開始する場合は、SMART Reaction マネージャーが実行されている必要があります。

注: SMART Reaction マネージャーが連続的に実行されていなくても、SMART Reaction クライアントを使用することは可能ですが、状況メッセージを見ることはできず、エラーの記録が使用不可にされます。詳細については、21ページの『スタートアップ・フォルダーからの SMART Reaction の削除』を参照してください。

次に行うこと:

各サーバーおよびピア・ワークステーションで、バックアップおよびミラーリング・データを保管するために使用するフォルダーを共有可能となるように設定する必要があります。以下を参照してください。

- 12ページの『Windows NT でフォルダーを共有可能にする』
- 13ページの『Windows 95 でフォルダーを共有可能にする』

フォルダーを共有可能にした後、SMART Reaction マネージャーを使用して、デフォルトのバックアップ、ミラー、およびリストアの設定のセットを作成します。これは、個々のクライアント・ワークステーションに SMART Reaction クライアントをインストールする *前* に行う必要があります。SMART Reaction クライアントのインストール・プロセス中、このプログラムはクライアントが割り当てられた SMART Reaction マネージャーを検索してから、SMART Reaction マネージャーによって提供された構成情報に基づいて SMART Reaction クライアント自身を自動的に構成します。SMART Reaction クライアントが SMART Reaction マネージャーとのコンタクトを行い、それを確認するよう *要求される* のは、このときだけです。指示については、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成』を参照してください。

Windows NT でフォルダーを共有可能にする

バックアップまたはミラーリング・プロセスから作成されたデータを保管するのに使用される Windows NT サーバーまたはピア・ワークステーションでは、この手順を使用してください。フォルダーを共有可能にする前に、ネットワークをインストールしておく必要があります。バックアップおよびミラーリング・データを保存するために使用するフォルダーまたはドライブを共有可能にし、次にゲスト・アカウントまたは該当するユーザー・アカウントが使用可能にされていることを確認してください。

1. Windows NT デスクトップから、スタート ボタンをクリックします。
2. **Programs** (プログラム) を選択します。
3. **Windows NT Explorer (Windows NT エクスプローラ)** をクリックします。

注: 以下のステップでは、バックアップまたはミラーリング・プロセスからのデータを保管するためのサブフォルダーを含む単一のドライブまたはフォルダーをセットアップします。サブフォルダーは、バックアップおよびミラーリング操作中に SMART Reaction プログラムによって自動的に作成されます。

この目的で新規フォルダーを作成する必要がある場合には、ここでそれを作成してから、続けて次のステップに進んでください。

4. 右マウス・ボタンを使用して、バックアップおよびミラーリング・データに共有されるドライブまたはフォルダーをクリックします。
5. **共有...** をクリックします。プロパティ・ウィンドウがオープンします。
6. **共有する** ラジオ・ボタンをクリックします。
7. **アクセス権** をクリックします。共有資源のアクセス権ウィンドウをオープンします。
8. **アクセス権の種類** フィールドで、ドロップダウン・リストを使用して **フルコントロール** を選択します。
9. **OK** をクリックします。ウィンドウがクローズします。
10. **Properties** (プロパティ) ウィンドウで **OK** をクリックします。
11. **Windows NT Explorer (Windows NT エクスプローラ)** をクローズします。
12. 次のようにして、ゲスト・アカウントまたは該当するユーザー・アカウントを使用可能にします。
 - a. Windows NT デスクトップから、スタート ボタンをクリックします。
 - b. **プログラム** を選択します。
 - c. **Administrator Tools (Common)** (管理ツール (共通)) を選択します。
 - d. **User Manager for Domains** (ドメイン ユーザー マネージャ) または **User Manager** (ユーザー マネージャ) をクリックします。

注: 個々のユーザー・ログオン ID を使用しており、新規ユーザー・アカウントを追加する必要がある場合には、ここでそれを行ってから、次のステップを続けてください。

- e. Username (ユーザー名) カラムで、**Guest** (または個々のユーザー・ログオン ID を使用している場合は該当するユーザー・アカウントの 1 つ) をダブルクリックします。
- f. アカウントを無効にする チェックボックスをチェック解除します。
- g. **OK** をクリックします。
- h. 個々のユーザー・ログオン ID を使用している場合には、適用可能なユーザー・アカウントごとにステップ 12e ~ 12g を繰り返します。
- i. User Manager (ユーザー・マネージャー) ウィンドウをクローズします。

注: ファイルを共有可能にするために追加のヘルプを必要とする場合は、Windows NT ヘルプ・システムおよび Windows NT 資料を参照してください。

Windows 95 でフォルダーを共有可能にする

バックアップまたはミラーリング操作から作成されたデータを保管するのに使用される Windows 95 ピア・ワークステーションでは、この手順を使用してください。バックアップおよびミラーリング・データを保管するのに使用されるフォルダーまたはドライブを共有可能にしてください。

1. Windows 95 デスクトップから、右マウス・ボタンを使用して任意のフォルダーをクリックしてから、プロパティを選択します。
2. 共有 のラベルが付いたタブを探します。
 - 共有 のラベルが付いたタブがある場合は、フォルダーをクローズし、次にステップ 3 に進みます。
 - 共有 のラベルが付いたタブがない場合には、以下のことを行います。
 - a. コントロール・パネルをオープンします (スタート → 設定 → コントロール・パネル)。
 - b. ネットワーク をダブルクリックします。
 - c. **Microsoft** ネットワーク クライアント をクリックし、それを強調表示します。
 - d. ファイルとプリンタの共有 をクリックします。
 - e. 「ファイルを共有できるようにする」というラベルが付いたボックスをチェックします。
 - f. **OK** をクリックします。
 - g. **OK** を再びクリックします。Network (ネットワーク) ウィンドウがクローズします。
 - h. 続けてステップ 3 に進みます。
3. エクスプローラをオープンします (スタート → プログラム → エクスプローラ)。
4. 右マウス・ボタンを使用して、バックアップおよびミラーリング・データに共有されるフォルダーまたはドライブの 1 つをクリックします。
5. 共有... をクリックします。
6. 共有 タブをクリックします。
7. 共有する ラジオ・ボタンをクリックします。
8. Share Name (共有名) (通常はフォルダー名で結構です) を入力します。
9. **OK** をクリックします。

10. 共有されるそれぞれのフォルダーまたはドライブごとにステップ 4 ~ 9 を繰り返します。

SMART Reaction クライアントのインストール

このインストール手順は、次の 2 つの部分に分かれています。

- 『クライアント・ワークステーションの準備』
- 18ページの『SMART Reaction クライアント・プログラムのインストール』

SMART Reaction クライアント・プログラムをインストールする前に、クライアントが正しく準備されていることが重要です。

クライアント・ワークステーションの準備

ワークステーションを準備するステップは、Windows 95 と Windows NT でやや異なっています。

- Windows 95 クライアントの場合は、『Windows 95 クライアント・ワークステーションの準備』を参照してください。
- Windows NT Workstation クライアントの場合は、16ページの『Windows NT クライアント・ワークステーションの準備』を参照してください。

Windows 95 クライアント・ワークステーションの準備

1. Windows 95 デスクトップから、スタート ボタンをクリックします。
2. **設定** を選択します。
3. **コントロール・パネル** をクリックします。
4. **ネットワーク** をダブルクリックします。
5. ネットワークの設定ページの **優先的にログオンする** ドロップ・ダウン・リスト・ボックスで **Microsoft ネットワーク クライアント** を選択します。
6. 同じくネットワークの設定ページで、インストールされるネットワーク・コンポーネントのリストに **TCP/IP** が組み込まれているか確認します。
 - TCP/IP がリストされている場合は、以下のことを行います。
 - a. **TCP/IP** をクリックして、それを強調表示させます。次に、**プロパティ** をクリックし、IP アドレスとサブネット・マスクが指定されているか確認します。これらが指定されていない場合には、ネットワーク管理者に問い合わせ、IP アドレスとサブネット・マスクを入手してから、提供されているフィールドにそれらを入力します。
 - b. **OK** をクリックします。
 - c. **ユーザー情報** タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループ、およびコンピュータの説明の各フィールドに有効な情報が入っているか確認します。これらのフィールドが空白の場合は、ネットワーク管理者にこれらのフィールドに入れる情報を問い合わせます。
 - d. **OK** をクリックします。

注: コンピューターを再始動するようプロンプトで指示されたら、**はい** を選択します。Windows 95 が変更を組み込んでいる間、Windows 95 デスクトップが再表示されるのに通常より少し長くなる場合があります。

- e. 18ページの『SMART Reaction クライアント・プログラムのインストール』に進みます。
- TCP/IP がリストされていない場合は、以下のことを行います。
 - a. 追加 をクリックします。
 - b. インストールするネットワーク構成ファイルのリストで プロトコル をクリックします。
 - c. **Add** (追加) をクリックします。
 - d. 製造元のリストをスクロールダウンし、**Microsoft** をクリックします。
 - e. ネットワーク・プロトコルのリストで **TCP/IP** をクリックします。
 - f. **OK** をクリックします。

注: ネットワーク・デバイス・ドライバーがまだインストールされていない場合は、デバイスの選択ウインドウが表示されます。次のいずれかを行います。

- ネットワーク・アダプターのメーカーをクリックし、アダプター・タイプをクリックしてから、**OK** をクリックします。
- または -
- ディスク使用 をクリックし、指示に従って、IBM またはネットワーク・アダプターのメーカーによって提供されたディスクからネットワーク・デバイス・ドライバーをインストールします。

現在のネットワーク構成リストに TCP/IP が表示されます。

- g. 現在のネットワーク構成リストをスクロールダウンし、**TCP/IP** をクリックします。
 - h. プロパティ ボタンをクリックします。
 - i. IP アドレス・タブをクリックします。
 - j. **IP** アドレスを指定 ラジオ・ボタンをクリックしてから、ネットワーク用の有効な IP アドレスとサブネット・マスク・アドレスを入力します。この情報は、ネットワーク管理者から入手することができます。
 - k. ゲートウェイ・タブをクリックします。
 - l. 新しいゲートウェイ フィールドにゲートウェイ・アドレスを入力してから、追加 をクリックします。ゲートウェイ・アドレスは、ネットワーク管理者から入手することができます。
 - m. **OK** をクリックします。
 - n. ユーザー情報 タブをクリックします。次に、提供されているフィールドにコンピューター名、ワークグループ、およびコンピューターの説明を入力します。この情報は、ネットワーク管理者から入手することができます。
 - o. **OK** をクリックします。
- 注: ユーザーの構成に応じて、Windows 95 CD を挿入するよう求めるメッセージが表示される場合があります。プロンプトで指示されたら、CD を CD-ROM ドライブに挿入してから、**OK** をクリックします。
- p. コンピューターを再始動するよう指示するメッセージが表示されます。**Yes** (はい) を選択します。Windows 95 が変更を組み込んでいる間、Windows 95 デスクトップが再表示されるのに通常より少し長くかかる場合があります。デスクトップが再表示されたら、18ページの『SMART Reaction クライアント・プログラムのインストール』に進みます。

Windows NT クライアント・ワークステーションの準備

1. Windows NT デスクトップから、スタート ボタンをクリックします。
2. 設定 を選択します。
3. **Control Panel** (コントロール・パネル) をクリックします。
4. **Network** (ネットワーク) をダブルクリックします。

注: Windows ネットワーキングがインストールされていないことを知らせ、ここでそれをインストールするか尋ねるメッセージが表示されたら、いいえ をクリックし、制御パネルをクローズします。それから、『Windows Networking のインストール』に進みます。

5. **Protocols** (プロトコル) タブをクリックします。
 - **TCP/IP** がリストされる場合は、識別タブをクリックし、コンピューター名およびワークグループ名が割り当てられているか確認します。これらのフィールドのいずれかがブランクである場合は、ネットワーク管理者に正しい情報を問い合わせ、それを該当するフィールドに入力します。
 - **TCP/IP** がリストされていない場合は、以下のことを行います。
 - a. **追加** をクリックします。
 - b. **TCP/IP Protocol (TCP/IP プロトコル)** をクリックします。
 - c. **OK** をクリックします。
 - d. DHCP を使用したいか尋ねられたら、使用しているネットワークにあわせて はい または いいえ をクリックします。確かでない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
 - e. Windows NT がファイルをコピーする必要があることをプロンプトで指示されたら、Windows NT CD を CD-ROM ドライブに挿入し、必要に応じてドライブ位置 (パス) を変更してから、**続行** をクリックします。
 - f. ファイルがコピーされた後、**バインド・タブ**をクリックします。
 - g. **バインド**の表示 フィールドを見つけ、**ドロップダウン・メニュー**から すべてのプロトコル を選択してから、**WINS クライアント (TCP/IP)** がリストされているか確認します。
 - h. **OK** をクリックします。コンピューターをシャットダウンして再始動したいか尋ねるメッセージが表示されたら、はい をクリックします。
6. 18ページの『SMART Reaction クライアント・プログラムのインストール』に進みます。

Windows Networking のインストール: 以下の指示は、Windows NT ワークステーションに Windows Networking をインストールするのを援助するために提供されています。これらの指示に従う必要があるのは、『Windows NT クライアント・ワークステーションの準備』の手順に従っているときに Windows Networking がインストールされていないことを発見した場合のみです。

この手順を開始する前に、以下の情報を知る必要があります。

- クライアント・ワークステーションにインストールされるネットワーク・アダプターまたはネットワーク・サブシステムのタイプ (メーカーおよびモデル)
- IP アドレス
- サブネット・マスク
- デフォルトのゲートウェイ
- ホスト名
- ドメイン

- DNS サーバー

この情報は、ネットワーク管理者から入手することができます。

ユーザーのネットワーク・アダプターおよびそれがどのように構成されているかに応じて、この手順で参照されていないいくつかの画面が表示される場合があります。この手順は、ユーザーからの情報を必要とするフィールドについての参照として使用してください。

Windows Networking をインストールする手順は次のとおりです。

1. Windows NT デスクトップから、スタート ボタンをクリックします。
 2. 設定 を選択します。
 3. コントロール・パネル をクリックします。
 4. ネットワーク をダブルクリックします。
 5. Windows ネットワーキングがインストールされていないことを知らせ、ここでそれをインストールするか尋ねるメッセージが表示されます。はい をクリックします。
 6. ネットワーク セットアップ ウィザード・ウィンドウが表示されたら、ネットワークに接続 が検査されているか確認してから、次 をクリックします。
 7. アダプターを選択するようプロンプトで指示されたら、検索開始 ボタンをクリックします。

注: ネットワーク・アダプターが見つからない場合は、一覧から選択 ボタンをクリックしてから、次のいずれかを行います。

 - 提供されたリストから一致するアダプターを選択してから、**OK** をクリックします。
 - または -
 - ディスク使用 をクリックし、画面の指示に従って、ディスクからネットワーク・デバイス・ドライバをインストールします。
 8. 次 をクリックします。
 9. **TCP/IP** プロトコル チェックボックスがチェックされているか確認してから、次 をクリックします。
 10. ネットワーク・サービスが表示されます。

注: 以下のことを行うことにより、そのほかのサービスを追加することができます。

 - a. 一覧から選択 をクリックします。
 - b. 必要な追加サービスのどれかをクリックします。
 - c. 次 をクリックします。
- 次 をクリックします。
11. Windows NT がネットワーキング・コンポーネントをインストールする準備ができていることを知らせるメッセージが表示されたら、次 をクリックします。
 12. ユーザーの現在の構成に応じて、Windows NT がファイルをコピーする必要があるというメッセージを受け取る場合があります。Windows NT CD を挿入し、必要に応じて、ドライブ位置 (パス) を変更してから、続行 をクリックします。
 13. 次のウィンドウで、続行 を再びクリックします。
 14. アダプターのプロパティ・ウィンドウが表示されたら、**OK** をクリックします。

15. TCP/IP Setup (TCP/IP セットアップ) ウィンドウが表示されたら、DHCP を使用するかどうか、ネットワークのセットアップに応じて はい または いいえ をクリックします。確かでない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
16. Microsoft TCP/IP プロパティ・ノートブックが表示されたら、以下のことを行ってください。この情報はネットワーク管理者から入手することができます。
 - a. IP Address (IP アドレス) ページで、**IP** アドレスを指定 ラジオ・ボタンをクリックしてから、IP アドレス、サブネット・マスク・アドレス、およびデフォルトのゲートウェイを入力します。
 - b. DNS ページでホスト名およびドメインを入力します。次に、追加 ボタンを使用して、DNS サービス検索順序 ボックスに DNS サーバーを追加します。
 - c. **OK** をクリックします。
17. Setup Wizard (セットアップ・ウィザード) ウィンドウで、次 をクリックし、再び 次 をクリックしてから、さらにもう一度 次 をクリックします。
18. 終了 をクリックします。
19. コンピューターを再始動するようプロンプトで指示されたら、はい をクリックします。

SMART Reaction クライアント・プログラムのインストール

開始する前に:

- クライアント・ワークステーションは正しく準備する必要があります。詳細については、14ページの『クライアント・ワークステーションの準備』を参照してください。
- ネットワーク管理者に問い合わせ、ユーザーにサービスすることになる SMART Reaction マネージャーの *名前* を確認してください。この情報は、この手順で後ほど必要になります。
- SMART Reaction クライアントが初めてインストールされて開始されるときには、ユーザーにサービスするために割り当てられている SMART Reaction マネージャーが実行されている必要があります。
- 正しいインストールおよび操作を保証するためには、クライアントに SMART Reaction クライアント・プログラムをインストールする *前*に、SMART Reaction マネージャーを使用して各クライアント・ワークステーションを構成してください。詳細については、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成』を参照してください。

重要: SMART Reaction クライアントは次の 2 つの方法で配布されます。

- WWW からダウンロード可能な、自己解凍形式の実行可能ファイルとして (モデル 6561 と 6591 のみ)。
- *Ready-to-Configure Utility Program CD* 上の ClientCare パッケージの一部として。

インストール手順は、これらの 2 つの配布方法で異なります。

- Web に基づくバージョンの場合は、19ページの『Web に基づくバージョンのインストール』を参照してください。
- CD に基づくバージョンの場合は、19ページの『ClientCare のインストール』を参照してください。

Web に基づくバージョンのインストール: SMART Reaction クライアントをインストールする手順は次のとおりです。

1. SMART Reaction クライアント・インストール・ファイルを WWW からダウンロードし、任意のインストール用フォルダーに入れます。
2. 自己解凍形式の実行可能ファイル SMARTC.EXE を実行し、ファイルをアンパックします。これらはインストール・ファイルで、後ほどのステップで使用するセットアップ・ファイル SETUPSC.EXE が含まれています。
3. オープンしたウィンドウおよびプログラムをすべてクローズします。
4. Windows デスクトップから、スタート ボタンをクリックします。
5. **Run** (ファイル名を指定して実行) をクリックします。
6. SETUPSC.EXE ファイルへのパスを入力し、次に **OK** をクリックします。
7. Installation Wizard (インストール・ウィザード) が表示されます。

- *Manager* の名前を入力するようプロンプトで指示されたら、クライアント・ワークステーションにサービスすることになる SMART Reaction マネージャーのマシン名を入力します。名前に確信が持てない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
- 画面の指示に従い、SMART Reaction クライアントを希望のロケーションにインストールします。デフォルトのロケーションは C:\\$SRCLIENT です。
- インストールが完了し、Windows を再始動するようプロンプトで指示されたら、**Yes** (はい) をクリックします。

インストール Wizard (ウィザード) は、SMART Reaction クライアントに対し Network (ネットワーク) ノートブック (Control Panel (コントロール・パネル) を通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ (Windows 95 の場合) で定義された コンピューター名 に一致する名前を割り当てます。また、これは SMART Reaction クライアントをスタートアップ・フォルダーに追加しますので、クライアント・ワークステーションが始動するたびに、SMART Reaction クライアントの部分が自動的に開始されます。

次に行うこと:

20ページの『SMART Reaction クライアントの初めての開始』に進みます。

ClientCare のインストール: ClientCare の一部としての SMART Reaction クライアントをインストールする手順は次のとおりです。

1. *Ready-to-Configure Utility Program CD* を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. Windows デスクトップから、スタート ボタンをクリックします。
3. **Run** (ファイル名を指定して実行) をクリックします。
4. *d:\\$SETUP* と入力します。

(ここで *d* とは、ユーザーの CD-ROM ドライブに割り当てられている文字です。)

次に、**OK (OK)** をクリックします。

タイトル画面が表示されます。

5. **次へ** をクリックします。メイン選択画面が表示されます。
6. アプリケーションとデバイス・ドライバの導入 をクリックします。プログラム・インストール画面が表示されます。

7. 左のボックスで、**IBM ClientCare Setup** をクリックしてから、**追加** をクリックします。**IBM ClientCare Setup** が右のボックスに移動します。
8. **次へ** をクリックし、画面の指示に従います。
9. インストール先の選択で IBM ClientCare のインストール・ディレクトリーを指定してください。デフォルトは C:\DMI です。次へをクリックしてください。
10. オプションの選択で SMART Reaction クライアントにマークがついていることを確認してください。

注: インストール・プロセス中に、SMART Reaction マネージャーの名前を提供するよう求められます。このクライアント・ワークステーションにサービスすることになる SMART Reaction マネージャーの名前を入力します。名前に確信が持てない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

11. インストールが完了し、Windows を再始動するようプロンプトで指示されたら、**はい** をクリックします。

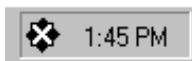
インストール Wizard (ウィザード) は、SMART Reaction クライアントに対しネットワーク・ノートブック (コントロール・パネルを通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ (Windows 95 の場合) で定義された **コンピューター名** に一致する名前を割り当てます。また、これは SMART Reaction クライアントをスタートアップ・フォルダーに追加しますので、クライアント・ワークステーションが始動するたびに、SMART Reaction クライアントの部分が自動的に開始されます。

次に行うこと:

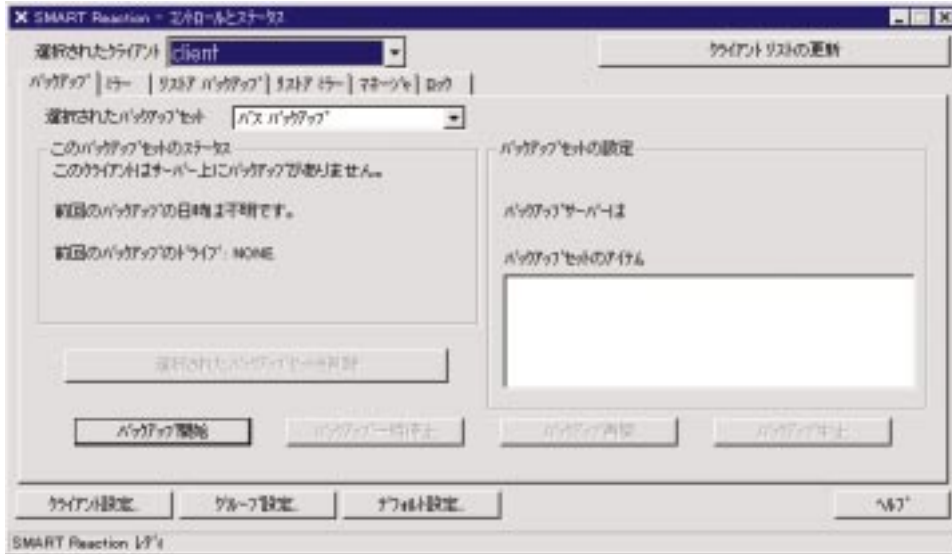
『SMART Reaction クライアントの初めての開始』に進みます。

SMART Reaction クライアントの初めての開始: SMART Reaction クライアントが初めて開始される時 (インストール・プロセスの後 Windows NT または Windows 95 が再始動される時)、それが割り当てられている SMART Reaction マネージャーを探し、構成を要求します。SMART Reaction マネージャーを見つけることができない場合、ロードを停止し、非アクティブになります。いったん SMART Reaction クライアントが SMART Reaction マネージャーとの接触を確立すると、それ以降の再始動ではもはや SMART Reaction マネージャーとの接触を確立する必要はなく、作動可能のままです。

SMART Reaction クライアントがスタートアップ・フォルダーから開始される時、これは最小化モードで開始され、System Tray (システム・トレイ) 内にアイコンを置き、それがアクティブであることを示します。



このアイコンをダブルクリックし、コントロールとステータス・ウィンドウを表示させます。



注: ここで表示されているウィンドウは、SMART Reaction マネージャーのもので、SMART Reaction クライアントでは、表示されているボタンとフィールドの一部がありません。

SMART Reaction バックアップ、リストア、およびミラー・プログラムを構成するには、このウィンドウを使用してください。これらのプログラムのどれかを使用する際、このウィンドウをクローズしないで、最小化してください。ウィンドウをクローズすると、SMART Reaction バックアップ、リストア、およびミラー・プログラムが使用不可にされます。

ウィンドウを最小化するには、タイトル・バーの最小化ボタンをクリックしてください。SMART Reaction クライアントが最小化されると、アイコンが System Tray (システム・トレイ) に残り、それがアクティブであることを表示します。また、アイコンは Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウに簡単にアクセスできるようにし、Alt+Tab のプログラム切り替えサイクルを使わずに済みます。

スタートアップ・フォルダーからの SMART Reaction の削除

何らかの理由で、SMART Reaction をスタートアップ・フォルダーから除去したい場合、以下のショートカットの 1 つを削除することにより、それを行うことができます。

- Windows 95:
c:\Windows\スタート メニュー\プログラム\スタートアップ\SMART Reaction マネージャ (またはクライアント)
- Windows NT ワークステーション:
c:\Winnt40\Profiles\%(インストールしたユーザー名)\スタート メニュー\プログラム\スタートアップ\SMART Reaction マネージャ (またはクライアント)
- Windows NT サーバー
c:\Winnt\Profiles\%(インストールしたユーザー名)\スタート メニュー\プログラム\スタートアップ\SMART Reaction マネージャ (またはクライアント)

SMART Reaction マネージャーまたは SMART Reaction クライアントを Startup (スタートアップ) フォルダーから除去した後に、それを再始動するには、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始

何らかの理由で Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウをクローズした後に、それを再度アクティブにするには、以下の手順を使用してください。

1. デスクトップから、**Start** (スタート) ボタンをクリックします。
2. **Programs** (プログラム) を選択します。
3. **SMART Reaction** を選択します。
4. どちらのバージョンのプログラムを実行しているかに応じて、**SMART Reaction** クライアント または **SMART Reaction** マネージャー を選択します。

SMART Reaction 応答の一覧ウィンドウが表示されます。

5. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。

SMART Response Configuration ノートブックが表示されます。

6. バックアップ/リストア/ミラー・タブをクリックします。
7. SMART Reaction Backup (SMART Reaction バックアップ) または SMART Reaction ミラーリング用のラジオ・ボタンをクリックします。
8. **Configure SMART Reaction** (SMART Reaction の構成) をクリックします。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

9. 最小化ボタンをクリックします。

ウィンドウは消えますが、アイコンが System Tray (システム・トレイ) に置かれ、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング) ファンクションがアクティブであることを表示します。

10. SMART Response Configuration ノートブックをクローズします。

スタートメニューからの SMART Reaction の開始

SMART Reaction のスケジューリング、メッセージング、およびプロファイルの部分 (Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ) にアクセスするには、以下のことを行います。

1. デスクトップから、**Start** (スタート) ボタンをクリックします。
2. **Programs** (プログラム) を選択します。
3. **SMART Reaction** を選択します。
4. どちらのバージョンのプログラムを実行しているかに応じて、**SMART Reaction** クライアント または **SMART Reaction** マネージャー を選択します。

SMART Reaction Response Summary (SMART Reaction 応答の一覧) ウィンドウが表示されます。

第3章 SMART Reaction インターフェース

SMART Reaction インターフェースには、次の 4 つの主なコンポーネントがあります。

- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ
- Configuration ノートブック
- Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウ
- Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウ

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウを除き、これらのコンポーネントは SMART Reaction マネージャーと SMART Reaction クライアントの両方で同じフィールドとファンクションを持ちます。SMART Reaction マネージャーでは、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウには次のものがあります。

- Group Settings... (グループ設定...) というラベルが付いた追加のボタン
- Default Settings... (デフォルト設定...) というラベルが付いた追加のボタン
- Refresh Client List (クライアント・リストの更新) というラベルが付いた追加のボタン
- Selected Client (選択されたクライアント) というラベルが付いた追加のフィールド

Group Settings... (グループ設定) と Default Settings... (デフォルト設定) ボタンにより、ネットワーク管理者は、それぞれ Group Settings (グループ設定) ノートブックと Default Settings (デフォルト設定) ノートブックにアクセスすることができます。これらのノートブックにより、ネットワーク管理者は、リモートから構成をバックアップ、リストア、およびミラーリングし、エンド・ユーザーがさまざまなフィールドおよびファンクションにアクセスするのを制限することができます。

これらのインターフェース・コンポーネントは大変似ているので、マネージャーとクライアント・インターフェースは一緒に説明し、必要に応じて相違点を指摘します。

SMART Reaction インターフェースを処理する際、念頭に置く必要がある重要な概念が少しあります。

- 応答は、SMART Reaction が PFA アラートまたはスケジュールされたイベントにどのように反応するかです。
- 以下の 6 つの応答が可能です。
 - 電子メール・メッセージを送信する (Microsoft Mail を通して)
 - 数字ポケットベル・メッセージを送信する
 - ハード・ディスクをバックアップ、リストア、またはミラーする
 - カスタム・プログラムを実行する (コマンドを発行することにより)
 - ローカル・ワークステーションでメッセージ・ボックスを表示する
- プロファイルには、特定の応答を実行するのに必要なすべての適切なデータが含まれ、各プロファイルには説明的な名前が割り当てられます。たとえば、ユーザーのスーパーバイザーまたはネットワーク管理者に電子メールを送信するために SMART Reaction をセットアップする場合、2 つのプロファイルを設定します。各プロファイルには適切な電子メール・アドレス、件名、cc: 情報、およびメッセージが含まれます。また、各プロファイルには、*Email administrator* や *Email supervisor* などの、ユーザーが選んだ固有な、説明的名前も含まれます。あるいは、これらは両方とも電子メール応答なので、共通のプロファイルを使用して、スーパーバイザーには電子メールを送信し、ネットワーク管理者にはコピー (cc:) を送信することもできます。
- プロファイルをいったん作成し、保存すると、スケジューラー・プロファイルを除き、プロファイルは自動的に応答に適用されます。
- バックアップまたはミラーリング操作のみスケジュールすることができます。他のすべての応答は、PFA アラートにより起動されます。

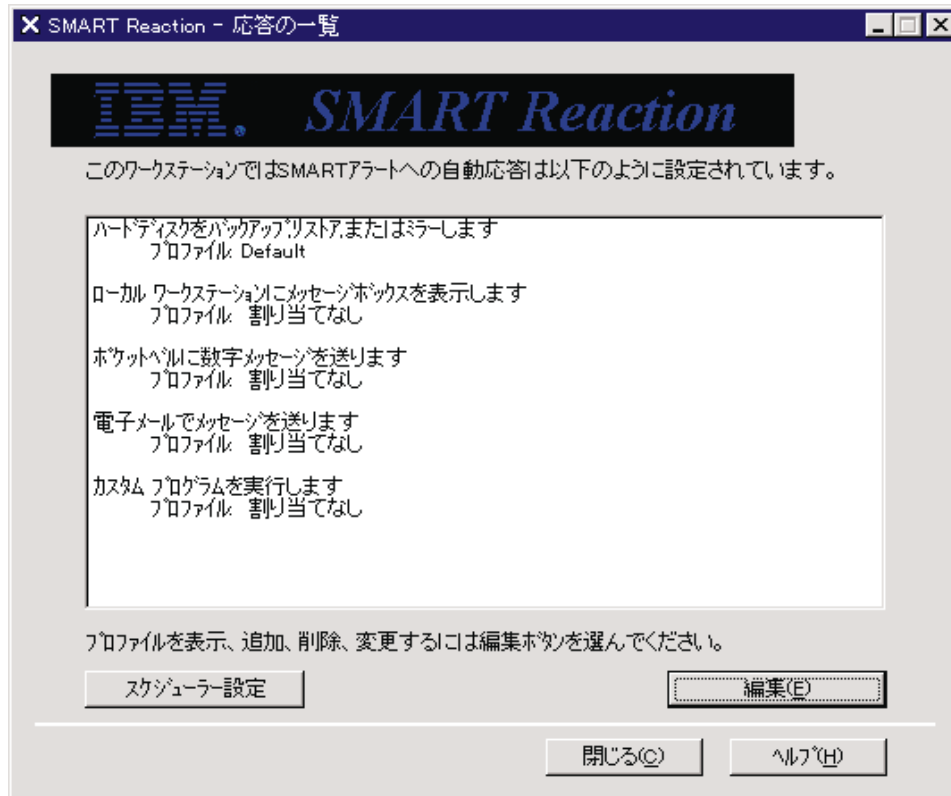
- スケジュールされたイベントを作成するには、Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウで *Scheduler profile* (スケジューラー・プロファイル) を *response profile* (バックアップ、ミラーリングのプロファイル) と関連付けます。
- SMART Reaction マネージャーは、SMART Reaction クライアント・バックアップ、リストア、およびミラー・ファンクションと関連付けられたすべてのプロセスを完全に制御します。ネットワーク管理者は、SMART Reaction マネージャーを使用して、バックアップ、リストア、およびミラー・ファンクションと関連付けられた、SMART Reaction クライアント内のフィールドまたはファンクションを使用可能または使用不可にすることができます。使用不可にされたフィールドはグレー化されます。したがって、SMART Reaction クライアントのユーザーは、本書で説明されている手順の一部を実行できない場合があります。

Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ

IBM SMART Reaction クライアントを Start (スタート) メニューから開始する場合、(ライセンス情報の画面の後で) 表示される最初の画面は、Response Summary (応答の一覧) ウィンドウです。Response Summary (応答の一覧) ウィンドウには、5 つの可能な応答および各応答に割り当てられたプロファイルのリストが含まれています。それに加えて、以下の 4 つのボタンが設けられています。

- Edit (編集) ボタン: このボタンは、Configuration ノートブックをオープンするのに使用します。このノートブックでは以下のことを行うことができます。
 - 新規プロファイルを作成する
 - 応答にプロファイルを割り当てる
 - 既存プロファイルを削除する
 - 既存プロファイルを変更する
- Configure Scheduler (スケジューラーの設定) ボタン: このボタンは、ハード・ディスクのバックアップまたはミラーリング操作をスケジュールまたはスケジュール解除するのに使用します。詳細については、81ページの『イベントのスケジューリング』を参照してください。
- 閉じる: このボタンは、Response Summary (応答の一覧) ウィンドウをクローズするのに使用します。このウィンドウをクローズしても、SMART Reaction バックアップ、ミラー、およびリストア・ファンクションがクローズされるわけではありません。
- Help (ヘルプ) ボタン: このボタンは、メッセージングおよびスケジューリング・ファンクションに関連したヘルプ・システムにアクセスするのに使用します。

次の画面は、プロファイルが割り当てられる前の Response Summary (応答の一覧) ウィンドウを表示しています。



Configuration ノートブック

Configuration ノートブックには、以下のページが含まれています。

- Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー): このページは、ハード・ディスクのバックアップ、リストア、またはミラー・プログラムを立ち上げるプロファイルを作成するのに使用します。詳細については、26ページの『Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) ページ』を参照してください。
- Custom Program (カスタム・プログラム): このページは、指定されたアプリケーション・プログラムを立ち上げるプロファイルを作成するのに使用します。詳細については、28ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) ページ』を参照してください。
- E-mail (電子メール): このページは、電子メール・メッセージを送信するプロファイルを作成するのに使用します。詳細については、29ページの『電子メール・ページ』を参照してください。
- Message Box (メッセージ・ボックス): このページは、ポップアップ・メッセージを表示するプロファイルを作成するのに使用します。詳細については、30ページの『メッセージ・ボックス・ページ』を参照してください。
- Numeric Pager (数字ポケットベル): このページは、ページング・システムをダイヤル呼び出しし、数字メッセージを伝送するプロファイルを作成するのに使用します。詳細については、32ページの『Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ』を参照してください。
- Scheduler (スケジューラー): このページは、バックアップまたはミラーリング・イベントが行われる特定の日付、時刻、および年、さらにそれが繰り返される場合は、そのイベントが行われる頻度を定義するプロファイルを作成するのに使用します。詳細については、33ページの『Scheduler (スケジューラー) ページ』を参照してください。

各ページには、同じセットのボタンが含まれています。

- 保存: このボタンは、新規プロファイルを作成するか、既存プロファイルを変更した後に、プロファイルを保管するのに使用します。いったんプロファイルを作成し、保存すると、Scheduler (スケジューラー) プロファイルを除き、プロファイルは適切な応答に自動的に割り当てられます。Scheduler (スケジューラー) プロファイルの使用法については、81ページの『イベントのスケジューリング』を参照してください。
- 名前を付けて保存: このボタンは、プロファイルを変更した後、それを新規の名前で保存するのに使用します。新規の名前で保存されたプロファイルは、Scheduler (スケジューラー) プロファイルを除き、適切な応答が自動的に割り当てられます。Scheduler (スケジューラー) プロファイルの使用法については、81ページの『イベントのスケジューリング』を参照してください。
- 新規作成: このボタンは、ページ上のすべてのフィールドをクリックし、新規プロファイル名を割り当てるのに使用します。
- 削除: このボタンは、既存プロファイルを削除するのに使用します。
- キャンセル: このボタンは、保存されない入力済みデータを削除するのに使用します。既存プロファイルを変更している場合は、すべてのフィールドは、プロファイルが最後に保存されたときに持っていた内容に戻されます。

Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) ページ

このページは、ハード・ディスクのバックアップ、リストア、またはミラー・プログラムを立ち上げるプロファイルを作成するのに使用します。

SMART Reaction - Configuration

バックアップ/リストア/ミラー | 電子メール | 数字ホックアップヘル | スケジューラー | カスタム プログラム | メッセージボックス

バックアップの方法を選択してください

ADSMパスワード

ADSM

プロファイル: Default

SMART Reaction バックアップ(B)

SMART Reaction ミラーリング(M)

その他(O)

SMART Reactionの構成(F)

バックアッププログラム

追加パラメータ

参照(R)

保存(S) | 名前を付けて保存(A) | 新規作成(N) | 削除(D) | キャンセル(C)

OK | キャンセル | ヘルプ

このページには、以下のコンポーネントが含まれます。

- **Profile (プロファイル):** このフィールドには、このページに表示されたプロパティ用のプロファイルの名前が入ります。このフィールドには情報を入力することはできません。新規プロファイルが作成され、保存されると、名前が自動的にこのフィールドに入ります。名前は 64 文字までに制限されます。別の既存プロファイルを選択するには、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ドロップダウン・リストのプロファイル名をクリックします。
- **バックアップ・アプリケーション選択ラジオ・ボタン:** (プロファイル当たり 1 つのラジオ・ボタンを選択することができます。)

- ADSM: このボタンを選択すると、SMART Reaction が IBM ADSTAR Distributed Storage Manager プログラムを使用するように構成されます。ADSM は SMART Reaction と共には提供されません。したがって、このボタンを使用する前に、ADSM をインストールして構成する必要があります。ADSM ラジオ・ボタンを選択すると、**ADSM** パスワード フィールドがアクティブになります。SMART Reaction が ADSM と相互作用する前に、このフィールドにユーザーの個別の ADSM パスワードを入力する必要があります。
- SMART Reaction Backup (SMART Reaction バックアップ): このボタンは、SMART Reaction と共に提供されるバックアップ・プログラムを選択します。このボタンを選択すると、Configure SMART Reaction (SMART Reaction の構成) ボタンがアクティブになります。Configure SMART Reaction (SMART Reaction の構成) ボタンをクリックすると、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。このウィンドウから SMART Reaction バックアップ・プログラムを構成することができます。
- SMART Reaction Mirroring (SMART Reaction ミラーリング): このボタンは、SMART Reaction と共に提供されるミラーリング・プログラムを選択します。このボタンを選択すると、SMART Reaction の構成ボタンがアクティブになります。SMART Reaction の構成ボタンをクリックすると、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。このウィンドウから SMART Reaction ミラーリング・プログラムを構成することができます。
- その他: このボタンは、コマンド行から開始させることができる、ユーザーの選んだ他のバックアップ、リストア、またはミラーリング・プログラムを選択します。このボタンを選択すると、**Backup Program** (バックアップ・プログラム) フィールド、**Additional Parameters** (追加パラメーター) フィールド、および参照ボタンがアクティブになります。

参照ボタンを使用して、ユーザー希望のプログラムを選択することができます。このプログラムは **Backup Program** (バックアップ・プログラム) フィールドに表示されます。次に、**Additional Parameters** (追加パラメーター) フィールドにあるプログラムによってサポートされる追加のコマンド行パラメーターを入力することができます。

- **Backup Program** (バックアップ・プログラム): このフィールドには、使用するバックアップ・プログラムの完全なパスとファイル名が入ります。パスとファイル名を入力するか、参照ボタンを使用してバックアップ・プログラムを見つけて選択することができます。このフィールドがアクティブであるのは、その他ラジオ・ボタンが選択されている場合のみです。
- **Additional Parameters** (追加パラメーター): このフィールドには、バックアップ・プログラムによって要求される追加のコマンド行パラメーターが入ります。詳細については、ユーザーのバックアップ・プログラムの資料を参照してください。

Backup (バックアップ) プロファイルと Mirror (ミラー) プロファイルは、それぞれ 1 つだけ作成することができます。

関連したトピック:

- 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
- 74ページの『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
- 80ページの『プロファイルの削除』
- 80ページの『既存プロファイルの変更』
- 36ページの『コントロールとステータス・ウィンドウ』

Custom Program (カスタム・プログラム) ページ

このページは、指定されたアプリケーション・プログラムを立ち上げるプロファイルを作成するのに使用します。

The screenshot shows the 'SMART Reaction - Configuration' dialog box with the 'Custom Program' tab selected. The dialog has a title bar with a close button (X). Below the title bar is a tabbed interface with tabs for 'バックアップ/リストア/ミラー', '電子メール', '数字ホックアップ', 'スケジューラ', 'カスタム プログラム', and 'メッセージボックス'. The main area contains the instruction '実行するプログラムを入力してください' (Please enter the program to be executed). It features a 'プロファイル:' dropdown menu, a 'パス/ファイル名:' text input field with a '参照(B)' button, and an '追加パラメータ' text input field. At the bottom, there are buttons for '保存(S)', '名前を付けて保存(A)', '新規作成(N)', '削除(R)', and 'キャンセル(C)'. A footer bar contains 'OK', 'キャンセル', and 'ヘルプ' buttons.

このページには、以下のフィールドが含まれます。

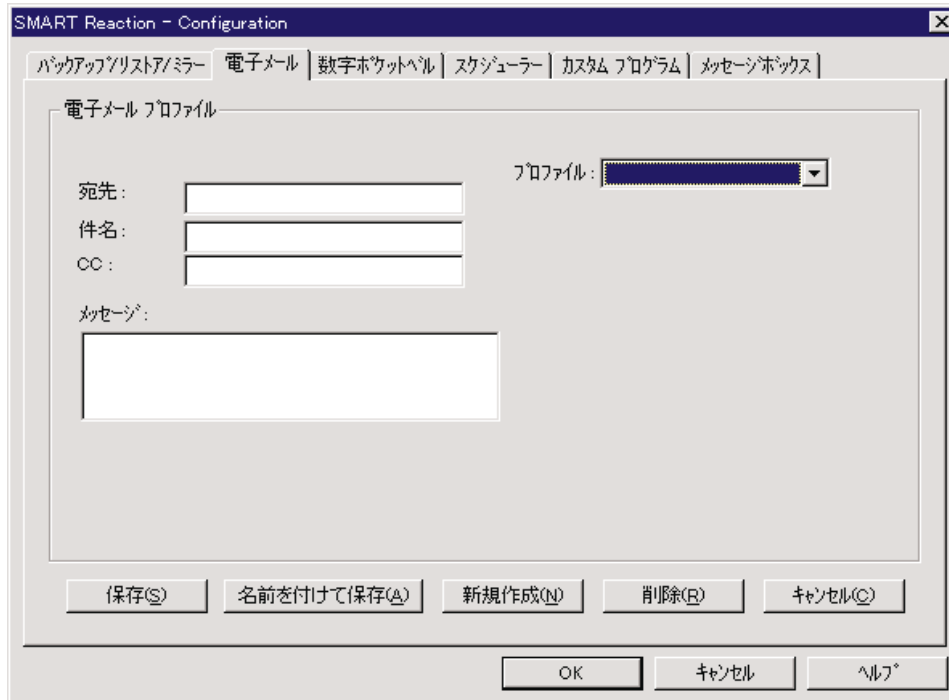
- **Profile (プロファイル):** このフィールドには、このページに表示されたプロパティ用のプロファイルの名前が入ります。このフィールドには情報を入力することはできません。新規プロファイルが作成され、保存されると、名前が自動的にこのフィールドに入ります。名前は 64 文字までに制限されます。別の既存プロファイルを選択するには、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ドロップダウン・リストのプロファイル名をクリックします。
- **Path and file name (パス/ファイル名):** このフィールドには、立ち上げるプログラムの完全なパスとファイル名が入ります。パスとファイル名を入力するか、参照ボタンを使用してプログラムを見つけて選択することができます。
- **Additional Parameters (追加パラメーター):** このフィールドには、選択したプログラムによって要求される追加のコマンド行パラメーターが入ります。詳細については、ユーザーのアプリケーション・プログラムの資料を参照してください。

関連したトピック

- 78ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』
- 80ページの『プロファイルの削除』
- 80ページの『既存プロファイルの変更』

電子メール・ページ

このページは、電子メール・メッセージを送信するプロファイルを作成するのに使用します。電子メール機能を使用するには、Microsoft Mail プログラムをインストールしておく必要があります。このページを初めて使用するとき、電子メール・ウィザードが、Microsoft Mail を使用する新規の Windows メッセージング・プロファイルを作成する手順を通じて案内します。



このページには、以下のフィールドが含まれます。

- **Profile (プロファイル):** このフィールドには、このページに表示されたプロパティー用のプロファイルの名前が入ります。このフィールドには情報を入力することはできません。新規プロファイルが作成され、保存されると、名前が自動的にこのフィールドに入ります。名前は 64 文字までに制限されます。別の既存プロファイルを選択するには、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ドロップダウン・リストのプロファイル名をクリックします。
- **宛先:** このフィールドには、メッセージの主要な宛先の完全な電子メール・アドレスが入ります。このフィールドは 40 文字までに制限されます。複数の電子メール・アドレスは、コンマ、スペース、またはセミコロンによって区切られます。
- **Subject (件名):** このフィールドには、メッセージの件名が入ります。このフィールドは 40 文字までに制限されます。
- **CC:** このフィールドには、メッセージの写しを送る宛先の完全な電子メール・アドレスが入ります。このフィールドは 40 文字までに制限されます。複数の電子メール・アドレスは、コンマ、スペース、またはセミコロンによって区切られます。
- **Message (メッセージ):** このフィールドには、メッセージの本文が入ります。このフィールドは 1024 文字までに制限されます。

関連したトピック:

- 75ページの『電子メール・プロファイルの作成』
- 80ページの『プロファイルの削除』

- 80ページの『既存プロファイルの変更』

メッセージ・ボックス・ページ

このページは、ポップアップ・メッセージを表示するプロファイルを作成するのに使用します。

このページには、以下のフィールドが含まれます。

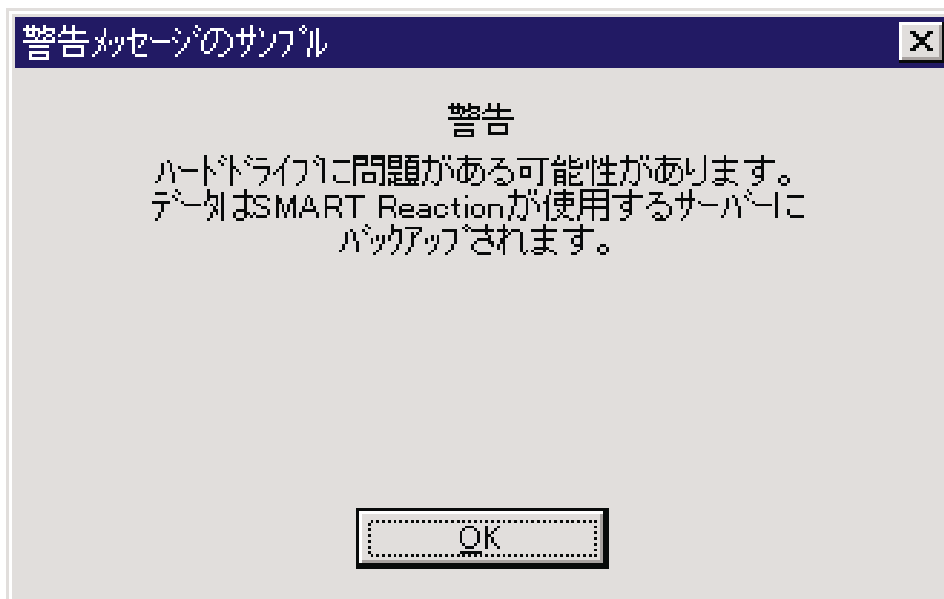
- **Profile (プロファイル):** このフィールドには、このページに表示されたプロパティ用のプロファイルの名前が入ります。このフィールドには情報を入力することはできません。新規プロファイルが作成され、保存されると、名前が自動的にこのフィールドに入ります。名前は 64 文字までに制限されます。別の既存プロファイルを選択するには、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ドロップダウン・リストのプロファイル名をクリックします。
- **Title (タイトル):** このフィールドには、ポップアップ・メッセージのタイトル・バーに表示されるテキストが入ります。このフィールドは 40 文字までに制限されます。
- **Severity (重要度):** このフィールドには、ポップアップ・メッセージの上部に表示される重要度カテゴリーが入ります。ドロップダウン・リストから重要度を選択します。選択項目は (重要度が低いものから重要度が高いものへと) 次のとおりです。
 - Information (情報)
 - Notification (通知)
 - Warning (警告)
 - Error (エラー)
 - Critical error (重大なエラー)

選択を行うには、フィールドの端の矢印をクリックしてから、項目をダブルクリックします。

- **Size (サイズ):** このフィールドには、ポップアップ・メッセージの物理サイズが入ります。ドロップダウン・リストからサイズを選択します。選択項目は次のとおりです。
 - Small (小)
 - Medium (中)

- Large (大)
- 内容: このフィールドには、メッセージ・テキストが入ります。内容のテキストは、1行あたり半角約 34 文字 (フォント・サイズにより、多少変化します)、全角 17 文字で、最大 4 行です。1 行を越えるときには自動改行しますが、英数半角の 1 語が 1 行の長さを越える場合には、改行せずに、行端の表示が欠けます。
- 応答の表示:
 - はい/いいえの表示: はい/いいえの表示 チェックボックスにチェックしない場合は、ポップアップ・メッセージに OK ボタンが含まれます。Show YES/NO (はい/いいえの表示) チェックボックスにチェックすると、メッセージには、OK ボタンの代わりにはいいえのボタンが含まれます。
 - タイムアウトで応答: タイムアウトで応答 フィールドがアクティブであるのは、はい/いいえの表示 チェックボックスがチェックされ、かつ タイムアウト後閉じる チェックボックスがチェックされている場合に限られます。このフィールドは、指定されたタイムアウト期間の後に使用するデフォルトの応答 (はいまたはいいえ) を定義します。
- Close after timeout (タイムアウト後閉じる): このフィールドは、ユーザーによる応答がない場合にメッセージがどれだけ長く表示されているかを定義します。チェックボックスがチェックされない場合は、メッセージは無限に表示されます。チェックボックスがチェックされる場合は、ドロップダウン・リストからタイムアウト期間を指定します。選択項目の範囲は、30 秒から 5 時間です。

メッセージ・ボックスを構成した後、表示 をクリックすることにより、それを事前に表示することができます。次のものは、ポップアップ・メッセージの例です。

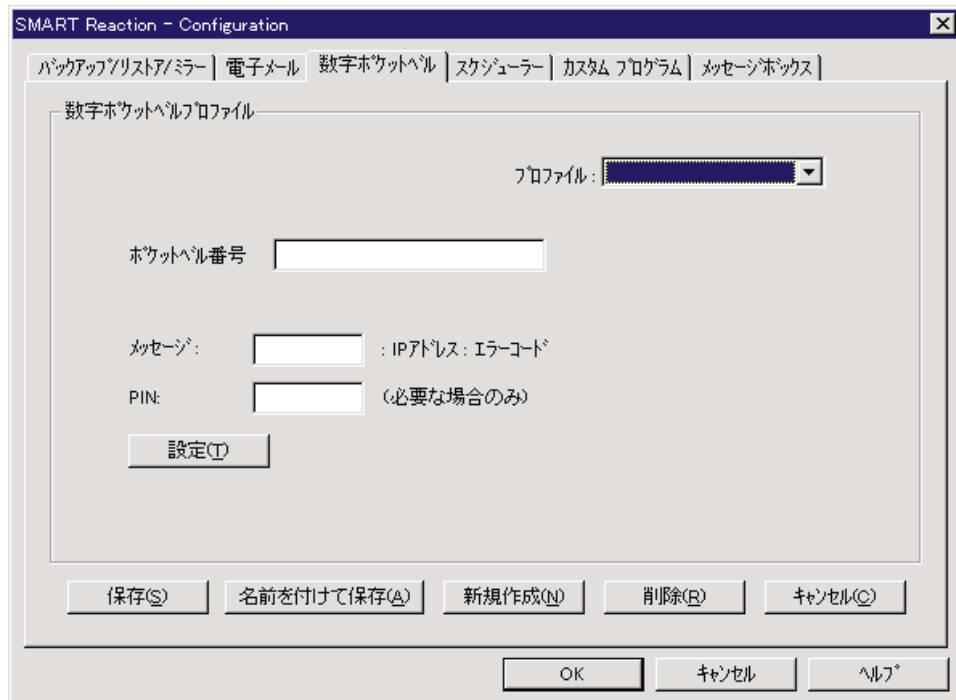


関連したトピック:

- 77ページの『Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成』
- 80ページの『プロファイルの削除』
- 80ページの『既存プロファイルの変更』

Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ

このページは、ページング・システムをダイヤル呼び出しして、数字メッセージを伝送するプロファイルを作成するのに使われます。

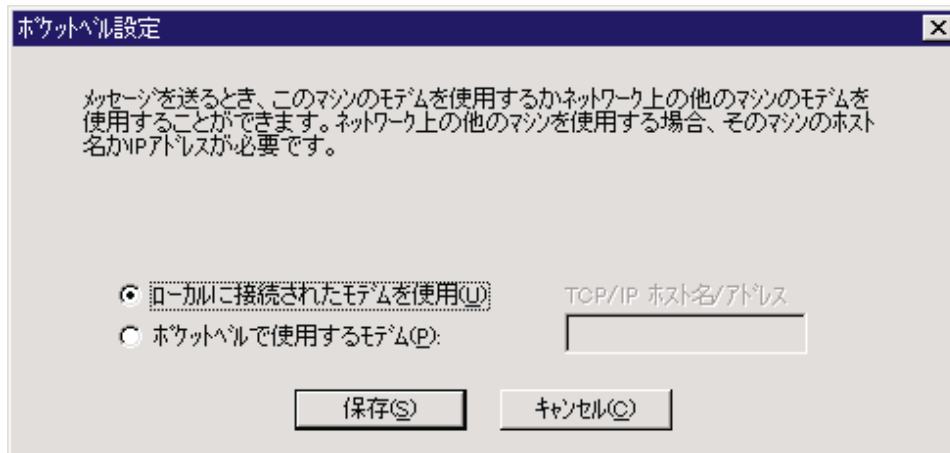


このページには、以下のフィールドおよびボタンが含まれます。

- **Profile (プロファイル):** このフィールドには、このページに表示されたプロパティ用のプロファイルの名前が入ります。このフィールドには情報を入力することはできません。新規プロファイルが作成され、保存されると、名前が自動的にこのフィールドに入ります。名前は 64 文字までに制限されます。別の既存プロファイルを選択するには、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ドロップダウン・リストのプロファイル名をクリックします。
- **Pager Number (ポケットベル番号):** このフィールドには、ページング・システムの電話番号 (外線に必要な番号を含む) が入ります。呼び出しがローカル呼び出しエリアの外側にある場合は、市外局番、および必要に応じて国コードも組み込む必要があります。数字のみが有効です。ダッシュ、スペース、および他の文字は許可されません。
- **Message (メッセージ):** このフィールドには、ページング・システムに伝送される数字メッセージが入ります。このフィールドには、通常ユーザーの電話番号が入りますが、インターネット・プロトコル (IP) アドレスやエラー・コードなど、15 文字までの長さの任意の数字メッセージを使用することができます。
- **PIN:** このフィールドは、一部の数字ポケットベルにアクセスするのに必要な個人識別番号 (PIN) を入力するのに使われます。
- **Settings (設定):** このボタンは、ローカル・モデム (ご使用のコンピューター内に取り付けられているか、それに接続されているモデム) またはリモート・モデム (ネットワーク上の別のコンピューター内に取り付けられているか、それに接続されているモデム) のどちらを使用するのかを定義するのに使われます。リモート・モデムを選択する場合は、TCP/IP ホスト名またはモデムが付いたコンピューターの数値アドレスを提供する必要があります。

注: リモート・モデムを使用する場合、モデムを持つコンピューターに SMART Reaction マネージャーまたは SMART Reaction クライアントがインストールされている必要があります。

次のものは、Settings (設定) ボタンをクリックするときにオープンするウィンドウを表示しています。



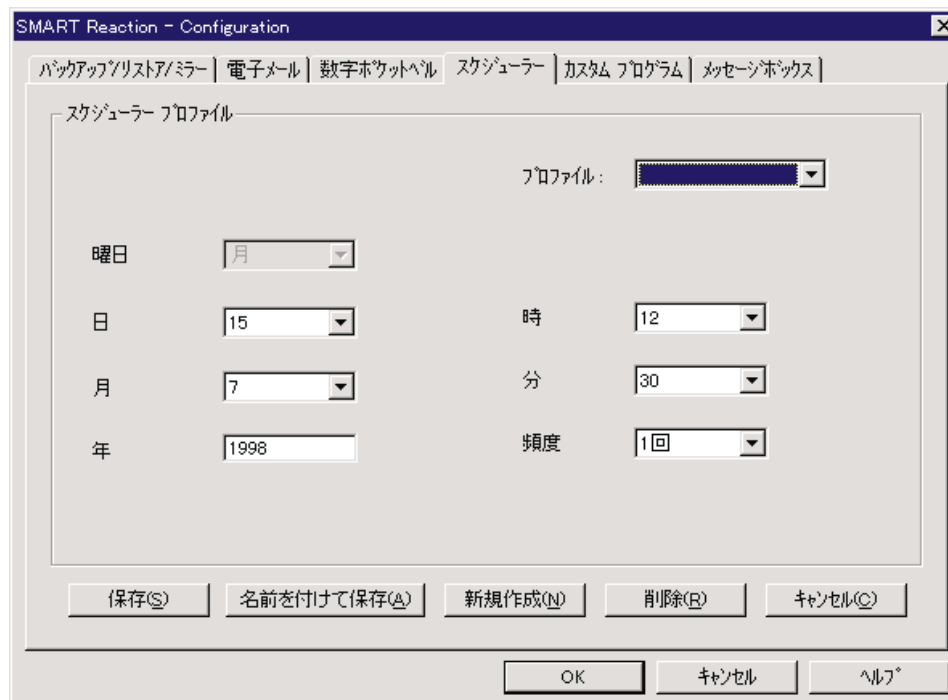
デフォルトでは、このウィンドウは、Numeric Pager (数字ポケットベル) タブを最初にクリックしたときにも自動的に表示されます。

関連したトピック:

- 76ページの『Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成』
- 80ページの『プロファイルの削除』
- 80ページの『既存プロファイルの変更』

Scheduler (スケジューラー) ページ

このページは、バックアップまたはミラー・イベントが行われる特定の日付、時刻、および年、さらにそれが繰り返される場合は、そのイベントが行われる頻度を定義するプロファイルを作成するのに使用します。バックアップまたはミラー操作が PFA アラートのみによって起動される場合は、Scheduler (スケジューラー) プロファイルは必要ありません。



このページには、以下のフィールドが含まれます。

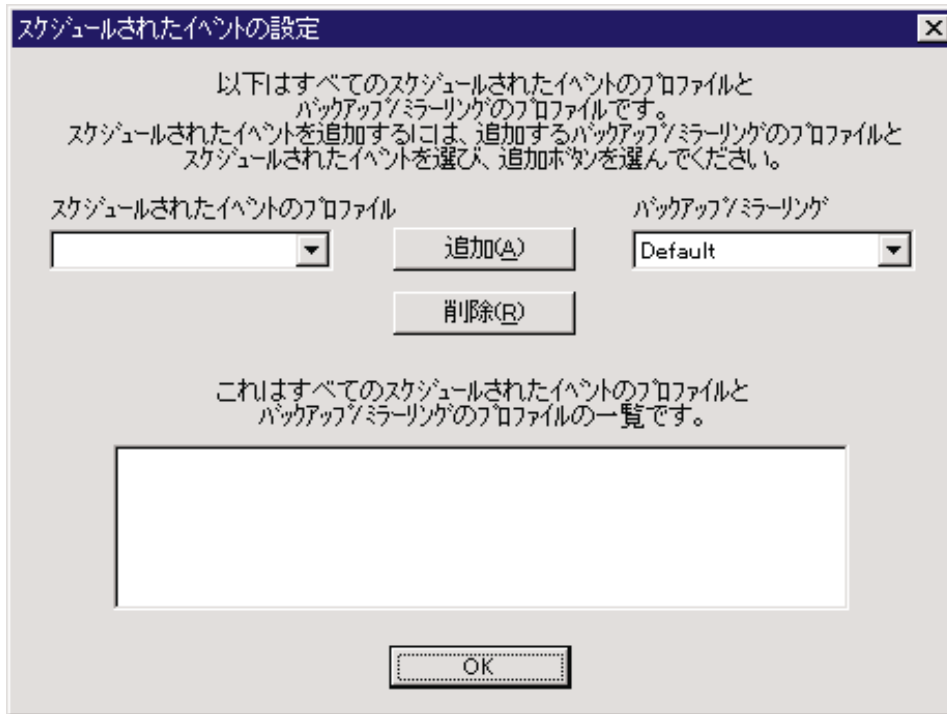
- **Profile** (プロファイル): このフィールドには、このページに表示されたプロパティー用のプロファイルの名前が入ります。このフィールドには情報を入力することはできません。新規プロファイルが作成され、保存されると、名前が自動的にこのフィールドに入ります。名前は 64 文字までに制限されます。
- **Frequency** (頻度): このフィールドは、イベントが行われる頻度を定義します。ドロップダウン・メニューから選択を行います。以下のものから選択することができます。
 - One time (1 回)
 - Hourly (毎時間)
 - Daily (毎日)
 - Weekly (毎週)
 - Monthly (毎月)
 - Yearly (毎年)
- **Day of Week** (曜日): このフィールドがアクティブであるのは、**Frequency** (頻度) フィールドで Weekly (毎週) が選択してある場合のみです。このフィールドには、イベントが行われる曜日が入ります。ドロップダウン・メニューから選択を行います。
- **日**: このフィールドには、イベントが行われる日にちが入ります。これが繰り返されるイベントである場合は、このフィールドは、イベントが行われる最初の日を表示します。ドロップダウン・メニューから選択を行います。このフィールドがアクティブであるのは、**Frequency** (頻度) フィールドで 1 回、毎月、または毎年の選択項目が選択されている場合です。
- **Month** (月): このフィールドは、イベントが行われる月を表示します。これが繰り返されるイベントである場合、このフィールドは、イベントが行われる最初の月を表示します。ドロップダウン・メニューから選択を行います。このフィールドがアクティブであるのは、**Frequency** (頻度) フィールドで 1 回または毎年の選択項目が選択されている場合です。
- **Year** (年): このフィールドは、イベントが行われる年を表示します。これが繰り返されるイベントである場合、このフィールドは、イベントが行われる最初の年を表示します。ドロップダウン・メニューから選択を行います。このフィールドがアクティブであるのは、**Frequency** (頻度) フィールドで毎年の選択項目が選択されている場合です。
- **Hour** (時): このフィールドは、イベントが行われる時を表示します。このフィールドは、24 時間制形式を使用します。ドロップダウン・メニューから選択を行います。たとえば、応答を 8:00 AM にスケジュールする場合は 8 を選択し、8:00 PM の場合は 20 を選択します。
- **Minute** (分): このフィールドは、イベントが行われる分を表示します。ドロップダウン・メニューから選択を行います。

関連したトピック:

- 79ページの『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』
- 80ページの『プロファイルの削除』
- 80ページの『既存プロファイルの変更』
- 81ページの『イベントのスケジューリング』
- 82ページの『イベントのスケジュール解除』
- 82ページの『スケジュールされたイベントの表示』

スケジュールされたイベントの設定ウィンドウ

このウィンドウは、ハード・ディスクのバックアップまたはミラーリング・イベントをスケジュール、スケジュール解除、または設定するのに使用します。このウィンドウにアクセスするには、応答の一覧ウィンドウでスケジューラー設定ボタンを押します。



このウィンドウには、次のフィールドがあります。

- スケジュールされたイベントのプロファイル: このフィールドには、使用したいスケジューラー・プロファイルの名前が入ります。ドロップダウン・リストから Scheduler (スケジューラー) プロファイルを選択します。
- バックアップ/ミラーのプロファイル: このフィールドには、使用したいバックアップまたはミラーリング・プロファイルが入ります。ドロップダウン・リストから該当するプロファイルを選択します。

希望するプロファイルを選択した後、追加 をクリックしてイベントをスケジュールするか、削除 をクリックしてイベントをスケジュール解除します。スケジュールされたイベントは要約ボックスに表示されます。OK をクリックして、ウィンドウをクローズします。

関連したトピック:

- 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
- 74ページの『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
- 81ページの『イベントのスケジューリング』
- 82ページの『イベントのスケジュール解除』
- 82ページの『スケジュールされたイベントの表示』

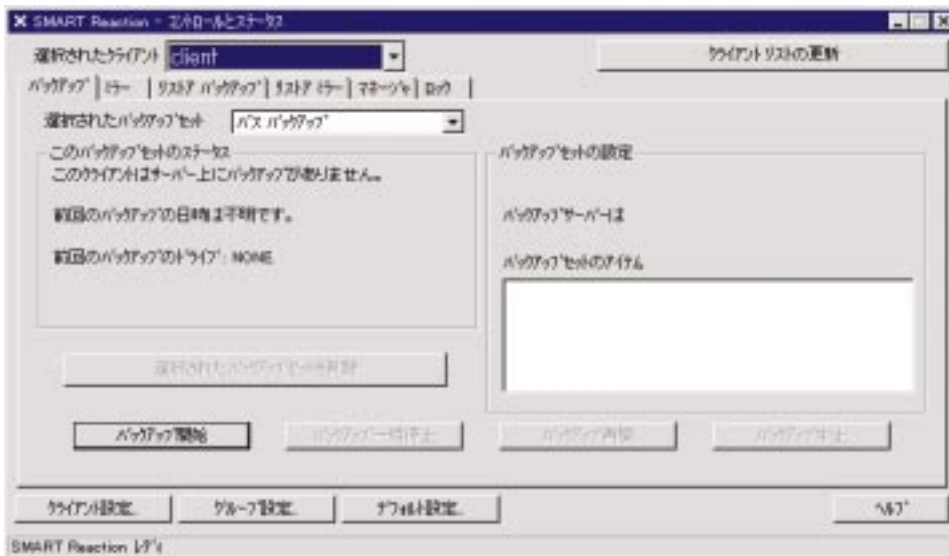
コントロールとステータス・ウィンドウ

コントロールとステータス・ウィンドウは、SMART Reaction マネージャーと SMART Reaction クライアントに統合された Backup (バックアップ)、Restore (リストア)、および Mirror (ミラー) プログラムを構成するのに使用します。このウィンドウは、SMART Reaction が相互作用する IBM ADSM または他のバックアップ・プログラムには影響を与えません。

このウィンドウには、次の 2 つの方法のいずれかでアクセスします。

- SMART Reaction のバックアップ/リストア/ミラー・ファンクションがアクティブであり、バックグラウンドで実行されている場合は、System Tray (システム・トレイ) 内のアイコンをクリックする。
- または -
- Configuration ノートブックのバックアップ/リストア/ミラー・ページで **Configure SMART Reaction (SMART Reaction の構成)** ボタンをクリックします。詳細については、26 ページの『Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) ページ』を参照してください。

コントロールとステータス・ウィンドウ内では、SMART Reaction マネージャーで使用できても、SMART Reaction クライアントでは使用できないいくつかのファンクションおよびフィールドがあります。この節では、このウィンドウの SMART Reaction マネージャー・バージョンしか表示されていませんが、SMART Reaction クライアントで使用できないフィールドまたはファンクションについては、その旨の注意が書かれています。



ネットワーク管理者は、SMART Reaction マネージャーを使用して、SMART Reaction クライアントを使用するエンド・ユーザーに選択可能なファンクションおよびネットワーク資源を指定します。これにより、ネットワーク管理者は、少ない資源を厳重に制御することができる一方で、エンド・ユーザーの要件に基づいて特定のファンクションを使用可能にすることができます。SMART Reaction マネージャーには、このウィンドウに関連するどのファンクションまたはフィールドについても、エンド・ユーザーのアクセスを禁止する機能があります。使用不可のフィールドは、SMART Reaction クライアントからも見えませんが、それらはグレー化されており、エンド・ユーザーが変更することはできません。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウには、以下のコンポーネントが含まれます。

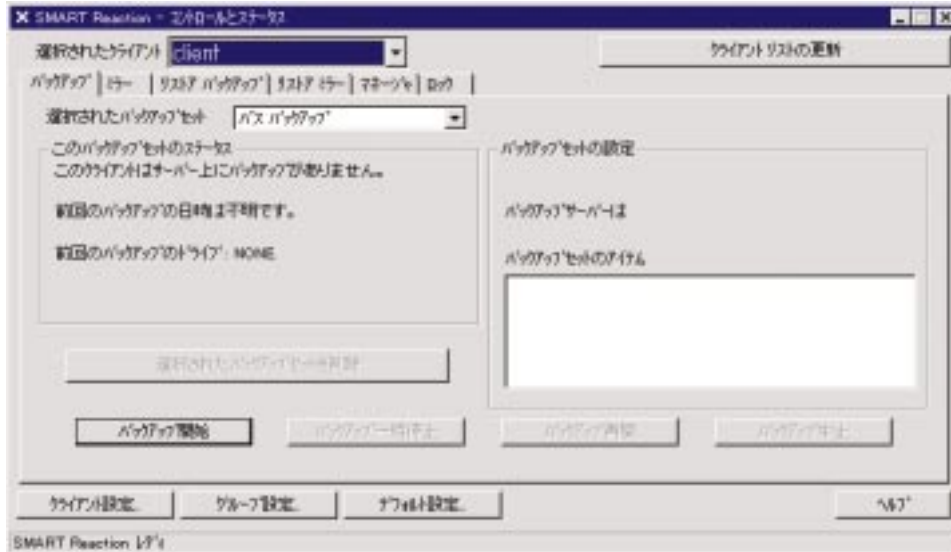
- 選択されたクライアント: このフィールドには、このウィンドウの情報が適用される SMART Reaction クライアントの名前が入ります。SMART Reaction クライアントを使用している場合、選択可能な唯一の選択は、そのク

クライアント自身の名前です。SMART Reaction マネージャーを使用している場合は、ドロップダウン・リストを使用して、マネージャーに割り当てられているクライアントを選択することができます。ドロップダウン・リストからクライアント名を選択することにより、ネットワーク管理者は、ミラーリングおよびバックアップ操作の状況を表示させるか、そのクライアントについての構成を変更するか、バックアップ、リストア、またはミラー操作を開始および制御することができます。

- クライアント・リストを更新: このボタンは SMART Reaction マネージャーにだけあります。新規クライアントをマネージャーに追加する場合は、このボタンを使用してリストを最新表示し、新規クライアントが組み込まれるようにします。
- コントロールとステータス・ノートブック: コントロールとステータス・ノートブックには、SMART Reaction バックアップ、リストア、およびミラー・プログラムに関連するすべての構成設定値が入ります。以下は、ノートブック内の各ページの簡単な説明です。各ページの詳細な説明は、この章で後ほど記載します。
 - Backup (バックアップ) ページ: このページでは、前回のバックアップ操作のステータス、次回のバックアップの設定、およびバックアップ操作を手動で開始および制御するためのボタンを表示します。
 - Mirror (ミラー) ページ: このページでは、前回のミラー操作の状況、次回のミラーの設定、およびミラー操作を手動で開始および制御するためのボタンを表示します。
 - Restore Backup (リストア・バックアップ) ページ: このページでは、前回のバックアップ操作のステータス、次回のリストア操作の設定、およびバックアップされたファイルのリストアを手動で開始および制御するためのボタンを表示します。
 - Restore Mirrors (リストア・ミラー) ページ: このページでは、前回のミラーリング操作の状況、次回のリストア操作の設定、およびミラーリングされたファイルのリストアを手動で開始および制御するためのボタンを表示します。
 - Manager (マネージャー) ページ: このページにより、ネットワーク管理者はリモート・ワークステーションから SMART Reaction マネージャーを管理することができます。SMART Reaction マネージャーへのアクセスは、パスワードによって制御されます。
 - Locks (ロック) ページ: これにより、ネットワーク管理者、またはエンド・ユーザーは、バックアップまたはミラーリングできなかったロックされたファイルのリストを表示することができます。
- クライアント設定...: このボタンにより、ネットワーク管理者またはエンド・ユーザーのいずれかが Client Settings (クライアント設定) ノートブックにアクセスし、選択されたクライアント・ワークステーションについての構成設定値を表示または変更することができます。
- グループ設定...: このボタンは SMART Reaction マネージャーにだけあります。これにより、ネットワーク管理者は Group Settings (グループ設定) ノートブックにアクセスすることができます。このノートブックは、共通のニーズを持つ、クライアントの選択されたグループについてのバックアップおよびミラーリング構成を定義するのに使用します。
- デフォルト設定...: このボタンは SMART Reaction マネージャーにだけあります。これにより、ネットワーク管理者は Default Settings (デフォルト設定) ノートブックにアクセスすることができます。このノートブックは、すべてのクライアントについてのデフォルトのバックアップおよびミラーリング構成の集合を定義するのに使用します。デフォルト設定は、個別およびグループの設定を作成するための開始点でもあります。
- ヘルプ: このボタンは、コントロールとステータス・ウィンドウの Help (ヘルプ) システムにアクセスします。
- ステータス・バー: このコンポーネントは、ウィンドウの下部の端にあります。これは、一般的に、SMART Reaction プログラムについてのステータスに関する情報を表示します。ただし、クライアント設定の一般ページのクライアントにダイアログを表示 フィールドがどのように設定されているかに応じて、メッセージはポップアップ・ダイアログ・ボックスの代わりにここでも表示することができます。詳細については、46ページの『General (一般) ページ』を参照してください。

バックアップ・ページ - コントロールとステータス・ノートブック

このページは、前回のバックアップ操作のステータスを表示し、次回のバックアップ操作の設定を表示または変更し、バックアップ操作を手動で開始および制御するのに使用します。



Backup (バックアップ) ページには、以下の情報が含まれます。

- **Selected Backup Set** (選択されたバックアップ・セット): このフィールドには、このページで定義される構成に割り当てられる名前が入ります。ドロップダウン・リストから以下のバックアップ・セットにアクセスすることができます。
 - Path Backup (パス・バックアップ): このバックアップ・セットには、日常のバックアップ操作 (手動またはスケジュールされた) 用に定義されたフォルダーまたは論理ドライブが含まれます。これは部分バックアップまたは全バックアップであり、複数のドライブにまたがることができます。
 - Hard Drive 0 (ハード・ドライブ 0): このバックアップ・セットには、物理ハード・ディスク 0 のすべてのパーティションにあるすべてのフォルダーが含まれます。このバックアップ・セットが使用されるのは、バックアップ操作がこの物理ドライブに関連する PFA アラートによって開始される場合です。
 - Hard Drive 1 (ハード・ドライブ 1): このバックアップ・セットには、物理ハード・ディスク 1 のすべてのパーティションにあるすべてのフォルダーが含まれます。この選択を使用できるのは、2 番目の物理ハード・ディスクが取り付けられている場合のみです。このバックアップ・セットが使用されるのは、バックアップ操作がこの物理ドライブに関連する PFA アラートによって開始される場合です。
- **Status for this Backup Set** (このバックアップ・セットのステータス): このフィールドは、選択されたバックアップ・セットに関する以下の情報を提供します。
 - バックアップされたかどうか
 - 前回のバックアップ操作の日付
 - 前回のバックアップ操作に関係するドライブ
 - 前回のバックアップ・ファイルが保管されている場所 (パス)
- **Settings for Backup Set** (バックアップ・セットの設定): このフィールドには、選択されたバックアップ・セットに関する以下の情報が含まれています。
 - 次回のバックアップ操作時にファイルが保管される場所 (パス): これはコンピューター名およびパスです。たとえば、`¥¥computer_name¥¥path`。

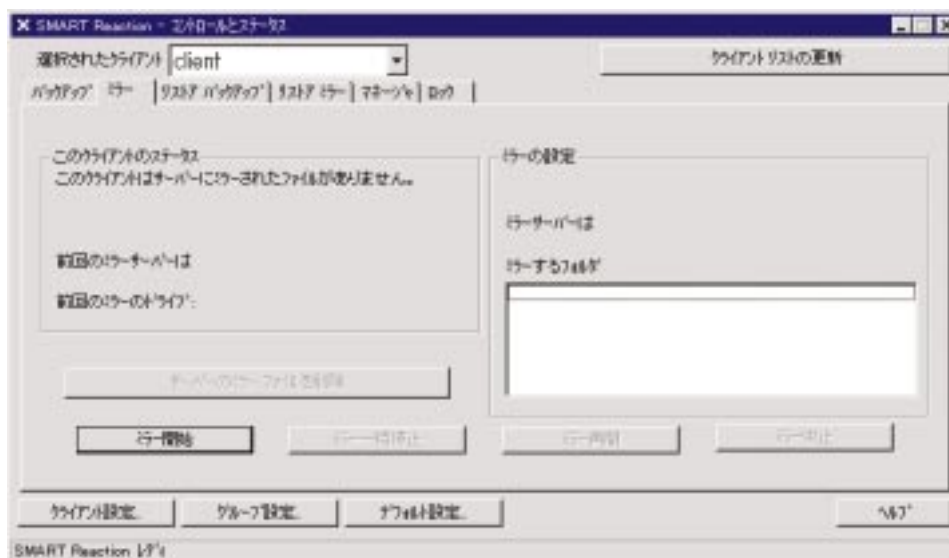
- Items in the backup set (バックアップ・セットのアイテム): 一般的には、パス・バックアップ操作の場合、このフィールド内の情報は、ドライブ全体についてです。たとえば、c:¥ /s。ただし、選択したフォルダーをバックアップすることができます。たとえば、特定のフォルダーの場合は c:¥data で、特定のフォルダーおよびそのすべてのサブフォルダーの場合は c:¥data /s。PFA で生成されたバックアップ操作 (バックアップ・セット・ハード・ドライブ 0 またはハード・ドライブ 1) の場合、リストはその物理ドライブに含まれるすべての論理ドライブから構成されます。

注: 部分的バックアップ操作により、フォルダー内、またはアプリケーション・プログラムの .INI ファイル内に定義されたパス名とレジストリーとの同期が外れるかもしれません。したがって、部分的バックアップ操作を実行することは、あまり重要でないかもしれません。

- **Delete Selected Backup Set** (選択されたバックアップ・セットの削除): **Status for this Backup Set** (このバックアップ・セットのステータス) フィールドで指定されたサーバーまたはピア・ワークステーションからバックアップ・ファイルを削除するには、このボタンをクリックします。このボタンがアクティブであるのは、選択されたバックアップ・セットを使用してバックアップ操作がすでに実行されている場合のみです。このファンクションは、ディスク・スペースを空ける必要がある場合には便利ですが、バックアップ操作の前には必要ありません。SMART Reaction は、バックアップ操作を実行する前に、既存バックアップ・ファイルを自動的に消去します。
- **Start Backup** (バックアップ開始): このページで指定されたパラメーターを使用してバックアップ操作を手動で開始するには、このボタンをクリックします。
- **Pause Backup** (バックアップ一時停止): 進行中のバックアップ操作を一時停止するには、このボタンをクリックします。
- **Resume Backup** (バックアップ再開): 一時停止されたバックアップ操作を再開するには、このボタンをクリックします。
- **Cancel Backup** (バックアップ中止): 進行中のバックアップ操作を中止するには、このボタンをクリックします。

ミラー・ページ - コントロールとステータス・ノートブック

このページは、前回のミラー操作の状況を表示し、次回のミラー操作の設定を表示または変更し、ミラー操作を手動で開始または制御するのに使用します。

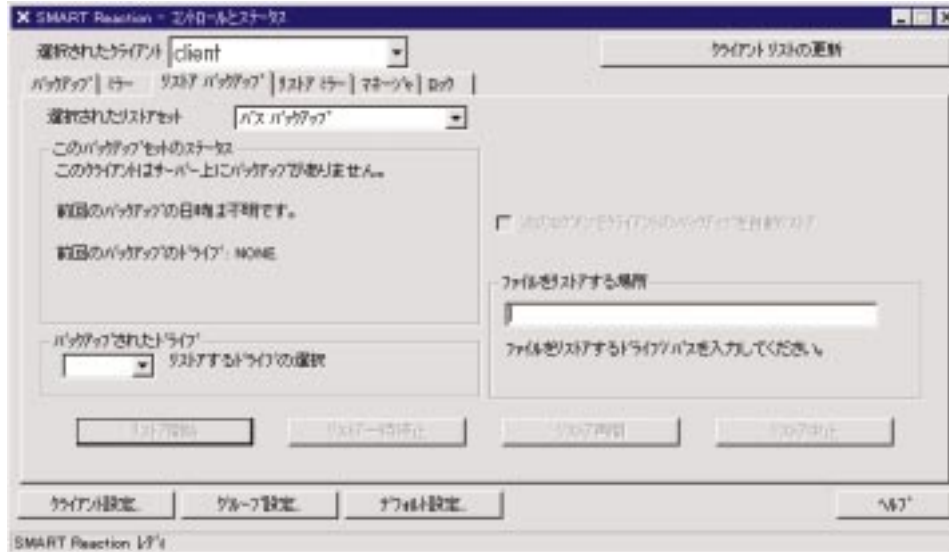


Mirror (ミラー) ページには、以下の情報が含まれます。

- **Status for this Client** (このクライアントのステータス): このボックスは以下の情報を提供します。
 - ミラーリングがアクティブであるかどうか
 - ミラー・ファイルが保管されている場所 (パス)
 - 前のミラーリング操作に関するドライブ
- **Settings for Mirroring** (ミラーの設定): このボックスには以下の情報が含まれています。
 - 次回のミラー操作でファイルが保管される場所 (パス)。これはコンピューター名およびパスです。たとえば、`¥¥computer_name¥path`。
 - 次回のミラー操作のために選択されたフォルダーのリスト。このリストには最大 64 のフォルダーを指定することができます。たとえば、
`c:¥my data¥critical files`
 すべてのサブフォルダーを含めてミラーリングする場合には、最後に `/s` パラメーターを付けます。ただし、`/s` パラメーターで一括指定した場合でも、指定可能なフォルダー数としては、各サブフォルダーも個別に数えられます。
- **Delete Mirror Files on Server** (サーバー上のミラー・ファイルを削除): **Status for this Client** (このクライアントのステータス) フィールドで指定されたサーバーまたはピア・ワークステーションからミラー・ファイルを削除するには、このボタンをクリックします。このボタンがアクティブであるのは、ミラー操作がすでに実行されている場合のみです。このファンクションは、ディスク・スペースを空ける必要がある場合には便利ですが、ミラー操作の前には必要ありません。SMART Reaction は、ミラー操作を実行する前に、既存ミラー・ファイルを自動的に消去します。
- **Start Mirroring** (ミラー開始): このページで指定されたパラメーターを使用してミラー操作を手動で開始するには、このボタンをクリックします。ミラー・ファイルが継続的に監視され、更新されるように指定してある場合であっても (Defaults (デフォルト)、Client Settings (クライアント設定)、または Group Settings (グループ設定) ノートブックの Mirroring (ミラーリング) ページで)、ミラーリング・プロセスを開始するにはこのボタンを 1 回クリックする必要があります。
- **Pause Mirroring** (ミラー一時停止): 進行中のミラー操作を一時停止するには、このボタンをクリックします。
- **Resume Mirroring** (ミラー再開): 一時停止されたミラー操作を再開するには、このボタンをクリックします。
- **Cancel Mirroring** (ミラー中止): 進行中のミラー操作を中止するには、このボタンをクリックします。

リストア・バックアップ・ページ - コントロールとステータス・ノートブック

このページは、前回のバックアップ操作のステータスを表示し、次回のリストア操作の設定を表示または変更し、バックアップされたファイルのリストアを手動で開始および制御するのに使用します。



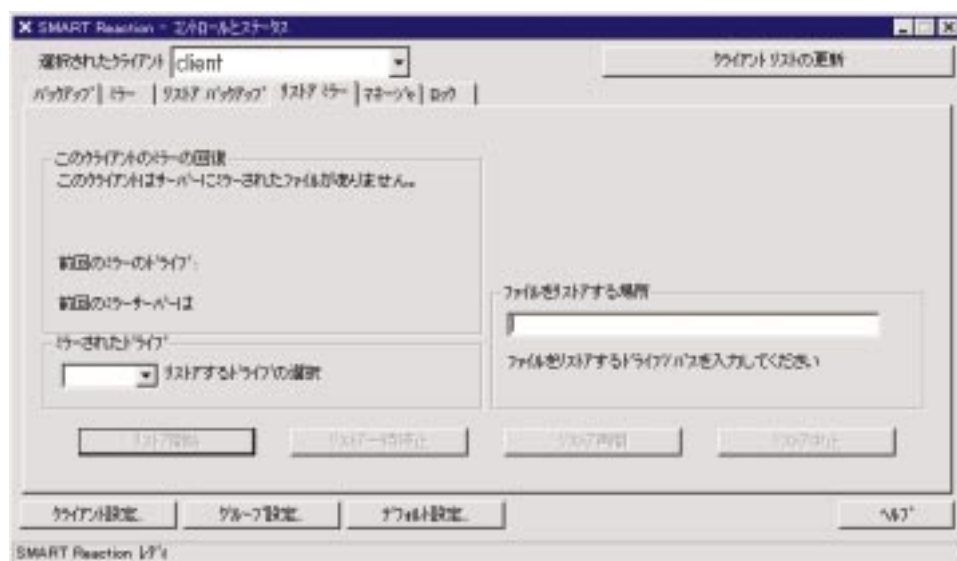
Restore Backup (リストア・バックアップ) ページには、以下の情報が含まれます。

- **Selected Restore Set** (選択されたリストア・セット): このフィールドには、このページで表示された構成に割り当てられた名前が入ります。ドロップダウン・リストから複数のリストア・セット (Path Backup (パス・バックアップ)、Hard Drive 0 (ハード・ドライブ 0)、および Hard Drive 1 (ハード・ドライブ 1)) にアクセスすることができます。
- **Status for this Backup Set** (このバックアップ・セットのステータス): このフィールドは以下の情報を提供します。
 - バックアップされたファイルのステータスがあるかどうか
 - 前回のバックアップ操作の日付
 - 前回のバックアップ操作に関係するドライブ
 - 前回のバックアップ・ファイルが保管されている場所 (パス)
- **Drives stored in the backup** (バックアップされたドライブ): このフィールドには、保管されたフォルダーのドライブ名が入ります。選択されたリストア・セットが複数のドライブからのフォルダーを含む場合、ドロップダウン・リストを使用して該当するドライブ名を選択することができます。リストア操作は、一度に 1 つのドライブごとに行われます。
- **Automatically restore client's backup on next logon** (次回のログオンでクライアントのバックアップを自動的にリストア): このボックスへのチェックは、次回にクライアントが始動し、ネットワークに接続するときに、リストア操作が (選択されたリストア・セットを使用して) 自動的に行われることを意味します。このチェックボックスがアクティブであるのは、選択されたリストア・セットでハード・ドライブ 0 ハード・ドライブ 1 が選択されている場合のみです。
- **File restore location** (ファイルのリストアする場所): このフィールドには、バックアップされたファイルがリストアされるドライブ名およびパスが入ります。ファイルは、それが元にあったのとは異なるドライブおよびフォルダーに保管することは可能ですが、ほとんどの場合、このフィールドで定義されているドライブが **Drives stored in the backup** (バックアップされたドライブ) フィールドで定義されているドライブと一致するか確認したいものです。このフィールドがアクティブであるのは、Path Backup (パス・バックアップ) セットが選択されている場合のみです。

- **Start Restore** (リストア開始): このページで指定されたパラメーターを使用してリストア操作を開始するには、このボタンをクリックします。
- **Pause Restore** (リストア一時停止): 進行中のリストア操作を一時停止するには、このボタンをクリックします。
- **Resume Restore** (リストア再開): 一時停止されたリストア操作を再開するには、このボタンをクリックします。
- **Cancel Restore** (リストア中止): 進行中のリストア操作を中止するには、このボタンをクリックします。

リストア・ミラー・ページ - コントロールとステータス・ノートブック

このページは、前回のミラー操作の状況を表示し、次回のリストア操作の設定を表示または変更し、ミラーされたファイルのリストアを手動で開始および制御するのに使用します。



Restore Mirrors (リストア・ミラー) ページには、以下の情報が含まれます。

- **Mirror Recovery for this Client** (このクライアントのミラーの回復): このフィールドには以下の情報が含まれています。
 - ミラーリングがアクティブであり、ミラーされたファイルが現行のものであるかどうか
 - 前回のミラー操作に関するドライブ
 - ミラー・ファイルが現在保管されているサーバー (パス)
- **Drives stored in the mirror** (ミラーされたドライブ): このフィールドには、ミラーされたドライブ名が入ります。ミラー操作に複数のドライブが関係していた場合は、ドロップダウン・リストから該当するドライブを選択することができます。
- **Destination for restored files** (ファイルをリストアする場所): このフィールドには、ミラーされたファイルをリストアするドライブ名およびパスが入ります。
- **Start Restore** (リストア開始): このページで指定されたパラメーターを使用してリストア操作を手動で開始するには、このボタンをクリックします。
- **Pause Restore** (リストア一時停止): 進行中のリストア操作を一時停止するには、このボタンをクリックします。
- **Resume Restore** (リストア再開): 一時停止されたリストア操作を再開するには、このボタンをクリックします。
- **Cancel Restore** (リストア中止): 進行中のリストア操作を中止するには、このボタンをクリックします。

マネージャ・ページ・コントロールとステータス・ノートブック

このページは、クライアント・ワークステーションから SMART Reaction マネージャーにアクセスするのに使用します。このページは、ネットワーク管理者が使用するためのものです。

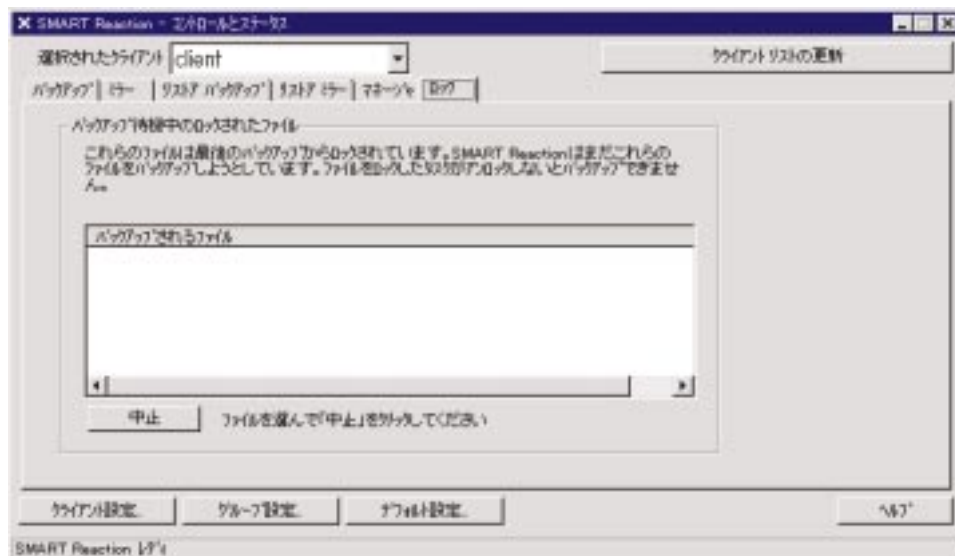


マネージャ・ページには、以下の情報が含まれます。

- **Current Manager Station** (現在のマネージャステーション): このフィールドには、このクライアント・ワークステーションが現在割り当てられている SMART Reaction マネージャーの名前が入ります。
- **Manager password** (マネージャパスワード): このフィールドでは、アクセスしたい SMART Reaction マネージャー用のパスワードを入力します。セキュリティ上の理由から、パスワードはそれを入力するときに表示されません。
- **Release SMART Reaction Management** (SMART Reaction マネージャーの解除): SMART Reaction マネージャーの制御を確立し、作業を完了した後、このワークステーションから SMART Reaction マネージャーの制御を解放するには、このボタンをクリックします。
- **Manage SMART Reaction from Here** (SMART Reaction をここから管理): **Manager password** (マネージャパスワード) フィールドに入力した後、このワークステーションから SMART Reaction マネージャーの制御権を得るには、このボタンをクリックします。

Locks (ロック) ページ - コントロールとステータス・ノートブック

このページは、バックアップ操作がバックアップを試みているが、ファイルがロックされているためにバックアップできないファイルのリストを表示するのに使用します。



Locks (ロック) ページには、以下の情報が含まれます。

- **Files awaiting backup** (バックアップされるファイル): このフィールドは、SMART Reaction がバックアップを試みているが、ファイルがオープンしてロックされている (別のプログラムによる排他使用のためにフラグを付けられている) ためにバックアップできないファイルのリストを表示します。これらのファイルは、これらのファイルを使用するプログラムがそれらをロック解除するかクローズされるまで、バックアップすることはできません。オペレーティング・システムによってロックされた一部のファイルは、SMART Reaction によってバックアップすることができません。
- **Stop trying** (中止): 選択されたファイルまたはファイルのグループのバックアップ操作を終了するには、このボタンをクリックします。最初にファイルをクリックしてから、ボタンをクリックする必要があります。

Default Settings (デフォルト設定) ノートブック

デフォルト設定ノートブックは、SMART Reaction マネージャーを通じて、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウで Defaults Settings... (デフォルト設定...) ボタンをクリックするだけでアクセスすることができます。このノートブックに含まれる設定は、この SMART Reaction マネージャーによってサービスされるすべてのクライアントに適用されるデフォルト設定です。クライアント設定を変更するか、グループ設定を割り当てることにより、デフォルト設定をオーバーライドすることができます。詳細については、58ページの『グループまたは個々のクライアント・ワークステーションの構成』を参照してください。

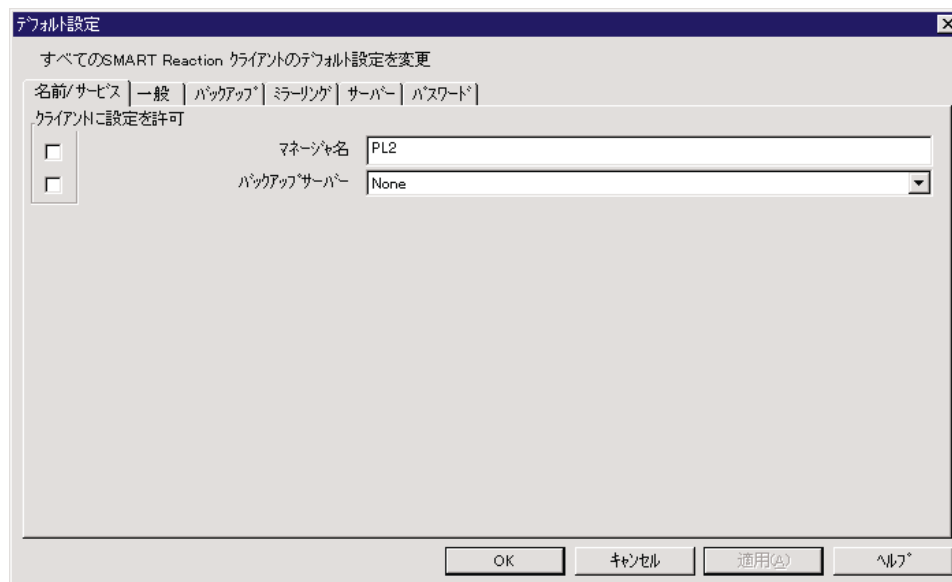
この節では、このノートブックの各ページにある各フィールドの目的を説明します。どのフィールドにも入力が必要なわけではありません。デフォルト設定のセットアップに関するステップバイステップの指示については、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成』を参照してください。

どのページが選択されているかにかかわらず、ノートブックの下部には同じ 4 つのボタンが見えます。

- **OK** : OK をクリックすると、ページのどれかに行われた変更が保管され、ノートブックがクローズされます。

- **キャンセル:** キャンセル をクリックすると、保存されない変更は無視され、ノートブックがクローズされます。
- **適用:** 適用 をクリックすると、ページのどこかに行われた変更が保存され、ノートブックがオープンしたままになります。
- **Help (ヘルプ):** Help (ヘルプ) をクリックすると、Help (ヘルプ) システムにアクセスします。

Names/Services (名前/サービス) ページ

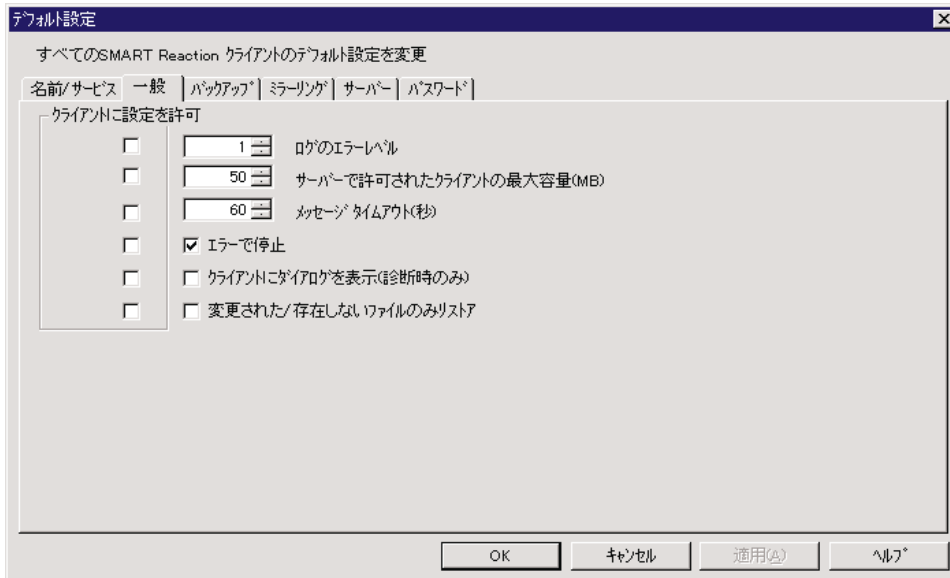


このページには、以下のコンポーネントがあります。

- **Manager Name (マネージャー名):** このフィールドには、すべてのクライアントまたは定義されたグループのクライアントにサービスする SMART Reaction マネージャーの名前が入ります。このフィールドに表示される名前は、SMART Reaction マネージャー・プログラムを実行するコンピューターの Network (ネットワーク) ノートブック (コントロール・パネルを通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ (Windows 95 の場合) 上に表示されるコンピューター名と一致します。
- **Preferred backup server (バックアップ・サーバー):** このフィールドでは、クライアント (またはクライアントのグループ) が最初の選択のバックアップ・サーバーとして使用するサーバーまたはピア・ワークステーションを定義します。ドロップダウン・リストから選択を行います。
- **Client may set (クライアントに設定を許可):** エンド・ユーザーが SMART Reaction クライアントを使用してどのフィールドをオーバーライドすることができるか決定するには、これらのチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、エンド・ユーザーが設定をオーバーライドすることができることを示し、空のボックスは、SMART Reaction クライアントの側で表示されたときにこれが変更を許されていないフィールドであることを示します。

General (一般) ページ

このページは、SMART Reaction バックアップおよびミラー操作に適用されるプリファレンスを設定するのに使用します。



このページには、以下のコンポーネントがあります。

- **Error level to log (ログのエラー・レベル):** このフィールドでは、ログ・ファイル (SRCLIENT.LOG) に保管されるエラーのタイプを定義します。レベルは、次のように定義されます。
 - 1 はログ・エラーを示します。エラーとは、ロックされたファイルにアクセスできないなど、バックアップ、リストア、またはミラー操作中に問題を生じさせるイベントです。
 - 2 はログ情報およびエラーを示します。情報には、クライアントが SMART Reaction マネージャーとのコンタクトを確立するときのクライアントとの同期構成などの項目が含まれます。
 - 3 ~ 5 は、ログ・デバッグ情報を示します。このレベルのログは、サポートに使用されるだけです。

エラー・ログは、バックアップまたはミラーリングされるコンピューター上で作成されます。エラー・ログは、Windows NT イベント ビューアを使用することによって、または Notepad などのテキスト・エディターを使用することによって表示できます。

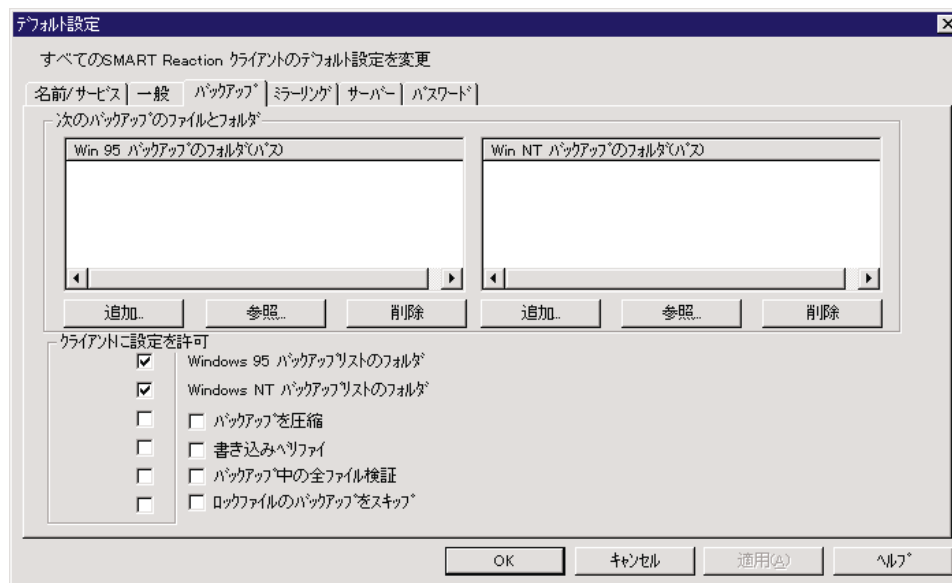
- **Client's maximum storage allowed on servers (サーバーで許可されたクライアントの最大容量)(MB):** このフィールドでは、クライアントがバックアップまたはミラー操作に使用することができる記憶域の最大容量を定義します。このフィールドに表示される値は、1,000,000 バイト単位です。バックアップまたはミラー操作が、割り振られている量よりも多くのスペースを必要とする場合は、操作は完了せず、クライアント・ワークステーションで "Insufficient Storage (記憶域の不足)" メッセージが表示されます。エラーはエラー・ログにも記録されます。
- **Message timeout (メッセージ・タイムアウト) (秒):** このフィールドは、エラー・メッセージがクライアント・ワークステーションの画面に表示される秒数を定義します。
- **Halt on Errors (エラーで停止):** このチェックボックスは、エラーが発生した場合に、SMART Reaction がバックアップまたはミラーリング・プロセスを停止するかどうかを決定します。
- **Show Client Prompts (クライアントにダイアログを表示) (診断時のみ):** このチェックボックスは、クライアント・ワークステーションでメッセージがどのように表示されるかを決定します。ボックスがチェックされている場合は、メッセージがポップアップ・ダイアログ・ボックスとして表示されることを意味します。空のチェックボックスは、メッセージが Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウの下部のステータス・バーに表示されます。

示されることを意味します。ポップアップ・ダイアログ・ボックスは、障害追及に使用するとき以外は、チェックボックスのマークをはずしてください。

- **Only restore changed and missing files (変更された/存在しないファイルのみリストア):** このチェックボックスは、リストア操作がどのように行われるかを決定します。ボックスがチェックされている場合は、リストア操作が、クライアント・ワークステーションで変更または削除されたファイルのみをリストアすることを意味します。ボックスがチェックされていない場合は、全ファイルが無条件にリストアされ、同じパスとファイル名を持つ既存ファイルを上書きすることを意味します。
- **Client may set (クライアントに設定を許可):** エンド・ユーザーがSMART Reaction クライアントを使用してどのフィールドをオーバーライドすることができるか決定するには、これらのチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、エンド・ユーザーが設定をオーバーライドすることができることを示し、空のボックスは、SMART Reaction クライアントの側で表示されたときにこれが変更を許されていないフィールドであることを示します。

Backup (バックアップ) ページ

このページは、バックアップされるクライアント・ワークステーションのドライブまたはフォルダーを指定し、バックアップ操作属性を定義するのに使用します。



このページには、以下のコンポーネントがあります。

- **Files and folders for next backup (バックアップのファイルとフォルダー):** ページのこのエリアは、次の 2 つのボックスに分かれています。
 - Windows 95 のバックアップ用のフォルダー (パス)
 - Windows NT のバックアップ用のフォルダー (パス)

これらのボックスを使用して、バックアップ操作に組み込まれる特定のドライブまたはフォルダーを定義します。フォルダー構造は、Windows 95 クライアントと Windows NT クライアントで異なる場合があるので、2 つのデフォルトオペレーティング・システムのいずれかを使用して、共通のデフォルト・セットを割り当てることができるように、2 つのボックスが提供されています。

例:

- ドライブ全体の場合は、`c:¥ /s` を使用します。
- 特定のフォルダーの場合は、`c:¥folder_name` を使用します。

- 特定のフォルダーおよびその全サブフォルダーの場合は、`c:%folder_name /s` を使用します。

注: 部分的バックアップ操作により、フォルダー内、またはアプリケーション・プログラムの .INI ファイル内に定義されたパス名とレジストリーとの同期が外れるかもしれません。したがって、部分的バックアップ操作を実行することは、あまり重要でないかもしれません。

リストにフォルダーまたはドライブを追加する手順は次のとおりです。

1. **Add** (追加) をクリックします。
2. ドライブ、パス、およびフォルダー名 (必要に応じて) を入力します。
3. **Enter** を押します。

リストからフォルダーまたはドライブを削除する手順は次のとおりです。

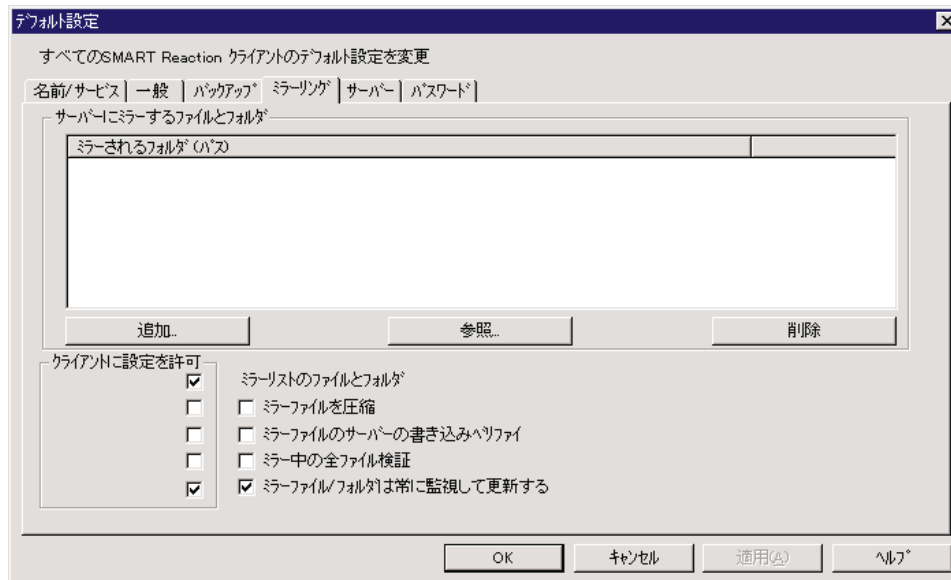
1. エントリーをクリックし、それを強調表示します。
2. **Remove Selection** (削除) をクリックします。

- **Folders in Windows 95 backup lists (Windows 95 バックアップ・リストのフォルダー): Client may set** (クライアントに設定を許可) ボックスをチェックまたはチェック解除することにより、エンド・ユーザーがこのリストを変更することを許可または防止することができます。
- **Folders in Windows NT backup lists (Windows NT バックアップ・リストのフォルダー): Client may set** (クライアントに設定を許可) チェックボックスをチェックまたはチェック解除することにより、エンド・ユーザーがこのリストを変更することを許可または防止することができます。
- **Compress backups (バックアップを圧縮):** バックアップ操作で圧縮 (約 2:1) が使用されるかどうかを示すには、このチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、圧縮が使用されることを意味します。
- **Turn on write verify (書き込みベリファイ):** データ安全性を保証するためにオペレーティング・システムの書き込みベリファイ・ファンクションが使用されるかどうかを示すには、このチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、オペレーティング・システムの書き込みベリファイ・ファンクションが使用されることを意味します。
- **Verify integrity during backups (バックアップ中の全ファイル検証):** バックアップ操作時に SMART Reaction が比較を行うかどうか示すには、このチェックボックスを使用します。この機能は、バックアップ・ディスクに書き込まれたファイルを、バックアップされるコンピューター上の元のソース・ファイルと比較します。この検査プロセスは、クライアントによって行われ、余分な読み書きサイクルを追加します。このため、バックアップ操作がスローダウンする場合があります。チェックが付いている場合は、クライアントが比較を行うことを意味します。
- **Skip locked files during backups (ロックファイルのバックアップ):** ロックされたファイル (オープンしており、ファイルを使用するアプリケーション・プログラムによってロックされているファイル) をバックアップ操作時にスキップする必要があるかどうかを示すには、このチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、SMART reaction がこれらのファイルをスキップすることを意味します。空のチェックボックスは、次のいずれかが発生するまで、SMART Reaction がロックされたファイル上でのバックアップ操作を再試行を継続することを意味します。
 - Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウの Locks (ロック) ページで、**Stop trying** (中止) ボタンが使用される。
 - バックアップ操作が取り消される (Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウの Backup (バックアップ) ページで **Cancel** (キャンセル) ボタンが使用される)。
- **Client may set** (クライアントに設定を許可): SMART Reaction クライアントを使用してエンド・ユーザーがどのフィールドをオーバーライドすることができるか決定するには、このチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、エンド・ユーザーが設定をオーバーライドすることができることを示し、空のボックスは、SMART Reaction クライアントの側で表示されたときにこれが変更を許されていないフィールドであることを示します。

Mirroring (ミラーリング) ページ

このページは、ミラーリングされるクライアント・ワークステーション・フォルダーおよびミラー操作属性を定義するのに使用します。

重要: SMART Reaction は、各クライアントで最大 64 のフォルダーをミラーリングすることができます。フォルダーのリスト内に 64 を超えるフォルダーが含まれている場合、ミラー操作は 64 番目のフォルダーの後、停止します。それ以降のフォルダーは、ミラー・プロセスに組み込まれません。



このページには、以下のコンポーネントがあります。

- **Folders (paths) to be mirrored (ミラーされるフォルダー (パス)):** このフィールドは、ミラー操作に組み込まれる特定のフォルダーを定義するのに使用します。すべてのファイルは次のように定義する必要があります。

`d:¥path_to_folder¥folder_name`

サブフォルダーを組み込む場合には、最後に /s パラメーターを付けます。

リストにフォルダーを追加する手順は次のとおりです。

1. **Add (追加)** をクリックします。
2. ドライブ、パス、およびフォルダー名 (必要に応じて) を入力します。
3. **Enter** を押します。

リストからフォルダーを削除する手順は次のとおりです。

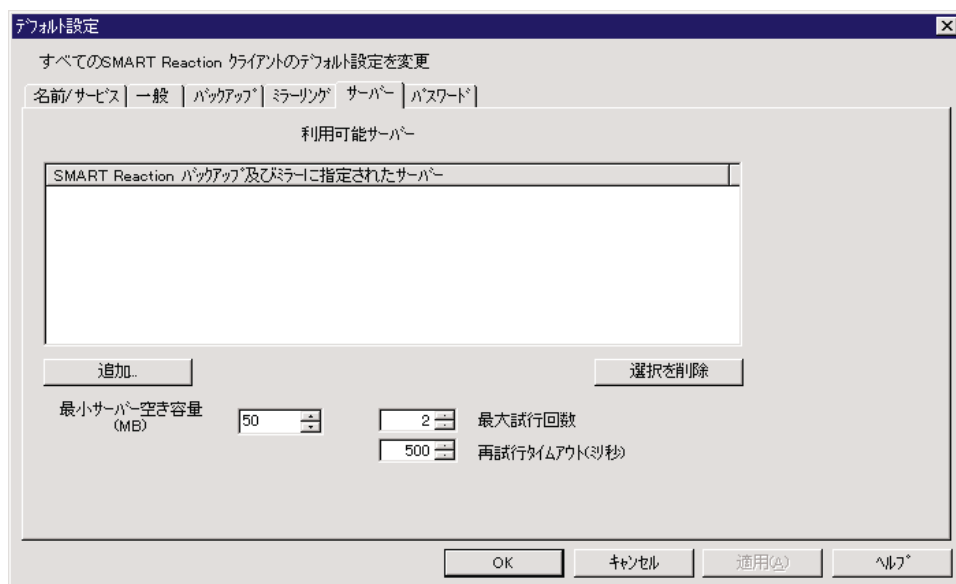
1. エントリーをクリックし、それを強調表示します。
2. **Remove Selection (削除)** をクリックします。

- **Files and folders in mirror lists (ミラーリストのファイルとフォルダー): Client may set (クライアントに設定を許可)** ボックスをチェックまたはチェック解除することにより、エンド・ユーザーが **Folders (paths) to be mirrored (ミラーされるフォルダ (パス))** フィールド内のリストを変更するのを許可または防止することができます。
- **Compress mirror files (ミラーファイルを圧縮):** ミラーリング・ファイルを圧縮 (約 2:1) するかどうか示すには、このチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、圧縮されることを意味します。

- **Turn on server's write verify for mirror files** (ミラーファイルのサーバーの書き込みベリファイ): データ安全性を保証するために、ミラーリングされたデータを保管するのに使用されるコンピューター (サーバーまたはピア・ワークステーション) 上のオペレーティング・システムがその書き込みベリファイ・ファンクションを使用するかどうかを示すには、このチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、オペレーティング・システムの書き込みベリファイ・ファンクションが使用されることを意味します。
- **Verify mirror integrity while mirroring** (ミラー中の全ファイル検証): このチェックボックスは、ミラー操作時に SMART Reaction がデータ比較を行うかどうかを示すのに使用します。この機能は、バックアップ・ディスクに書き込まれたデータを、ミラーリングされるコンピューター上の元のソース・データと比較します。この検査プロセスは、クライアントによって行われ、余分な読み書きサイクルを追加します。このため、ミラー操作がスローダウンする場合があります。チェックが付いている場合は、クライアントが比較を行うために SMART Reaction を使用することを意味します。
- **Mirror files/folders are monitored and updated continuously** (ミラーファイル/フォルダーは常に監視して更新): このチェックボックスは、ミラー操作が継続的であるかどうかを示すために使用されます。ボックスがチェックされている場合は、ソース・ファイル内の変更が検出されたときにミラーリングされたファイルが自動的に更新されることを意味します。空のボックスは、ソース・ファイルがミラーリングされるのは、エンド・ユーザーがアクションを開始する場合、またはミラーリングがスケジューラーによって制御される場合のみであることを意味します。
- **Client may set** (クライアントに設定を許可): SMART Reaction クライアントを使用してエンド・ユーザーがどのフィールドをオーバーライドすることができるか決定するには、このチェックボックスを使用します。チェックが付いている場合は、エンド・ユーザーが設定をオーバーライドすることができることを示し、空のボックスは、SMART Reaction クライアントの側で表示されたときにこれが変更を許されていないフィールドであることを示します。

Servers (サーバー) ページ

このページは、バックアップまたはミラー操作によって作成されたデータを保存するのに使用されるデフォルトのサーバーまたはピア・ワークステーションを定義するのに使用します。



このページには、以下のコンポーネントがあります。

- **Available Servers** (利用可能サーバー): このフィールドには、バックアップまたはミラー操作時に作成されたデータを保存するのに使用されるコンピューター (サーバーおよびピア・ワークステーション) のリストが含まれます。

す。これらのコンピューターが表示される順序は、クライアント・ワークステーションが利用可能なハード・ディスク・スペースを検索する順序です。各コンピューターは、標準の UNC 形式を使用してリストされます。たとえば、次のようにリストされます。

`¥¥computer_name¥path_to_target_folder¥foldername`

- **Add...** (追加...): このボタンは、Available Servers (利用可能サーバー) ボックス内のコンピューターのリストの先頭に別のコンピューター (サーバーまたはピア・ワークステーション) を追加するのに、使用します。
- **Remove selected** (選択を削除): このボタンは、Available Servers (利用可能サーバー) ボックス内のリストからコンピューター (サーバーまたはピア・ワークステーション) を削除するのに、使用します。最初にコンピューターをクリックしてそれを強調表示してから、ボタンをクリックする必要があります。
- **Minimum free server space** (最小サーバー空き容量)(MB): このフィールドは、バックアップ操作の 後 サーバーまたはピア・ワークステーション上で残っている空きハード・ディスク・スペースの最小容量を定義します。表示される量は 1,000,000 バイト単位です。SMART Reaction がバックアップ操作を試行するとき、最初に、必要なハード・ディスク・スペース (バックアップ・データ + 空きスペース) を計算します。利用可能な量が必要な量より少ない場合、SMART Reaction はリスト内の次のサーバーまたはピア・ワークステーションに移動します。

この設定により、SMART Reaction クライアント・ワークステーションが、利用可能なすべてのハード・ディスク・スペースを使用することで、別のアプリケーションが同じ共用ディスクを使用している場合にそのアプリケーションが障害を起こすようなことがないようにします。

- **Maximum retry count** (最大試行回数): このフィールドは、バックアップ操作時にエラーが発生する (たとえば、ターゲット・サーバーまたはピア・ワークステーションがダウンする) 場合に行われる再試行の数を定義します。SMART Reaction クライアントは、次のいずれかが発生するまで、再試行を継続します。
 - エラーがクリアされる
 - リセット・メッセージが SMART Reaction マネージャーから受信される
 - 最大試行回数に到達する

SMART Reaction クライアントがバックアップ操作を完了することができない場合、バックアップ失敗 状態に入ります。

- **Retry time-out** (再試行タイムアウト) (ミリ秒): このフィールドは、エラーの後 SMART Reaction が操作を再試行する前に経過するミリ秒数を定義します。

Password (パスワード) ページ

このページは、SMART Reaction マネージャー用のパスワードを変更するのに使用します。パスワードは、初めは、SMART Reaction マネージャーのインストール手順中に設定されます。

デフォルト設定

すべてのSMART Reaction クライアントのデフォルト設定を変更

名前/サービス | 一般 | バックアップ* | ミラーリング | サーバー | **パスワード***

現在のパスワード

新しいパスワードを入力

新しいパスワードを再度入力

パスワードを変更するときはすべてのフィールドを入力してください。入力されたパスワード(現在のパスワード)が正しくないか、新しいパスワードが一致しないときはパスワードは変更されません。

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ*

注: セキュリティー上の理由から、フィールドに文字を入力する時に文字が読めないようになっています。パスワードには大文字小文字の区別がありません。

このページには、以下のフィールドがあります。

- **Current Password** (現在のパスワード): 現行パスワードをこのフィールドに入力します。現行パスワードを知らない場合は、パスワードを変更することができません。
- **Enter new password** (新しいパスワードを入力): 新規パスワードをここに入力します。新規パスワードは、最大 32 文字の長さにすることができ、任意の組み合わせの英数字 (A ~ Z, a ~ z、または 0 ~ 9) から構成することができます。スペースおよび記号は許可されません。
- **Enter new password again** (新しいパスワードを再度入力): 確認のため新規パスワードを再び入力します。このフィールドのエントリーが、**Enter new password** (新しいパスワードを入力) フィールドのエントリーと一致しない場合、パスワードは変更されません。

Group Settings (グループ設定) ノートブック

Group Settings (グループ設定) ノートブックは、SMART Reaction マネージャーを通じてのみ、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウの Group Settings... (グループ設定...) ボタンをクリックすることにより、アクセス可能です。このノートブックに含まれる設定は、共通のセットのニーズを持つ特定のグループのワークステーションに適用されます。

このノートブックは、Default Settings (デフォルト設定) ノートブックに大変よく似ています。主な相違点は次のとおりです。

- ウィンドウの上部の **Group** (グループ) フィールド
- Refresh Group List (グループ・リストを更新) ボタン
- Clients (クライアント) タブ (Clients (クライアント) ページ)

- Groups (グループ) タブ (Groups (グループ) ページ)
- Servers (サーバー) タブと Password (パスワード) タブがないこと。

Group Settings (グループ設定) ノートブックと Default Settings (デフォルト設定) ノートブックは似ているので、この節では、**Group (グループ) フィールド**、Refresh Client List (クライアント・リストの更新) ボタン、Clients (クライアント) ページ、および Groups (グループ) ページについてのみ解説します。他のページ、フィールド、およびボタンについての情報は、44ページの『Default Settings (デフォルト設定) ノートブック』の情報を参照してください。

グループ設定のセットアップに関するステップバイステップの指示については、65ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのグループ設定の作成』を参照してください。

Group (グループ) フィールド

Group (グループ) フィールドには、共通のセットのバックアップ、リストア、またはミラーの設定を共有する特定のグループのクライアントの名前が入ります。これらの設定は、指定されたグループのデフォルト設定をオーバーライドします。ただし、デフォルト設定へのそれ以降の変更は、グループ設定への変更をオーバーライドすることができません。詳細については、58ページの『グループまたは個々のクライアント・ワークステーションの構成』を参照してください。

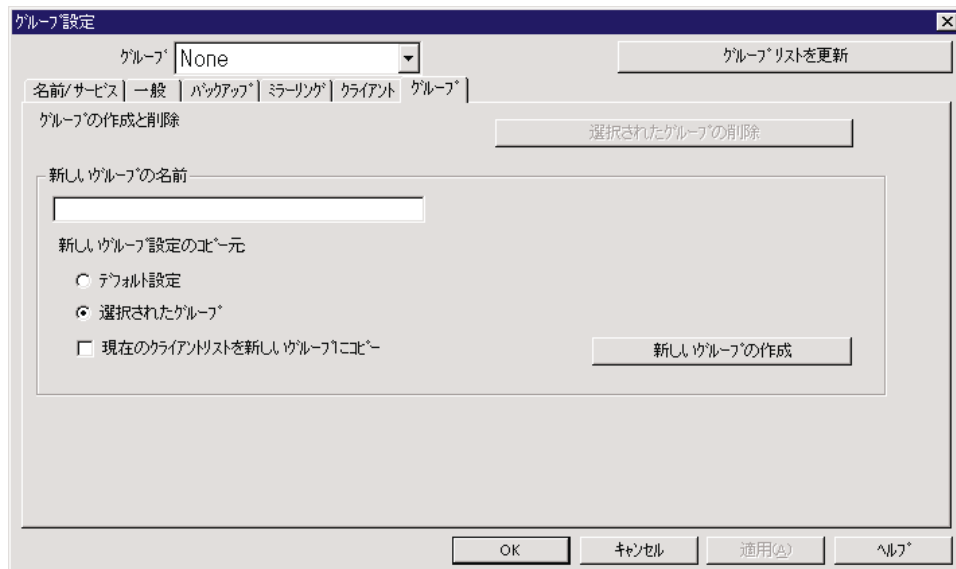
ドロップダウン・リストからグループ名を選択することにより、そのグループのクライアントに関する設定を表示または変更することができます。ドロップダウン・リスト内のグループ名は、Groups (グループ) ページを通じて作成されます。

Refresh Group List (グループ・リストを更新) ボタン

新規グループが追加される場合は、このボタンを使用して、新規グループがリストに含まれているか確認してください。

Groups (グループ) ページ

Groups (グループ) ページは、共通のセットのバックアップ、ミラーリング、またはリストアの設定を共有するエンド・ユーザーのグループを定義または更新するのに使用します。

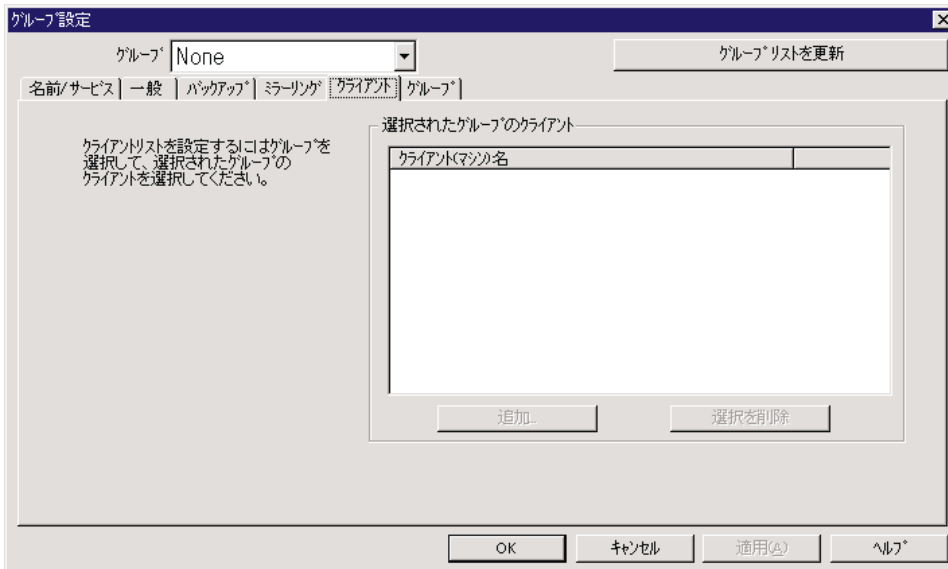


このページには、以下のコンポーネントがあります。

- **Name for new group** (新しいグループの名前): これは、新規グループに割り当てたい名前です。名前は最大 15 文字の長さにすることができ、任意の組み合わせの英数字 (A ~ Z、a ~ z、および 0 ~ 9) にすることができます。記号およびスペースは許可されません。
- **Copy new settings from** (新しいグループ設定のコピー元): このエリアは、新しい設定を作成する元のソースを定義するのに使用します。基本的には、テンプレートまたは開始点として使用するソースを選択します。次のいずれかから選択することができます。
 - Selected Group (選択されたグループ): このラジオ・ボタンは、新しいグループがデフォルト設定より既存のグループ設定に近い場合に使用します。設定は、ウィンドウの上部の **Group** (グループ) フィールドにリストされるグループ名からコピーされます。
 - Default settings (デフォルト設定): このラジオ・ボタンは、最初のセットのグループ設定を作成している場合、または新規設定が別のグループ設定よりデフォルト設定に近い場合に使用します。
- **Copy the current client list into the new Group** (現在のクライアントリストを新しいグループにコピー): グループ設定をコピーしているときに、コピー元のグループからクライアント・リストを組み込みたい場合は、このチェックボックスにチェックします。リストは、ページの上部の **Group** (グループ) フィールドにリストされるグループ名からコピーされます。新規グループを作成した後、このノートブックの Clients (クライアント) ページでリストを編集することができます。
- **Create New Group** (新しいグループの作成): 名前を入力し、ソースを選択し、クライアント・リストを組み込むかどうか決定してから、このボタンをクリックします。
- **Delete Selected Group** (選択されたグループの削除): ウィンドウの上部の **Group** (グループ) フィールドに表示されているグループを削除するには、このボタンをクリックします。

Clients (クライアント) ページ

Clients (クライアント) ページは、グループにクライアント・ワークステーションを追加するか、グループからそれらを削除するのに、使用します。



Clients in selected group (選択されたグループのクライアント) フィールドにリストされるクライアントは、ウィンドウの上部の **Group** (グループ) フィールド内で選択されたグループ名に応じて異なります。

- リストにクライアント・ワークステーションを追加するには、**Add** (追加) をクリックし、フィールドに名前を入力してから、**Enter** を押します。
- リストからクライアント・ワークステーションを除去するには、名前をクリックしてそれを強調表示してから、**Remove selection** (選択を削除) をクリックします。

Client Settings (クライアント設定) ノートブック

Client Settings (クライアント設定) ノートブックは、SMART Reaction マネージャーまたは SMART Reaction クライアントのいずれかを通じて、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウの Client Settings... (クライアント設定...) ボタンをクリックすることにより、アクセスすることができます。このノートブックに含まれる設定は、特定のクライアント・ワークステーションに適用されます。

このノートブックは、Default Settings (デフォルト設定) ノートブックに大変よく似ています。主な相違点は次のとおりです。

- ウィンドウの上部の **Selected Client** (選択されたクライアント) フィールド
- Refresh Client List (クライアントリストの更新) ボタン
- Clients (クライアント) タブ (Clients (クライアント) ページ)
- Servers (サーバー) タブと Security (パスワード) タブがないこと。

Client Settings (クライアント設定) ノートブックと Default Settings (デフォルト設定) ノートブックは似ているので、この節では、**Selected Clients** (選択されたクライアント) フィールド、Refresh Client List (クライアント・リストの更新)、および Clients (クライアント) ページについてのみ説明します。他のページ、フィールド、およびボタンについての情報は、44ページの『Default Settings (デフォルト設定) ノートブック』の情報を参照してください。

グループ設定のセットアップに関するステップバイステップの指示については、66ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのクライアント設定の作成』を参照してください。

Selected Client (選択されたクライアント) フィールド

Selected Client (選択されたクライアント) フィールドには、固有のバックアップ、リストア、またはミラー設定を持つ特定のクライアントの名前が入ります。これらの設定は、そのときのデフォルト設定をオーバーライドします。ただし、デフォルト設定へのそれ以降の変更は、クライアント設定に行われた変更をオーバーライドすることができます。詳細については、58ページの『グループまたは個々のクライアント・ワークステーションの構成』を参照してください。

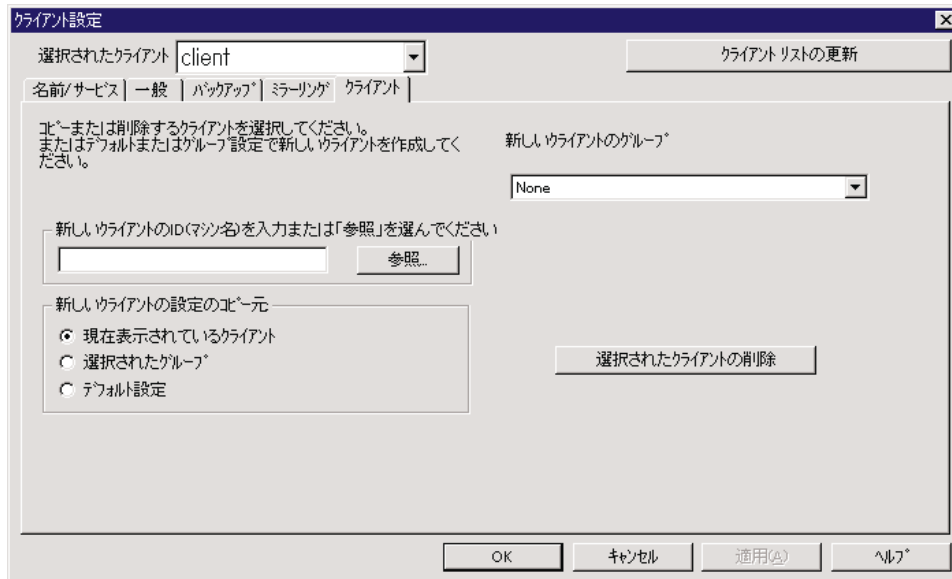
ドロップダウン・リストからクライアント名を選択することにより、そのクライアントに関する設定を表示または変更することができます。ドロップダウン・リスト内のクライアント名は、Clients (クライアント) ページを通じて作成されます。

Refresh Client List (クライアント・リストの更新) ボタン

新規クライアントが追加される場合は、このボタンを使用して、新規クライアントがリストに含まれているか確認してください。

Clients (クライアント) ページ

Clients (クライアント) ページは、固有なセットのバックアップ、ミラーリング、またはリストア要件を持つ特定のクライアント・ワークステーションに関する設定を作成または更新するのに、使用します。また、このページを使用して、必要がなくなったクライアントの固有な設定を削除することもできます。



このページには、以下のコンポーネントがあります。

- **ID (machine name) for new client** (新しいクライアントの ID (マシン名) を入力または「参照」を選んでください): これは、Network (ネットワーク) ノートブック (Control Panel (コントロール・パネル) を通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ (Windows 95 の場合) で定義されたクライアントのコンピューター名です。
- **Copy new client settings from** (新しいクライアントの設定のコピー元): このエリアは、新しいクライアント設定を作成する元のソースを定義するのに使用します。基本的には、テンプレートまたは開始点として使用するソースを選択します。以下のどれからも選択することができます。
 - Currently displayed Client (現在表示されているクライアント): このラジオ・ボタンは、新しいクライアント設定が、デフォルト設定または既存のグループの設定よりも既存のクライアント設定に近い場合に使用します。
 - Selected Group (選択されたグループ): このラジオ・ボタンは、新規クライアント設定がデフォルト設定または別のクライアントの設定よりも既存グループの設定に近い場合に使用します。
 - Default settings(デフォルト設定): このラジオ・ボタンは、最初のセットのグループ設定を作成している場合、または新規設定がデフォルト設定に近い場合に使用します。
- **Delete Selected Client** (選択されたクライアントの削除): このボタンは、**Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドに表示されたクライアントの設定を削除するのに、使用します。

第4章 SMART Reaction マネージャー構成の理解

SMART Reaction マネージャーを使用して、バックアップ、リストア、およびミラー操作のためにクライアント・ワークステーションをリモートから構成するには、次の 4 つの重要なステップがあります。

1. バックアップまたはミラー・プロセスによって作成されたデータを保存するために、サーバーまたはピア・ワークステーション上の共有フォルダーまたはドライブをセットアップする。
2. SMART Reaction マネージャーを通じてデフォルトの構成設定を構成する。
3. クライアントにデフォルトの構成設定を渡す。
4. グループまたは個別のクライアントを構成する (任意選択)。

この節では、これらの重要なステップについて概説します。詳細なステップバイステップの手順については、以下を参照してください。

- 12ページの『Windows NT でフォルダーを共有可能にする』
- 13ページの『Windows 95 でフォルダーを共有可能にする』
- 62ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成』
- 65ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのグループ設定の作成』
- 66ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのクライアント設定の作成』

共有フォルダーおよびドライブ

最初のステップは、個別のクライアント・ワークステーションによる使用のために、サーバー、ピア・ワークステーション、または他のネットワークに接続された記憶装置上のディスク装置を指定することです。標準のサーバー・ネットワーク管理手順を使用して、共有フォルダーまたはドライブへの読み書きアクセスを付与する必要があります。各クライアント・ワークステーションに別個のフォルダーを指定する必要はありません。SMART Reaction は、個別の SMART Reaction クライアントに割り当てられた名前を組み込むパスを作成することにより、これを自動的に行います。また、SMART Reaction は、操作が実行されるときに、バックアップおよびミラー操作のタイプごとに、別々のフォルダーをセットアップします。このようにすることにより、SMART Reaction は複数レベルのデータ保護を提供します。

共有フォルダーおよびドライブのセットアップに関するステップバイステップの指示については、以下を参照してください。

- 12ページの『Windows NT でフォルダーを共有可能にする』
- 13ページの『Windows 95 でフォルダーを共有可能にする』

SMART Reaction マネージャーのデフォルト設定

デフォルト設定は SMART Reaction マネージャーを通じて設定され、その制御下にあるすべての SMART Reaction クライアントに適用されます。ただし、ネットワーク管理者の裁量により、SMART Reaction クライアントを通じて行われた設定が、一部のデフォルト設定をオーバーライドすることができます。ネットワーク管理者は、フィールドおよびファンクションを選択的にロックアウトすることができるので、エンド・ユーザーは特定のデフォルト設定をオーバーライドすることができません。SMART Reaction マネージャー・インターフェース内で、選択的にロックまたはロック解除することができるフィールドの隣に、**Client may set** (クライアントに設定を許可) チェックボックスが提供されます。チェックボックスが空である (チェック解除されている) 場合、設定は SMART Reaction クライアントの側で表示されたときに見ることはできますが、情報はグレー化され、変更することができません。

デフォルト設定が設定された後、SMART Reaction クライアントを実行する各クライアントを SMART Reaction マネージャー・データベースに追加する必要があります。

デフォルト設定の作成およびデータベースへのクライアント・ワークステーションの追加に関するステップバイステップの指示については、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成』を参照してください。

デフォルト設定をクライアント・ワークステーションに渡す

デフォルト設定は、SMART Reaction クライアントのインストールの一部としてクライアント・ワークステーションに渡されます。インストール時に、エンド・ユーザーは、マネージャー名 (このクライアント・ワークステーションにサービスする SMART Reaction マネージャーの名前) を入力するようプロンプトで指示されます。SMART Reaction クライアントのインストールの後、オペレーティング・システムが最初に再始動される時、SMART Reaction クライアントは割り当てられた SMART Reaction マネージャーにコンタクトし、その時点でデフォルト設定がクライアント・ワークステーションに渡されます。

注: カスタマイズされたグループまたは個々のクライアントの設定も定義されている場合は、これらもこの時点で該当するクライアント・ワークステーションに渡されます。

SMART Reaction クライアントは最小化モードで実行され、システム・トレイ内にアイコンを置き、それがアクティブであることを表示します。SMART Reaction クライアントが SMART Reaction マネージャーとコンタクトできない場合、プログラムがクローズし、非アクティブになります。いったん SMART Reaction クライアントが SMART Reaction マネージャーとコンタクトすると、それ以降の再始動では SMART Reaction マネージャーとコンタクトすることは要求されず、アクティブのままです。

グループまたは個々のクライアント・ワークステーションの構成

ほとんどのネットワーキング環境では、1つのサイズですべてに合う概念が望ましいにもかかわらず、これはいつでも実的なわけではありません。この理由から、グループまたは個別のベースでデフォルト設定をオーバーライドすることができます。

一般的には、個別のクライアントおよびグループの設定は、デフォルト設定のバリエーションです。したがって、デフォルト設定はテンプレートまたは開始点として使用することができ、異なっている必要があるフィールドだけを変更することができます。ただし、グループ設定を設定するか、クライアント設定を変更する前に、デフォルト、グループ、およびクライアント設定の階層を理解することが重要です。次のリストは一般的階層を説明していますが、例外を理解するためにリストに続く段落も必ずお読みください。

- グループにクライアントが追加される時は、グループ設定がクライアント設定をオーバーライドします。
- デフォルト設定への変更は、すべての既存のグループ設定およびクライアント設定をオーバーライドします。
- グループ設定への変更は、そのグループについての既存のデフォルト設定とクライアント設定の両方をオーバーライドします。
- クライアント設定内の変更は、そのクライアントについて その時点での 既存のグループ設定およびデフォルト設定をオーバーライドします。

バックアップおよびミラー・リストは、階層への例外です。ネットワーク管理者が SMART Reaction マネージャーを使用して、グループ設定またはデフォルト設定のいずれかについてバックアップ・リストまたはミラー・リストにフォルダーを追加する場合、クライアント・リストにフォルダーが追加されます。しかし、管理者が SMART Reaction マネージャーを使用して、デフォルト・リストまたはグループ・リストのいずれかからフォルダーを削除する場合、そのフォルダーは *既存の* クライアント・リストから削除 *されません*。ただし、削除されたフォルダーは、そのフォルダー

が削除された後に追加された新規クライアントについてのバックアップ・リストまたはミラー・リストに組み込まれることはありません。

既存のクライアントについてバックアップ・リストまたはミラー・リストからフォルダーを削除するには、SMART Reaction マネージャーまたは SMART Reaction クライアントのいずれかを使用して、Client Settings (クライアント設定) ノートブック内のリストを変更することができます。この削除は、選択されたクライアントにのみ影響を与えません。

この理由として、多くの場合、エンド・ユーザーが新規フォルダーを作成し、どのフォルダーが重要であり、バックアップされた操作またはミラー操作のリストに組み込まれる必要があるか知っているということです。

グループ設定がクライアント設定をオーバーライドしないようにする必要がある場合は、クライアントをグループから削除し、クライアントを個別に処理します。初期インストールと構成プロセスをスピードアップするために、グループ設定を使用します。この後、特定のクライアントをグループから削除する方法が、一般的によく使われます。

グループ設定またはクライアント設定を作成するためのステップバイステップの手順については、以下を参照してください。

- 65ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのグループ設定の作成』
- 66ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのクライアント設定の作成』

SMART Reaction は、クライアントを自動的に最新に保持するよう処理します。クライアント、デフォルト、またはグループ構成上で適用 または **OK** をクリックするとすぐに、SMART Reaction マネージャーは新しい設定を該当するクライアント・ワークステーションに即時に同報通信します。影響を受けるクライアント・ワークステーションが電源オフにされるか、ネットワークから切断される場合、そのワークステーションは同報通信を受信することができません。SMART Reaction マネージャーを実行するコンピューターでエラー・メッセージ(「クライアント名」にコンタクトできません。)が表示され、エラーがエラー・ログに記録されます。ただし、SMART Reaction クライアントは、それが開始されるたびに、それが割り当てられた SMART Reaction マネージャーを検査して新しいまたは更新された構成がないか調べるので、次回に開始されたときに更新された構成情報を受信します。次回の電源オン時にマネージャーとクライアントの間のネットワーク接続がアクティブでない場合、新しい設定は適用されません。

SMART Reaction クライアントが SMART Reaction マネージャーとのコンタクトを確立して検査することが要求されるのは、インストール後の最初のオペレーティング・システム再始動時だけであることを忘れないようにしてください。それ以降の再始動では、SMART Reaction マネージャーにコンタクトしようと試みますが、SMART Reaction マネージャーが利用不能な場合、SMART Reaction クライアントはそれが受信した前回の設定を使用して完全に作動可能になります。SMART Reaction マネージャーがアクセス可能でない場合は、エラー・メッセージは生成されません。

第5章 手順

この章では、SMART Reaction マネージャーと SMART Reaction クライアントの使用に関連する作業の多くを行うためのステップバイステップの指示を記載します。これらの手順で参照されるページまたはフィールドについての追加情報は、23ページの第3章、『SMART Reaction インターフェース』を参照してください。

バックアップ、リストア、およびミラー設定の処理	62
バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成	62
バックアップ、リストア、およびミラーのグループ設定の作成	65
バックアップ、リストア、およびミラーのクライアント設定の作成	66
SMART Reaction データベースへの新規クライアントの追加	67
SMART Reaction データベースからのクライアントの削除	68
グループ設定へのクライアントの追加	69
既存のクライアント設定の変更	69
ハード・ディスクのバックアップ、ミラー、およびリストア	70
ハード・ディスクのバックアップ	70
ハード・ディスクのミラーリング	70
ハード・ディスクのリストア	71
ハード・ディスクのバックアップ・ファイルのリストア	71
ハード・ディスク・ミラー・ファイルのリストア	72
SMART Reaction マネージャー・パスワードの変更	72
プロファイルの処理	73
ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成	73
ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成	74
電子メール・プロファイルの作成	75
Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成	76
Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成	77
Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成	78
Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成	79
既存プロファイルの変更	80
プロファイルの削除	80
応答へのプロファイルの割り当て	81
スケジュールの処理	81
イベントのスケジューリング	81
イベントのスケジュール解除	82
スケジュールされたイベントの表示	82

バックアップ、リストア、およびミラー設定の処理

これらの手順で説明されるバックアップ、リストア、およびミラー設定は、SMART Reaction の部分として納入されるバックアップ、リストア、およびミラー・プログラムに適用されます。これらの設定は、IBM ADSM、または SMART Reaction と共に使用しようとする他のバックアップまたはミラー・プログラムには適用されません。

バックアップ、リストア、およびミラー設定を処理する際、デフォルト、グループ、およびクライアント設定の階層を理解することが重要です。詳細については、58ページの『グループまたは個々のクライアント・ワークステーションの構成』を参照してください。

バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成

SMART Reaction マネージャーをセットアップする際、最も簡易な方法は、すべてのクライアント・ワークステーションによって使用されるデフォルト値のセットを構成してから、後でグループおよび個別のクライアントについてデフォルト設定を変更することです。この手順では、デフォルト設定の完全セットの作成を通してご案内します。

注: ほとんどのフィールドについてデフォルト設定を使用したくない場合でも、Servers (サーバー) ページでバックアップおよびミラーリングに使用されるサーバーを定義し、Names/Services (名前/サービス) ページで希望するバックアップ・サーバーを定義する必要があります

デフォルト値を作成するプロセスを開始する前に、以下のものが必要になります。

- SMART Reaction クライアントがインストールされる各クライアント・ワークステーションのコンピューター名。
- バックアップおよびミラー操作によって作成されるデータを保管するのに使用されるサーバーまたはピア・ワークステーションのコンピューター名、およびデータを書き込むフォルダーへのパス。コンピューター名は、Network (ネットワーク) ノートブック (各コンピューターの Control Panel (コントロール・パネル) を通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ (Windows 95 の場合) で定義されます。
- クライアント・ワークステーションがサーバーまたはピア・ワークステーション上の選択可能なハード・ディスク・スペースを検索する順序。

デフォルト設定を作成する手順は次のとおりです。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Default Settings...** (デフォルト設定...) をクリックします。
3. **Servers** (サーバー) タブをクリックし、デフォルト設定を次のように入力します。

注: 次のステップで、バックアップおよびミラー操作で作成されるデータを保存するのに使用されるサーバーまたはピア・ワークステーションの名前を入力します。コンピューター名を入力する順序は、クライアント・ワークステーションがバックアップおよびミラー操作の選択可能なハード・ディスク・スペースを検索する順序になります。いったんコンピューター名が入力されると、すべての名前を再入力しないと順序を変更することができません。名前を入力を間違えた場合、名前はいったん入力されると編集することができません。エントリーを除去 (エントリーを強調表示してから、**Remove Selected** (選択を削除)) を入力してから、コンピューター名を再び入力する必要があります。

- a. **Add** (追加) をクリックします。 バックアップ・データを保管するのに使用されるサーバーまたはピア・ワークステーションの 1 つについてコンピューター名とパスを (UNC 標準形式を使用して) 入力してから、**Enter** を押します。

たとえば、Windows NT ファイル・サーバーを定義している場合、形式は次のとおりです。

¥¥computer_name¥sharename¥path_to_target_folder

Windows 95 または Windows NT Workstation を実行するピア・ワークステーションを使用している場合は、形式は次のとおりです。

¥¥computer_name¥path_to_target_folder

バックアップまたはミラーされたデータを保管するのに使用されるすべてのサーバーおよびピア・サーバーについて、このステップを繰り返します。少なくとも 1 つのエントリが必要です。

- b. **Minimum free server space** (最小サーバー空き容量)(MB) フィールドで、バックアップ操作が完了した 後でデータを受信するサーバーまたはピア・ワークステーション上で利用可能であることを希望する空きディスク・スペースの量を選択します。十分なスペース (バックアップ + 空きスペース) が利用できない場合、SMART Reaction は Available Servers (利用可能サーバー) リストにリストされた次のコンピューターに移動します。

このフィールドに値を設定することはオプションです。

- c. **Maximum retry count** (最大試行回数) フィールドで、バックアップ・プロセス時にエラーが検出される (たとえば、サーバーがダウン) 場合に、SMART Reaction クライアントが試みる再試行の最大数を入力します。最大試行回数に到達すると、バックアップまたはミラー・プロセスは停止します。
- d. **Retry timeout** (再試行タイムアウト) フィールドで、エラーの後で SMART Reaction が再試行を試みる前に経過するミリ秒数を選択します。
- e. **適用** をクリックします。

4. **Names/Services** (名前/サーバー) タブをクリックして、デフォルト設定を次のように入力します。

- a. **Preferred backup server** (バックアップ・サーバー) フィールドで、ドロップダウン・リストを使用して、デフォルトの最初に選択されるサーバーまたはピア・ワークステーションを選択します。
- b. **Client may set** (クライアントに設定を許可) リストで、エンド・ユーザーにオーバーライドできるようにさせたい項目をチェックします。(この設定は後で、必要に応じて変更またはオーバーライドすることができます。)
- c. **適用** をクリックします。

5. **Backup** (バックアップ) タブをクリックし、バックアップするフォルダーを次のように定義します。

- a. **Folders (paths) for Windows 95 Backups** (Windows 95 バックアップのフォルダー (パス)) および **Folders (paths) for Windows NT Backups** (Windows NT バックアップのフォルダー (パス)) ボックスで、バックアップ操作に組み込むクライアント・ドライブまたはフォルダーのリストを作成します。
 - 1) **Add** (追加) をクリックします。
 - 2) ドライブとパスを入力します。パスはクライアントの視点からのものです。たとえば、c:¥ /s (すべてのサブフォルダーを含むドライブ C)。
 - 3) **Enter** を押します。
 - 4) これらのステップを繰り返して、追加のドライブまたはフォルダーを定義します。
- b. Backup (バックアップ) ページの下部で、デフォルトのバックアップ操作と関連付けたい属性をチェックまたはチェック解除します。これらの属性についての追加情報は、47ページの『Backup (バックアップ) ページ』を参照してください。

- c. **Client may set** (クライアントに設定を許可) エリアで、エンド・ユーザーに SMART Reaction クライアントを通じて変更することができるようにさせたい属性をチェックします。
 - d. **適用** をクリックします。
6. **Mirroring** (ミラーリング) タブをクリックし、ミラーリングするフォルダーを次のように定義します。
 - a. **Folders (paths) to be Mirrored** (ミラーされるフォルダー (パス)) ボックスで、ミラー操作に組み込まれるフォルダーのリストを作成します。
 - 1) **Add** (追加) をクリックします。
 - 2) ドライブとパスを入力します。パスはクライアントの視点からのものです。たとえば、次のように入力します。

c:\My Documents

すべてのサブフォルダーを組み込むためには /s パラメーターを付けます。
 - 3) **Enter** を押します。
 - 4) これらのステップを繰り返して、追加のフォルダーを定義します。最大 64 のフォルダーを指定することができます。
 - b. **Mirroring** (ミラーリング) ページの下部で、デフォルトのミラー操作と関連付けさせたい属性をチェックまたはチェック解除します。これらの属性についての追加情報は、49ページの『Mirroring (ミラーリング) ページ』を参照してください。
 - c. **Client may set** (クライアントに設定を許可) エリアで、エンド・ユーザーに SMART Reaction クライアントを通じて変更することができるようにさせたい属性をチェックします。
 - d. **適用** をクリックします。
7. **General** (一般) タブをクリックします。
 - a. **Error level to log** (ログのエラー・レベル) フィールドで、読者のニーズに合うレベルを選択します (1=エラーのみ、2=ログ情報とエラー、3 ~ 5=サポート専用のログ・デバッグ情報)。
 - b. **Clients maximum storage allowed on servers** (サーバーで許可されたクライアントの最大容量) フィールドで、個別のクライアントの上限として設定したい容量 (1,000,000 バイト単位) を選択します。
 - c. **Message timeout** (メッセージ・タイムアウト) フィールドで、クライアント・ワークステーション画面上でメッセージを表示させたい秒数を選択します。
 - d. 残りのチェックボックスで、デフォルトのミラー操作と関連付けさせたい属性をチェックまたはチェック解除します。これらの属性についての追加情報は、46ページの『General (一般) ページ』を参照してください。
 - e. **Client may set** (クライアントに設定を許可) エリアで、エンド・ユーザーに SMART Reaction クライアントを通じて変更できるようにさせたい属性をチェックします。
 - f. **適用** をクリックします。
8. **OK** をクリックします。デフォルト・ノートブックがクローズし、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウに戻ります。

注: 以下のステップでは、個別のクライアント・ワークステーションを SMART Reaction マネージャー・データベースに入らせません。デフォルト設定は、それらが SMART Reaction マネージャー・データベースに登録されるまで、クライアント・ワークステーションに渡すことはできません。
9. **Client Settings...** (クライアント設定...) をクリックします。
10. **Clients** (クライアント) タブをクリックします。

11. **ID (machine name) for new client** (新しいクライアントの ID (マシン名) を入力または「参照」を選んでください) フィールドで、新しいクライアント・ワークステーションの 1 つの名前を入力します。これは、Network (ネットワーク) ノートブック (各クライアントの Control Panel (コントロール・パネル) を通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ (Windows 95 の場合) にあるコンピューター名です。
12. 適用 をクリックします。
13. 新規クライアント・ワークステーションごとにステップ 11 および 12 を繰り返します。
14. すべての新規クライアント・ワークステーションが追加された後、**OK** をクリックします。

これで、デフォルト設定を作成するプロセスは完了します。

次に行うこと

- 貴社の規模およびエンド・ユーザーの個別のニーズに応じて、グループ設定または個別の設定を作成したい場合があります。詳細については、『バックアップ、リストア、およびミラーのグループ設定の作成』および 66 ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのクライアント設定の作成』を参照してください。
- デフォルト設定を作成し、各クライアント・ワークステーションを SMART Reaction マネージャー・データベースに登録したので、クライアント・ワークステーションに SMART Reaction クライアントをインストールすることができます。指示については、14 ページの『SMART Reaction クライアントのインストール』を参照してください。

注: ミラーリングが継続的に行われるようセットアップした場合は、SMART Reaction クライアントをインストールした後ミラーリング・プロセスが自動化になる前に、ミラーリング・プロセスを手動で 1 回開始する必要があります。詳細については、70 ページの『ハード・ディスクのミラーリング』を参照してください。

バックアップ、リストア、およびミラーのグループ設定の作成

グループ設定は、SMART Reaction マネージャーのみを通じて設定されます。グループ設定を使用する予定の場合は、デフォルト設定のセットをすでに定義しておく必要があります。デフォルト設定または別のセットのグループ設定をテンプレートまたは開始点として使用します。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22 ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Group Settings...** (グループ設定...) をクリックします。
3. **Groups** (グループ) タブをクリックし、以下のことを行います。

- a. **Name for new group** (新しいグループの名前) フィールドで、名前を入力します。名前は最大 20 文字の長さにすることができ、任意の組み合わせの英数字 (A ~ Z, a ~ z, または 0 ~ 9) にすることができます。記号およびスペースは許可されません。
- b. 既存グループの設定またはデフォルト設定をテンプレートとして使用するか決定します。
 - 既存グループの設定をテンプレートとして使用する場合は、**Group** (グループ) フィールドのドロップダウン・リストからグループを選択し、次に **Selected Group** (選択されたグループ) ラジオ・ボタンをクリックします。ソース・グループからクライアント・リストを組み込みたい場合は、**Copy the current client list into the new Group** (現在のクライアント・リストを新しいグループにコピー) チェックボックスをチェックします。

- デフォルト設定を使用する場合は、**Default Settings** (デフォルト設定) ラジオ・ボタンをクリックします。
- c. **Create New Group** (新しいグループの作成) をクリックします。
 - d. **Refresh Group List** (グループ・リストを更新) をクリックします。
 - e. **Group** (グループ) フィールド内のドロップダウン・リストを使用して、作成したばかりのグループ名を選択します。
 - f. **Clients** (クライアント) タブをクリックします。
 - g. **Clients for selected group** (選択されたグループのクライアント) リストを、以下のことを行うことにより、編集します。
 - クライアントを追加するには、**Add** (追加) をクリックし、フィールドにクライアント名を入力してから、**Enter** を押します。
 - リストからクライアントを削除するには、クライアント名をクリックしてそれを強調表示してから、**Remove Selection** (選択を削除) をクリックします。

このグループ内で追加または削除したいクライアント・ワークステーションごとに、このステップを繰り返します。リストを完成させたら、**Apply** (適用) をクリックします。
 4. 他のタブ (**Names/Services** (名前/サービス)、**General** (一般)、**Backup** (バックアップ)、および **Mirroring** (ミラーリング)) をそれぞれクリックし、テンプレート設定とは異なるフィールドを変更します。各ページを完成させるたびに、**Apply** (適用) をクリックします。

注: フィールドのどれかに入力するのに援助が必要な場合は、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成』を参照してください。Groups Settings (グループ設定) ノートブック内のフィールドは、Default Settings (デフォルト設定) ノートブックの匹敵するページに含まれるフィールドと同じ規則に従います。
 5. 変更を行うのを終了したら、**OK** をクリックします。

バックアップ、リストア、およびミラーのクライアント設定の作成

個別のクライアント設定は、SMART Reaction マネージャーまたは SMART Reaction クライアントのいずれかを通じて設定されます。個別のクライアント設定を使用する予定の場合は、デフォルト設定のセットをすでに定義しておく必要があります。デフォルト設定、グループ設定のセット、または別の個別のクライアントの設定をテンプレートまたは開始点として使用します。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Client Settings...** (クライアント設定...) をクリックします。
3. **Clients** (クライアント) タブをクリックし、以下のことを行います。
 - a. **ID (machine name) for new client** (新しいクライアントの ID (マシン名)) を入力または「参照」を選んでください) フィールドに、Network (ネットワーク) ノートブック (新しいクライアント・ワークステーションのコントロール・パネルを通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ

(Windows 95 の場合) で定義されたような、新規クライアント・ワークステーションのコンピューター名を入力します。

b. 既存グループの設定、既存クライアントの設定、またはデフォルト設定をテンプレートとして使用するかを決定します。

- 既存クライアントの設定を使用する場合は、**Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドのドロップダウン・リストからクライアントを選択してから、**Currently displayed Client** (現在表示されているクライアント) ラジオ・ボタンをクリックします。
- 既存グループの設定をテンプレートとして使用する場合は、**Group for new client** (新しいクライアントのグループ) フィールドのドロップダウン・リストからグループを選択し、次に **Selected Group** (選択されたグループ) ラジオ・ボタンをクリックします。
- デフォルト設定を使用する場合は、**Default Settings** (デフォルト設定) ラジオ・ボタンをクリックします。

4. 他のタブ (Names/Services (名前/サービス)、General (一般)、Backup (バックアップ)、および Mirroring (ミラーリング)) をそれぞれクリックし、テンプレート設定とは異なるフィールドを変更します。

注: フィールドのどれかに入力するのに援助が必要な場合は、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラーのデフォルト設定の作成』を参照してください。Client Settings (クライアント設定) ノートブック内のフィールドは、Default Settings (デフォルト設定) ノートブックの匹敵するページに含まれるフィールドと同じ規則に従います。

5. 変更を行うのを終了したら、**OK** をクリックします。

SMART Reaction データベースへの新規クライアントの追加

SMART Reaction クライアントを新しいクライアント・ワークステーションにインストールする *前に*、SMART Reaction マネージャー・データベースにこれらのワークステーションを追加するには、この手順を使用してください。SMART Reaction マネージャー・データベースにクライアント・ワークステーションが追加されるまでは、SMART Reaction マネージャーは、デフォルト、グループ、またはクライアント構成を渡すことはできません。

いったん SMART Reaction マネージャーがインストールされ、デフォルト設定のセットが定義されると、SMART Reaction データベースに登録された各クライアント・ワークステーションは、それに SMART Reaction クライアントがインストールされるときにデフォルト構成を受け取ります。

クライアントをデータベースに追加する手順は次のとおりです。

1. SMART Reaction マネージャーから、System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Client Settings...** (クライアント設定...) をクリックします。

3. Clients (クライアント) タブをクリックします。

4. **ID (machine name) for new client** (新しいクライアントの ID (マシン名)) を入力または「参照」を選んでください) フィールドで、新規クライアント・ワークステーションの 1 つの名前を入力します。これは、Network (ネッ

トワーク) ノートブック (各クライアントの Control Panel (コントロール・パネル) を通じてアクセス可能) の識別タブ (Windows NT の場合)、またはユーザー情報タブ (Windows 95 の場合) にあるコンピューター名です。

5. **Apply** (適用) をクリックします。
6. 新規クライアント・ワークステーションごとにステップ 4 (67ページ) および 5 を繰り返します。
7. すべての新規クライアント・ワークステーションが追加された後、**OK** をクリックします。

SMART Reaction データベースからのクライアントの削除

SMART Reaction マネージャー・データベースからクライアント・ワークステーションを削除するには、この手順を使用してください。

既存構成を更新するか、新規構成を追加するか、既存構成に新規クライアントを割り当てるたびに、SMART Reaction マネージャーは、影響を受けるクライアントまたはクライアントのグループに構成情報を送信しようとします。影響を受けるクライアント・ワークステーションが電源オフにされるか、ネットワークから切断される場合、次のメッセージを受け取ります。

「クライアント名」にコンタクトできません

クライアント・ワークステーションがサービスから外された場合、またはクライアント・ワークステーションをデータベースに追加するときに Client Settings (クライアント設定) ノートブックの Clients (クライアント) ページの **ID (machine name) for new client** (新しいクライアントの ID (マシン名)を入力または「参照」を選んでください) フィールドにクライアント・コンピューター名を間違えて入力した場合、データベースからクライアント・ワークステーションを削除する必要があります。

データベースからクライアントを削除する手順は次のとおりです。

1. SMART Reaction マネージャーから、System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22 ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Client Settings...** (クライアント設定...) をクリックします。
3. Clients (クライアント) タブをクリックします。
4. **Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドで、ドロップダウン・リストを使用して、削除したいクライアント名を選択します。
5. **Delete Selected Client** (選択されたクライアントの削除) をクリックします。
6. 削除したいクライアント・ワークステーションごとにステップ 4 および 5 を繰り返します。
7. 削除したいクライアント・ワークステーションをすべて削除した後、**OK** をクリックします。

グループ設定へのクライアントの追加

既存グループに新しいクライアント・ワークステーションを追加したい場合は、SMART Reaction マネージャーから以下のことを行ってください。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Group Settings...** (グループ設定...) をクリックします。
3. **Clients** (クライアント) タブをクリックします。
4. ウィンドウの上部の **Group** (グループ) フィールドで、ドロップダウン・リストを使用して、新しいクライアント・ワークステーションが部分となるグループを選択します。
5. **Clients in selected group** (選択されたグループのクライアント) ボックスで、**Add** (追加) をクリックし、フィールド内にクライアント名を入力してから、**Enter** を押します。リストに追加されるそれぞれの新しいクライアント・ワークステーションごとにこのステップを繰り返します。
6. 新規クライアント・ワークステーションがリストに追加された後、**OK** をクリックします。

既存のクライアント設定の変更

ネットワーク管理者が **Client may set** (クライアントに設定を許可) チェックボックスをすべて使用可能にしてある場合、エンド・ユーザーは SMART Reaction クライアントを使用して既存の設定を変更することができます。ただし、ネットワーク管理者の裁量で、フィールドの一部または全部がロックされる場合があります。クライアント、グループ、およびデフォルト設定の変更が相互にどのように影響を与えることができるか理解することも重要です。詳細については、58ページの『グループまたは個々のクライアント・ワークステーションの構成』を参照してください。

クライアント設定を変更するには、以下のことを行ってください。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Client Settings...** (クライアント設定...) をクリックします。
3. SMART Reaction マネージャーから変更を行っている場合は、**Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドのドロップダウン・リストを使用して該当するクライアントを選択します。
4. 必要に応じて、ノートブックの各ページの情報を変更します。
5. すべての変更が行われたら、**OK** をクリックします。

変更された情報は、SMART Reaction マネージャーと SMART Reaction クライアントの間で同期されるようになります。

ハード・ディスクのバックアップ、ミラー、およびリストア

この節では、バックアップ、リストア、またはミラー操作を手動で開始するためのステップバイステップの指示を記載します。バックアップまたはミラー操作のスケジュールリングについての情報は、81ページの『イベントのスケジュールリング』を参照してください。

ハード・ディスクのバックアップ

以下の手順では、有効なバックアップ設定がすでに存在し、変更を必要としないものと想定しています。バックアップ設定を作成または変更する必要がある場合は、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラー設定の処理』を参照してください。

ハード・ディスクをバックアップする手順は次のとおりです。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. Backup (バックアップ) タブをクリックします。
3. SMART Reaction マネージャーからバックアップを開始する場合は、**Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドのドロップダウン・リストを使用して該当するクライアントを選択します。
4. **Selected Backup Set** (選択されたバックアップ・セット) フィールドのドロップダウン・リストから該当するバックアップ・セットを選択します。
5. **Start Backup** (バックアップ開始) をクリックします。

ハード・ディスクのミラーリング

以下の手順では、有効なミラー設定がすでに存在し、変更を必要としないものと想定しています。ミラー設定を作成または変更する必要がある場合は、62ページの『バックアップ、リストア、およびミラー設定の処理』を参照してください。

ハード・ディスクをミラーリングする手順は次のとおりです。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. Mirror (ミラーリング) タブをクリックします。
3. SMART Reaction マネージャーからミラーリングを開始する場合は、**Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドのドロップダウン・リストを使用して該当するクライアントを選択します。
4. **Start Mirroring** (ミラー開始) をクリックします。

選択されたフォルダーがミラーされます。ミラーリングが連続稼働用にセットアップされている場合、ミラー・ファイルは、変更されたファイルが保管されるたびに更新されます。ミラーリングが非連続稼働用にセットアップされている場合、ミラー・ファイルは、この手順が繰り返されるか、スケジューラーがミラー操作を起動するまで、再び更新されません。

ハード・ディスクのリストア

ハード・ディスクを交換した場合は、ファイルをリストアする前に、新しいハード・ディスクに正しく区画が作られ、フォーマット済みであるか確認してください。新しいドライブでそれが置き換えたドライブと異なるように区画が作られているか、古いドライブとは異なる基本または拡張パーティション割り当てを持つ場合は、ドライブ名の割り当てが古いドライブと異なる場合があります、そのためにリストア操作がデータを間違ったドライブに書き込むことになる場合があります。ファイルは、バックアップ・ファイルが作成されたのと同じドライブ名にリストアする必要があります。

ハード・ディスクのバックアップ・ファイルのリストア: バックアップ操作からデータをリストアする手順は次のとおりです。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. SMART Reaction マネージャーからリストア操作を開始する場合は、**Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドの端にあるドロップダウン・リストから該当するクライアントを選択します。
3. Restore Backup (リストア・バックアップ) タブをクリックします。
4. **Selected Restore Set** (選択されたリストア・セット) フィールドで、ドロップダウン・リストを使用して、バックアップ・セットを選択します。
5. **Status for this backup set** (このバックアップ・セットのステータス) フィールドで、選択されたバックアップ・セット用の有効なバックアップ・ファイルのセットがあるか確認します。
6. **Drives stored in the backup** (バックアップされたドライブ) フィールドで、ドロップダウン・リストから正しいドライブ名を選択します。バックアップ操作に複数のドライブが関係していた場合、ファイルをすべてリストアするには複数のリストア操作を行う必要があります。リストア操作は、一度に 1 つのドライブずつ行われます。
7. **Destination for restored files** (ファイルをリストアする場所) フィールドで、ドライブ名とパスを入力します。

注: ファイルをリストアすると、リストア・パスにある同じ名前を持つ既存のファイルを上書きします。リストア操作は個別のファイルをリストアすることはできません。したがって、保持したいファイルを上書きする危険がある場合には、**Destination for restored files** (ファイルをリストアする場所) フィールドで、`c:\%restore` などの新規パスを作成します。リストア・プロセスが完了した後、希望のファイルをそれぞれのディレクトリーに手動でコピーまたは移動することができます。

8. 次のいずれかの方法で、リストア操作を開始します。

- **Start Restore** (リストアの開始) をクリックします。ターゲット・クライアント・ワークステーションが電源オンされており、ネットワークに接続されている場合は、リストア操作が即時に開始されます。

- または -

- **Automatically restore client's backup on next restart** (次のログオンにクライアントのバックアップを自動的にリストア) チェックボックスをチェックします。このチェックボックスがアクティブであるのは、PFA で生成されたか、またはバックアップ・セット (Hard Drive 0 (ハード・ドライブ 0) または Hard Drive 1

(ハード・ドライブ 1)) が選択されている場合のみです。リストア操作は、次回にターゲット・クライアント・ワークステーションが再始動されるときに開始されます。リストア操作が完了すると、SMART Reaction はチェックボックスからチェックを自動的に除去します。

ハード・ディスク・ミラー・ファイルのリストア: ミラー操作からデータをリストアする手順は次のとおりです。

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22 ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. SMART Reaction マネージャーからリストア操作を開始する場合は、**Selected Client** (選択されたクライアント) フィールドの端にあるドロップダウン・リストから該当するクライアントを選択します。

3. Restore Mirrors (リストア・ミラー) タブをクリックします。

4. **Mirror Recovery for this Client** (このクライアントのミラーの回復) フィールドで、選択されたクライアント用の有効なミラー・ファイルのセットが存在するか確認します。

5. **Drives stored in the mirror** (ミラーされたドライブ) フィールドで、ドロップダウン・リストから正しいドライブ名を選択します。ミラー操作に複数のドライブが関係していた場合、ファイルをすべてリストアするには複数のリストア操作を行う必要があります。リストア操作は、一度に 1 つのドライブずつ行われます。

6. **Destination for restored files** (ファイルをリストアする場所) フィールドで、ドライブ名とパスを入力します。

注: ファイルをリストアすると、リストア・パスにある同じ名前を持つ既存のファイルを上書きします。リストア操作は個別のファイルをリストアすることはできません。したがって、保持したいファイルを上書きする危険がある場合には、**Destination for restored files** (ファイルをリストアする場所) フィールドで、`c:\%restore` などの新規パスを作成します。リストア・プロセスが完了した後、希望のファイルをそれぞれのディレクトリーに手動でコピーまたは移動することができます。

7. **Start Restore** (リストアの開始) をクリックします。ターゲット・クライアント・ワークステーションが電源オンされており、ネットワークに接続されている場合は、リストア操作が即時に開始されます。

SMART Reaction マネージャー・パスワードの変更

1. System Tray (システム・トレイ) 内の SMART Reaction アイコンをダブルクリックします。

注: アイコンがない場合は、SMART Reaction Backup/Restore/Mirror (SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラー) ファンクションは現在アクティブではありません。このファンクションの再始動については、22 ページの『SMART Reaction バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクションの手動による開始』を参照してください。

Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。

2. **Default Settings...** (デフォルト設定...) をクリックします。

3. **Password** (パスワード) タブをクリックします。

4. **Current password** (現在のパスワード) フィールドで、現行パスワードを入力します。現行パスワードを知らない場合は、パスワードを変更することができません。

5. **Enter new password** (新しいパスワードを入力) フィールドで、新規パスワードを入力します。新規パスワードは、最大 32 文字の長さにすることができ、任意の組み合わせの英数字 (A ~ Z、a ~ z、または 0 ~ 9) から構成することができます。スペースおよび記号は許可されません。
6. **Enter new password again** (新しいパスワードを再度入力) フィールドで、確認のために新規パスワードを再度入力します。このフィールドのエントリが、**Enter new password** (新しいパスワードを入力) フィールドのエントリと一致しない場合、パスワードは変更されません。
7. **OK** をクリックします。

プロファイルの処理

プロファイルを使用して、以下のことを行います。

- コンピューターが PFA アラートにどのように応答するか定義する
- バックアップ、リストア、またはミラーリング操作をスケジュールする

ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成

注: SMART Reaction バックアップ・プログラム以外のバックアップ・プログラムを使用する予定の場合は、コンピューター・ハード・ディスク上でプログラムをインストールする必要があります。サーバーまたはピア・コンピューターからバックアップ・プログラムを実行することはサポートされていません。SMART Reaction バックアップ・プログラムは、ハード・ディスク上に IBM SMART Reaction インストールの一部としてインストールされました。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) タブをクリックします。
4. **New** (新規作成) をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが表示されません。
5. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、Backup (バックアップ)、Restore (リストア)、または Mirror (ミラー) プロファイル用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
6. **OK** をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが消え、名前が **Profile** (プロファイル) フィールドに表示されます。
7. 使用したいバックアップ・プログラム用のラジオ・ボタンをクリックします。
 - ADSM を選択する場合は、提供されているフィールドに ADSM パスワードを入力してから、続けてステップ 8 (74ページ) に進みます。
 - SMART Reaction バックアップを選択する場合は、**Configure SMART Reaction** (SMART Reaction の構成) をクリックします。Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。該当するフィールドに入力してから、構成を保管します。援助を必要とする場合は、36ページの『コントロールとステータス・ウィンドウ』を参照してください。構成を保管した後、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウを最小化してから、続けてステップ 8 (74ページ) に進みます。
 - **Other** (その他) を選択する場合は、**Backup Program** (バックアップ・プログラム) フィールド、**Additional Parameters** (追加パラメーター) フィールド、および Browse (参照) ボタンがアクティブになります。以下のステップを実行してください。

- a. **Browse** (参照) をクリックして、バックアップ・プログラム実行可能ファイルを見つけてから、ファイルを選択します。ファイル名は、**Backup Program** (バックアップ・プログラム) フィールドに表示されません。
- b. 必要に応じて、**Additional Parameters** (追加パラメーター) フィールドに、バックアップ・プログラム実行可能ファイルによって必要とされるコマンド行パラメーターがあればそれを入力します。サポートされているコマンド行パラメーターについては、バックアップ・プログラムの資料を参照してください。
- c. 続けてステップ 8 に進みます。

8. **Save** (保存) をクリックします。プロファイルがバックアップ応答に自動的に割り当てられます。

次に行うこと:

- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。
- 既存プロファイルを変更するには、80ページの『既存プロファイルの変更』を参照してください。
- バックアップ・イベントが特定の日および時刻に行われるようスケジュールするには、81ページの『イベントのスケジュールリング』を参照してください。
- 異なるタイプのプロファイルを作成するには、以下のいずれかを参照してください。
 - 『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
 - 75ページの『電子メール・プロファイルの作成』
 - 78ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』
 - 76ページの『Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成』
 - 77ページの『Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成』
 - 79ページの『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』

ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成

注: SMART Reaction ミラーリング・プログラム以外のミラーリング・プログラムを使用する予定の場合は、コンピューター・ハード・ディスク上でプログラムをインストールする必要があります。サーバーまたはピア・クライアントからミラーリング・プログラムを実行することはサポートされていません。SMART Reaction ミラーリングは、IBM SMART Reaction インストールの一部としてハード・ディスクにインストールされましたが、それを構成しないとアクティブになりません。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) タブをクリックします。
4. **New** (新規作成) をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが表示されません。
5. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、バックアップ、リストア、またはミラー・プロファイル用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
6. **OK** をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが消え、名前が **Profile** (プロファイル) フィールドに表示されます。
7. 使用したいミラーリング・プログラム用のラジオ・ボタンをクリックします。
 - SMART Reaction ミラーリングを選択する場合は、**Configure SMART Reaction (SMART Reaction の構成)** をクリックします。Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウが表示されます。 該当

するフィールドに入力してから、構成を保管します。援助を必要とする場合は、36ページの『コントロールとステータス・ウィンドウ』を参照してください。構成を保存した後、続けてステップ 8 (75ページ) に進みます。

- Other (その他) を選択する場合は、**Backup Program** (バックアップ・プログラム) フィールド、**Additional Parameters** (追加パラメーター) フィールド、および Browse (参照) ボタンがアクティブになります。以下のステップを実行してください。
 - a. **Browse** (参照) をクリックして、ミラーリング・プログラム実行可能ファイルを見つけてから、ファイルを選択します。ファイル名は、**Backup Program** (バックアップ・プログラム) フィールドに表示されます。
 - b. 必要に応じて、**Additional Parameters** (追加パラメーター) フィールドに、ミラーリング・プログラム実行可能ファイルによって必要とされるコマンド行パラメーターがあればそれを入力します。サポートされているコマンド行パラメーターについては、ミラーリング・プログラムの資料を参照してください。
 - c. 続けてステップ 8 に進みます。

8. **Save** (保存) をクリックします。プロファイルが応答に自動的に割り当てられます。

次に行うこと:

- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。
- 既存プロファイルを変更するには、80ページの『既存プロファイルの変更』を参照してください。
- 異なるタイプのプロファイルを作成するには、以下のいずれかを参照してください。
 - 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
 - 『電子メール・プロファイルの作成』
 - 78ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』
 - 76ページの『Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成』
 - 77ページの『Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成』
 - 79ページの『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』

電子メール・プロファイルの作成

E-mail (電子メール) 機能を使用するには、Microsoft Mail プログラムをインストールしておく必要があります。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、電子メール・タブをクリックします。

注: 電子メール・タブを初めてクリックするときに、ポップアップ・メッセージが表示されて、電子メール・ウィザードが、新規の Windows Messaging プロファイルの作成を通じて案内することを知らせます。**OK** をクリックし、画面の指示に従って Windows Messaging プロファイルを作成します。Windows Messaging プロファイルが完成したら、続けて以下の指示に進みます。

4. **New** (新規作成) をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが表示されません。
5. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、E-mail (電子メール) プロファイル用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
6. **OK** をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが消え、名前が **Profile** (プロファイル) フィールドに表示されます。

7. **To** (宛先) フィールドに、主要な宛先の完全な電子メール・アドレスを入力します。
8. **Subject** (件名) フィールドに、電子メールの簡単な説明を入力します。
9. **CC** フィールドに、電子メールの写しを送る宛先の完全な電子メール・アドレスを入力します。
10. **Message** (メッセージ) フィールドに電子メール・メッセージ (最大 1024 文字) を入力します。
11. **Save** (保存) をクリックします。プロファイルが応答に自動的に割り当てられます。

次に行うこと:

- 別の E-mail (電子メール) プロファイルを作成するには、この手順のステップ 4 ~ 11 を繰り返します。
- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。
- 既存プロファイルを変更するには、80ページの『既存プロファイルの変更』を参照してください。
- 異なるタイプのプロファイルを作成するには、以下のいずれかを参照してください。
 - 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
 - 74ページの『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
 - 78ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』
 - 『Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成』
 - 77ページの『Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成』
 - 79ページの『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』

Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、Numeric Pager (数字ポケットベル) タブをクリックします。
4. **Settings** (ポケットベル設定) をクリックします。Settings (ポケットベル設定) ウィンドウが表示されます。
 - a. ローカル・モデム (コンピューター内に取り付けられているか、コンピューターに接続されているモデム) またはリモート・モデム (ネットワーク上の別のコンピューター内に取り付けられているか、それに接続されているモデム) のどちらを使用するのか選択します。リモート・モデムを選択する場合は、TCP/IP ホスト名またはモデムが付いたコンピューターの IP アドレスを提供する必要があります。
 - b. 保存 をクリックします。
5. **New** (新規作成) をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが表示されず。
6. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイル用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
7. **OK** をクリックします。 Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが消え、名前が **Profile** (プロファイル) フィールドに表示されます。
8. **Pager Number** (ポケットベル番号) フィールドで、ポケットベル用の電話番号を入力します。外線用に必要とされる番号を必ず組み込んでください。ローカル呼び出しエリアの外側を呼び出している場合は、市外局番、および必要に応じて国コードも組み込んでください。
9. **Message** (メッセージ) フィールドに、数字メッセージを入力します。これは通常は、システム管理者の電話番号ですが、IP アドレス、エラー・コード、または 15 文字までのその他の数字メッセージでも構いません。

10. ページング・システムが個人識別番号を要求する場合は、PIN フィールドに入力します。

11. **Save** (保存) をクリックします。プロファイルが応答に自動的に割り当てられます。

次に行うこと:

- 別の Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルを作成するには、この手順のステップ 5 ~ 11 を繰り返します。
- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。
- 既存プロファイルを変更するには、80ページの『既存プロファイルの変更』を参照してください。
- 異なるタイプのプロファイルを作成するには、以下のいずれかを参照してください。
 - 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
 - 74ページの『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
 - 75ページの『電子メール・プロファイルの作成』
 - 78ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』
 - 『Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成』
 - 79ページの『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』

Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
 2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
 3. Configuration ノートブックから、Message Box (メッセージ・ボックス) タブをクリックします。
 4. **New** (新規作成) をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが表示されます。
 5. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイル用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
 6. **OK** をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが消え、名前が **Profile** (プロファイル) フィールドに表示されます。
 7. **Title** (タイトル) フィールドで、メッセージ・ボックスのタイトル・バーに表示したいテキスト (最大 64 文字) を入力します。
 8. **Severity** (重要度) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ドロップダウン・メニューから該当する重要度レベルを選択します。作成しているメッセージ・ボックスのタイトル・バーのすぐ下に、重要度レベルが表示されます。
 9. **Size** (サイズ) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ドロップダウン・メニューからサイズを選択します。これは、メッセージ・ボックスの物理サイズ (高さおよび幅) です。メッセージ・ボックスの実際のサイズは、表示のタイプおよびそれが設定されている解像度によって影響を受けます。メッセージがどのように見えるか確かでない場合には、とりあえず任意のサイズを選択します。この手順で後ほどメッセージを事前表示する機会があります。
10. 内容 フィールドで、表示させたいメッセージ (最大 320 文字) を入力します。
11. 指定された時間内に応答されなかった場合にメッセージを自動的にクローズするようにさせたい場合は、**Close after timeout** (タイムアウト後閉じる) フィールドで以下のことを行ってください。
- a. チェックボックスをチェックします。
 - b. フィールドの端の矢印をクリックしてから、期間を選択します。

12. メッセージに Yes および No ボタンを (OK ボタンに対立するものとして) 表示させたい場合には、**Prompt Response** (応答の表示) フィールドのチェックボックスをチェックしてください。
13. **Close after timeout** (タイムアウト後閉じる) チェックボックスと **Prompt Response** (応答の表示) チェックボックスの両方がチェックされる場合は、**Response at timeout** (タイムアウトで応答) フィールドがアクティブになります。はいまたはいいえボタンのいずれかをクリックし、タイムアウト期間が満了したときに発生するデフォルトの応答を設定します。
14. メッセージを事前表示するには、表示 をクリックします。メッセージをクローズし、必要に応じてプロファイルを変更します。
15. **Save** (保存) をクリックします。プロファイルが応答に自動的に割り当てられます。

次に行うこと:

- 別の Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルを作成するには、この手順のステップ 4 ~ 15 を繰り返します。
- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。
- 既存プロファイルを変更するには、80ページの『既存プロファイルの変更』を参照してください。
- 異なるタイプのプロファイルを作成するには、以下のいずれかを参照してください。
 - 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
 - 74ページの『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
 - 75ページの『電子メール・プロファイルの作成』
 - 『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』
 - 76ページの『Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成』
 - 79ページの『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』

Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、Custom Program (カスタム・プログラム) タブをクリックします。
4. **New** (新規作成) をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが表示されません。
5. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイル用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
6. **OK** をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが消え、名前が **Profile** (プロファイル) フィールドに表示されます。
7. **Path and file name** (パス/ファイル名) フィールドで、立ち上げたいプログラムの完全なパスとファイル名を入力します。ファイルを見つけて、選択するには、Browse (参照) ボタンを使用することもできます。
8. **Additional parameters** (追加パラメーター) フィールドで、希望の結果を得るのに必要な任意のコマンド行パラメーターを入力します。サポートされているコマンド行パラメーターについては、ご使用のプログラムの資料を参照してください。
9. **Save** (保存) をクリックします。プロファイルが応答に自動的に割り当てられます。

次に行うこと:

- 別の Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルを作成するには、この手順のステップ 4 ~ 9 を繰り返します。
- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。
- 既存プロファイルを変更するには、78ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』を参照してください。
- 異なるタイプのプロファイルを作成するには、以下のいずれかを参照してください。
 - 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
 - 74ページの『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
 - 75ページの『電子メール・プロファイルの作成』
 - 76ページの『Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成』
 - 77ページの『Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成』
 - 『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』

Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成

スケジューラーはハード・ディスクのバックアップまたはミラーリング操作にのみ使用することができ、1つのプロファイルに制限されます。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、Scheduler (スケジューラー) タブをクリックします。
4. **New** (新規作成) をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが表示されません。
5. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、Scheduler (スケジューラー) プロファイル用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
6. **OK** をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保管) ウィンドウが消え、名前が **Profile** (プロファイル) フィールドに表示されます。
7. **Frequency** (頻度) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、イベントを発生させたい頻度を選択します。

注: このフィールドで行う選択は、他のどのフィールドがアクティブのままになっているかを決定します。非アクティブのフィールドはグレー化されます。
8. アクティブな各フィールドの端の矢印をクリックし、ドロップダウン・メニューを使用してスケジュール用の設定を選択します。**Day of Month** (日) および **Month** (月) フィールドを使用する場合は、年 (4桁の数字) も入力する必要があります。たとえば、1998。
9. **Save** (保存) をクリックします。

次に行うこと:

- このプロファイルを応答と関連付けるには、81ページの『イベントのスケジューリング』を参照してください。
- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。
- 既存プロファイルを変更するには、80ページの『既存プロファイルの変更』を参照してください。
- 異なるタイプのプロファイルを作成するには、以下のいずれかを参照してください。

- 73ページの『ハード・ディスク・バックアップ・プロファイルの作成』
- 74ページの『ハード・ディスク・ミラーリング・プロファイルの作成』
- 75ページの『電子メール・プロファイルの作成』
- 78ページの『Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成』
- 76ページの『Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成』
- 77ページの『Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成』

既存プロファイルの変更

既存プロファイルに基づいて新規プロファイルを作成し、異なっている必要があるプロパティーのみを変更することができます。このプロセスにより、いくらか時間を節約することができます。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration (構成) ノートブックから、ベースとして使用したいプロファイルを含むタブをクリックします。
4. **Profile** (プロファイル) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、ベースとして使用したいプロファイルを選択します。そのプロファイル用のプロパティーが表示されます。
5. 変更したいフィールドを変更します。
6. **Save As** (名前を付けて保存) をクリックします。
7. Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウで、名前 (最大 64 文字) を入力します。この名前は、作成しているプロファイルのタイプ用にすでに使用されているどの名前とも異なっている必要があります。
8. **OK** をクリックします。Save Profile As (名前を付けてプロファイルを保存) ウィンドウが消え、Profile (プロファイル) フィールドに新規の名前が表示され、プロファイル (Scheduler (スケジューラー) プロファイルを除く) が応答に自動的に割り当てられます。

次に行うこと:

- 別のプロファイルを変更するには、この手順のステップ 3 ~ 8 を繰り返します。
- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。

プロファイルの削除

プロファイルを削除するには、この手順を使用してください。Scheduler (スケジューラー) プロファイルを除いては、これはプロファイルを応答から関連付け解除する唯一の方法です。Scheduler (スケジューラー) プロファイルを別のプロファイルから関連付け解除することについての情報は、82ページの『イベントのスケジュール解除』を参照してください。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、削除したいプロファイルを含むタブをクリックします。
4. **Profile** (プロファイル) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、削除したいプロファイルを選択します。そのプロファイル用のプロパティーが表示されます。
5. **Remove** (削除) をクリックします。

次に行うこと:

- 別のプロファイルを削除するには、この手順のステップ 3 ~ 5 を繰り返します。
- Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻るには、**OK** をクリックします。

応答へのプロファイルの割り当て

プロファイルが作成され、保存されると、新規プロファイルは、Scheduler (スケジューラー) プロファイルを除き、該当する応答 (Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ内の) に自動的に割り当てられます。Scheduler (スケジューラー) プロファイルは、Backup (バックアップ) または Mirroring (ミラー) プロファイルと関連付けられるまでは、非アクティブのままです。詳細な情報については、特定のタイプのプロファイルの作成に関する手順を参照してください。Scheduler (スケジューラー) プロファイルを Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルと関連付ける必要がある場合は、『イベントのスケジューリング』を参照してください。

スケジュールの処理

スケジューラーは、バックアップおよびミラーリング・イベントをスケジュールする場合のみ、使用してください。一回限りのイベントまたは繰り返されるイベント (毎日、毎週、または毎月) をスケジュールすることができます。

イベントのスケジューリング

イベントをスケジュールする手順は次のとおりです。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Scheduler (スケジューラー) プロファイルを作成します (詳細については、79ページの『Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成』を参照してください)。次に、Response Summary (応答の一覧) ウィンドウに戻ります。
3. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Configure Scheduler** (スケジューラー設定) をクリックします。Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウがオープンします。
4. **Scheduled Event Profile** (スケジュールされたイベントのプロファイル) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、使用したい Scheduler (スケジューラー) プロファイルをクリックします。
5. **Backup/Mirroring Profile** (バックアップ/ミラーリング) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、使用したい Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルをクリックします。
6. **Add** (追加) をクリックします。選択された Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルが、下の要約ボックス内の Scheduler (スケジューラー) プロファイルに表示されます。これでイベントはスケジュールされました。

次に行うこと:

- Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウをクローズするには、**OK** (了解) をクリックします。
- イベントをスケジュール解除するには、82ページの『イベントのスケジュール解除』を参照してください。

イベントのスケジュール解除

イベントをスケジュール解除する手順は次のとおりです。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Configure Scheduler** (スケジューラー設定) をクリックします。Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウがオープンします。現在スケジュールされているイベントが要約ボックスに表示され、アクティブな Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルが関連付けられた Scheduler (スケジューラー) プロファイルの下にリストされています。
3. **Scheduled Event Profile** (スケジュールされたイベントのプロファイル) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、使用する Scheduler (スケジューラー) プロファイルをクリックします。
4. **Backup/Mirroring Profile** (バックアップ/ミラーリング) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、使用中の Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルをクリックします。
5. **Remove** (削除) をクリックします。Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルが、下の要約ボックス内の Scheduler (スケジューラー) プロファイルから消えます。イベントはもはやスケジュールされていません。

次に行うこと:

- Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウをクローズするには、**OK** をクリックします。
- 別のイベントをスケジュール解除するには、この手順のステップ 3 ~ 5 を繰り返します。
- イベントをスケジュールするには、81ページの『イベントのスケジュールリング』を参照してください。

スケジュールされたイベントの表示

Scheduler (スケジューラー) プロファイルと Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルとの関連を表示する手順は、次のとおりです。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Configure Scheduler** (スケジューラーの設定) をクリックします。Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウがオープンします。現在スケジュールされているイベントが要約ボックスに表示され、アクティブな Backup (バックアップ) または Mirror (ミラー) プロファイルが関連付けられた Scheduler (スケジューラー) プロファイルの下にリストされています。
3. 情報を見おわたしたら、**OK** をクリックして、Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウをクローズします。

特定のプロファイルの詳細を表示する手順は、次のとおりです。

1. Start (スタート) メニューから IBM SMART Reaction を開始します。
2. Response Summary (応答の一覧) ウィンドウから、**Edit** (編集) をクリックします。
3. Configuration ノートブックから、表示したいプロファイルを含むタブをクリックします。
4. Profile (プロファイル) フィールドで、フィールドの端の矢印をクリックしてから、表示したいプロファイルを選択します。そのプロファイル用のプロパティーが表示されます。

次に行うこと:

- イベントをスケジュールするには、81ページの『イベントのスケジュールリング』を参照してください。

- イベントをスケジュール解除するには、『イベントのスケジュール解除』を参照してください。

第6章 障害追及のヒント

この章では、共通の問題を解決するのに役立つ情報を提供します。

- クライアントにコンタクトできない: SMART Reaction バックアップまたはミラー・プログラムのいずれかについて既存構成を更新するか、新規構成を追加した場合、SMART Reaction マネージャーは、影響を受けるクライアントまたはクライアントのグループに構成情報を送信しようとしています。エラー・メッセージ「クライアント名」にコンタクトできません
は、以下のいずれかによって発生する可能性があります。
 - 影響を受けたクライアント・ワークステーションが電源オフされている。
 - 影響を受けたクライアント・ワークステーションがネットワークから切断されている。
 - SMART Reaction クライアントが、影響を受けたワークステーションで現在実行されていない。
 - Client Settings (クライアント設定) ノートブックの Clients (クライアント) ページ上で **ID (machine name) for new client** (新しいクライアントの ID (マシン名)を入力または「参照」を選んでください) フィールドにコンピューター名を入力するときに、間違いを犯した可能性がある。無効なコンピューター名を除去するには、68ページの『SMART Reaction データベースからのクライアントの削除』を参照してください。
 - 影響を受けたクライアント・ワークステーション用の構成ファイルが破壊された可能性がある。影響を受けたクライアント・ワークステーション用の .SRC および .SRM ファイルを SMART Reaction マネージャーからクライアントの SMART Reactionクライアント・ディレクトリーにコピーします。(デフォルトのディレクトリーは C:\SRCLIENT です。)
- SMART Reaction マネージャー上の **Control and Status** (コントロールとステータス) ノートブックの **Backup** (バックアップ) ページに、SMART Reaction クライアント上の同じページとは異なる情報が含まれる: これはエラー状態ではありません。この状態は、SMART Reaction マネージャーと SMART Reaction クライアントで異なるバックアップ・セットが選択されている場合に発生します。たとえば、SMART Reaction マネージャーでは、**Selected Backup Set** (選択されたバックアップ・セット) フィールドで **Path Backup** (パス・バックアップ) が選択されているのに対して、SMART Reaction クライアントでは **Hard Drive 0** (ハード・ドライブ 0) が選択されている場合があります。このページを一致させるには、SMART Reaction マネージャーと SMART Reaction クライアントの両方で同じバックアップ・セットを選択しておく必要があります。
- 既存のバックアップ・ファイルが削除されている間は、バックアップ操作を取り消すことができない: これはエラー状態ではありません。SMART Reaction は、プログラムが指定されたサーバーから既存のバックアップ・ファイルを削除している間は、オペレーターにバックアップ操作を取り消すことを許可しません。オペレーターは、バックアップ操作を取り消す前に、ファイルが削除されるまで待つ必要があります。
- SMART Reaction クライアント上のバックアップおよびミラー操作のフォルダー・リストが SMART Reaction マネージャー上のフォルダー・リストと一致しない: これはエラー状態ではありません。ネットワーク管理者は、一部またはすべてのクライアント・ワークステーションで存在する Default settings (デフォルト設定) ノートブックまたは Client Settings (クライアント設定) ノートブック内のフォルダーを定義するのに SMART Reaction マネージャーを使用することはできません。フォルダー・リストが SMART Reaction クライアント側に表示される場合、リストにはそのクライアント・ワークステーション上で存在する定義済みのフォルダーのみが含まれています。クライアント・ワークステーション上に存在しない定義済みフォルダーは無視され、リスト上に表示されません。後でクライアント・ワークステーション上で新規フォルダーが作成され、そのフォルダーが SMART Reaction マネージャー内ですでに定義されているフォルダーに一致する場合、SMART Reaction クライアントを通じて表示されたときに、フォルダーはリストに自動的に追加されます。
- PFA で生成されたバックアップが間違ったハード・ディスク・ドライブにリストアされる: 新規ハード・ディスクがクライアント・ワークステーションに取り付けられる場合、ハード・ディスクがどのように区分され、論理ドラ

イブ名がどのように割り当てられているかに基づき、ドライブ名割り当てが変更される場合があります。ファイルは、バックアップ・ファイルが作成されたのと同じドライブ名にリストアする必要があります。

- バックアップ操作が **Windows 95** クライアント・ワークステーションによって行われるときに **SMART Reaction** マネージャー上で無効なバックアップ・エラー・メッセージ: Windows 95 OSR 1.0 のバージョンでは、容量が 2GB を超えるハード・ディスクについては使用可能なハード・ディスク・スペースを正しく計算しません。

Windows 95 OSR 2.0 では、「設定」→「コントロール パネル」→「システム」で、「4.00 950B」と表示されます。OSR 2.0 より古いバージョンでは、SMART Reaction クライアントはサポートされません。

- **Windows 95** 上での **SMART Reaction** クライアントのロードが遅い: この問題が発生するのは、SMART Reaction クライアントを実行するクライアント・ワークステーションが SMART Reaction マネージャーを実行するコンピューター上で使用可能にされていない通信プロトコルにデフォルト設定される場合です。SMART Reaction クライアントは、TCP/IP プロトコルを使用して、SMART Reaction マネージャーと通信します。ただし、クライアント・ワークステーションには、TCP/IP に加えて、NetBEUI または IPX などの他の通信プロトコルがインストールされている場合があります。一部のシステム呼び出しは、他のプロトコルを最初に使用する場合があります。したがって、SMART Reaction マネージャーを実行するコンピューターでは、SMART Reaction クライアントを実行するクライアント・ワークステーションと同じプロトコルをすべて使用可能にしておく必要があります。そうしないと、SMART Reaction マネージャーへの通信がタイムアウトになる場合があります。
- リモート・クライアント・ワークステーションと通信することができない: SMART Reaction が作動するには、SMART Reaction マネージャーまたは SMART Reaction クライアントを実行するすべてのコンピューターで TCP/IP プロトコルを使用可能にし、正しく構成しておく必要があります。矛盾する、または無効な TCP/IP アドレスが割り当てられていないか確認してください。
- バックアップまたはミラー操作時に、ディレクトリーを作成することができない: 次のエラーを受け取る場合:

Unable to create directory ¥¥server¥path¥cb Access is Denied

指定されたディレクトリーが Windows Explorer によって参照されていますが、SMART Reaction はそのディレクトリーにアクセスすることができません。Windows Explorer 内のフォルダーをクローズするか、Windows Explorer をクローズしてください。

第7章 特記事項と商標

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation,
Department 80D,
P.O. Box 12195,
3039 Cornwallis,
Research Triangle Park,
NC 27709, U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な条件の下で、使用することができますが、有償の場合もあります。

商標

以下の用語は、米国および他の国における IBM 社の商標です。

ADSTAR
IBM
IntelliStation
PC 300
Predictive Failure Analysis
SMART Reaction

Microsoft、Windows、Windows NT、および MS は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

その他の会社名、プロダクト名、およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

- アイコン、SMART Reaction 20
- アクセス、リモートからの SMART Reaction マネージャーへの 43
- 圧縮
 - バックアップ時、使用可/使用不可 48
 - ミラーリング時、使用可/使用不可 49
- 宛先フィールド、電子メール・ページ 29
- インストール
 - 準備、SMART Reaction クライアントの 14
 - ClientCare 19
 - SMART Reaction クライアント 14, 18
 - SMART Reaction マネージャー 11
 - Windows Networking、Windows NT 16
- インターフェースの概説 23
- エラー 85
- エラー、最大試行回数 51
- エラーで停止 46
- エラー・ログ 46
- 応答の定義 23
- 応答の表示フィールド、メッセージ・ボックス・ページ 31

〔カ行〕

- 開始
 - コントロールとステータスウィンドウ 22
 - スケジューリング・メッセージング、およびプロファイル・ファンクション 22
 - バックアップ/リストア/ミラーリング・ファンクション 22
 - Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ 22
 - SMART Reaction クライアント、初めての 20
- 概説 1
- 管理機能 4
- 記憶域、クライアントの最大 46
- 既存の設定へのクライアントの追加 69
- キャンセル・ボタン、Configuration ノートブック 26
- キャンセル・ボタン、Default Settings (デフォルト設定) ノートブック 44
- クライアント設定
 - バックアップ、リストア、およびミラー、設定の変更 69
 - バックアップ、リストア、およびミラーの作成 66
 - 変更、デフォルト設定からの 58
- クライアント設定の変更 69

- クライアント設定...ボタン、コントロールとステータス・ウィンドウ 37
- クライアントのロードが遅い 86
- クライアント・リストを更新ボタン、コントロールとステータス・ウィンドウ 37
- グループ設定
 - バックアップ、リストア、およびミラー、クライアントの追加 69
 - バックアップ、リストア、およびミラーの作成 65
 - 変更、デフォルト設定からの 58
- グループ設定... ボタン、コントロールとステータス・ウィンドウ 37
- 結合、ミラーリング機能とバックアップ機能の 3
- 構成
 - バックアップ、リストア、およびミラー・プログラム 36
 - SMART Reaction をリモートから 57

〔サ行〕

- サーバー上でのディスク・スペースの予約 51
- 最大記憶域、クライアント 46
- 削除、プロファイルの 80
- 削除、マネージャー・データベースからのクライアントの 68
- 削除ボタン、Configuration ノートブック 26
- サポートされているオペレーティング・システム 6
- サンプル・メッセージのビュー 31
- システム・トレイ 20
- 重要な概念 23
- 準備、クライアント・ワークステーションの 14
- 障害追及のヒント 85
- 状況バー、Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウ 46
- 商標 87
- 処理、スケジュールの 81
- 新規作成ボタン、Configuration ノートブック 26
- スケジューリング
 - イベント 35, 81
 - 作成、プロファイルの 79
- スケジュール解除、イベントの 82
- スケジュールされたイベントの ... 35
- ステータス・バー、コントロールとステータス・ウィンドウ 37
- 制御されたユーザー・アクセス 5
- セキュリティ、パスワードの変更 72
- 選択されたクライアント・フィールド、コントロールとステータス・ウィンドウ 36
- 前提条件、SMART Reaction クライアント 6

前提条件、SMART Reaction マネージャー 6
操作環境 6
その他ラジオ・ボタン、Backup/Restore/Mirror ページ 27

〔タ行〕

タイムアウトで応答フィールド、メッセージ・ボックス・ページ 31
ダイヤル呼び出し
数字ポケットベル 32
追加ボタン、スケジュールされたイベントの設定ウィンドウ 35
データの保管、利用可能なサーバーの 50
ディレクトリーを作成することができない 86
適用ボタン、Default Settings (デフォルト設定) ノートブック 45
手順
削除、プロファイルの 80
スケジュールリング、イベントの 81
スケジュール解除、イベントの 82
電子メール・プロファイルの作成 75
バックアップ、リストア、およびミラー、クライアント設定の作成 66
バックアップ、リストア、およびミラー、クライアントの削除 68
バックアップ、リストア、およびミラー、クライアントの追加 67, 69
バックアップ、リストア、およびミラー、グループ設定の作成 65
バックアップ、リストア、およびミラー、設定の変更 69
バックアップ、リストア、およびミラー、デフォルトの作成 62
表示、スケジュールされたイベントの 82
変更、既存プロファイルの 80
変更、パスワードの 72
ミラーリング・プロファイルの作成 74
リスト 61
割り当て、応答へのプロファイルの 81
Backup (バックアップ) プロファイルの作成 73
Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成 78
Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成 77
Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成 76
Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成 79
デフォルト設定
作成 57
バックアップ、リストア、およびミラー、クライアントの削除 68
バックアップ、リストア、およびミラー、クライアントの追加 67
バックアップ、リストア、およびミラーの作成 62

デフォルト設定 (続き)
変更、グループまたはクライアントへの変更 58
渡す、クライアントに 58
デフォルト設定... ボタン、コントロールとステータス・ウィンドウ 37
特記事項 87

〔ナ行〕

内容・フィールド、メッセージ・ボックス・ページ 31
名前
クライアント 5
マネージャー 5, 45
名前、マネージャー 43
名前を付けて保存ボタン、Configuration ノートブック 26
入手、SMART Reaction の 5

〔ハ行〕

配布 5
はい/いいえの表示チェックボックス、メッセージ・ボックス・ページ 31
パスワード
変更 52
SMART Reaction マネージャー、リモート・アクセス 43
SMART Reaction マネージャーの変更 72
パスワードの変更 52
パス・バックアップ 3, 38
バックアップ
圧縮 3
圧縮、使用可/使用不可 48
エラー、最大試行回数 51
エラー・メッセージ 86
書き込み検査、使用可/使用不可 48
機能 2
クライアント設定の作成 66
グループ設定の作成 65
結合、ミラーリングとの 3
構成、リモートから 57
削除、クライアントの 68
処理、設定の 62
スケジュールリング、イベントの 81
スケジュール解除、イベントの 82
他のバックアップ・プログラムの選択 27
追加、クライアントの 67, 69
デフォルト設定 57
デフォルト設定の作成 62
取り消すことができない 85
パス・バックアップ 3, 38
表示、スケジュールされたイベントの 82
ファイル保水性 2, 48
フォルダーの共用 57

バックアップ (続き)

- フォルダーの構造と名前 3
- フォルダー・リストが一致しない 85
- 部分的 48
- プロファイルの作成 73
- 変更、クライアント設定の 69
- 保水性検査、使用可/使用不可 48
- 利用可能なサーバー 50
- ロックされたファイルのスキップ、使用可/使用不可 48
- ADSM の選択 27
- files and folders for next backup (バックアップのファイルとフォルダー) 47
- PFA バックアップ 3
- SMART Reaction Backup (SMART Reaction バックアップ) の選択 27
- バックアップ・ページ・コントロールとステータス・ノートブック
 - 概説 38
 - クライアントとマネージャーで情報が異なる 85
 - Cancel Backup (バックアップ中止) ボタン 39
 - Delete Selected Backup Set (選択されたバックアップ・セットの削除) ボタン 39
 - Pause Backup (バックアップ一時停止) ボタン 39
 - Resume Backup (バックアップ再開) ボタン 39
 - Selected Backup Set (選択されたバックアップ・セット) フィールド 38
 - Settings for Backup Set (バックアップ・セットの設定) フィールド 38
 - Start Backup (バックアップ開始) ボタン 39
 - Status for this Backup Set (このバックアップ・セットのステータス) フィールド 38
- バックアップ/ミラーのプロファイル・フィールド、スケジュールされた ... 35
- 表示、スケジュールされたイベントの 82
- 表示ボタン、メッセージ・ボックス・ページ 31
- ファイルをリストアする場所フィールド、Restore Backup ページ 41
- フォルダー共用
 - 個別のフォルダー、バックアップおよびミラーリング用の 57
 - Windows NT 12
 - Windows 95 13
- フォルダーの構造 3
- 部分的バックアップ操作 48
- プロファイル
 - 削除 80
 - 定義 23
 - 電子メール・プロファイルの作成 75
 - 変更、既存の 80
 - ミラーリング・プロファイルの作成 74
 - 割り当て、応答への 81
 - Backup (バックアップ) プロファイルの作成 73

プロファイル (続き)

- Custom Program (カスタム・プログラム) プロファイルの作成 78
- Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイルの作成 77
- Numeric Pager (数字ポケットベル) プロファイルの作成 76
- Scheduler (スケジューラー) プロファイル、関連の表示 82
- Scheduler (スケジューラー) プロファイル、別のプロファイルからの関連付け解除 82
- Scheduler (スケジューラー) プロファイル、別のプロファイルとの関連付け 81
- Scheduler (スケジューラー) プロファイルの作成 79
- ヘルプ・ボタン、コントロールとステータス・ウィンドウ 37
- 変更、既存プロファイルの 80
- 変更、パスワードの 72
- 保存ボタン、Configuration ノートブック 26

〔マ行〕

- マネージャー・データベースへのクライアントの追加 67
- ミラーファイル/フォルダーは常に監視して更新 50
- ミラーリング
 - 圧縮 3
 - 圧縮、使用可/使用不可 49
 - エラー、最大試行回数 51
 - 書き込み検査、使用可/使用不可 49
 - 機能 2
 - クライアント設定の作成 66
 - グループ設定の作成 65
 - 継続モード、使用可/使用不可 50
 - 結合、バックアップとの 3
 - 構成、リモートから 57
 - 削除、クライアントの 68
 - 処理、設定の 62
 - スケジューリング、イベントの 81
 - スケジュール解除、イベントの 82
 - 他のミラーリング・プログラムの選択 27
 - 追加、クライアントの 67, 69
 - デフォルト設定 57
 - デフォルト設定の作成 62
 - 表示、スケジュールされたイベントの 82
 - 非連続モード 2
 - ファイル保水性 2
 - フォルダーの共用 57
 - フォルダーの構造と名前 3
 - フォルダー・リストが一致しない 85
 - プロファイルの作成 74
 - 変更、クライアント設定の 69
 - 保水性検査、使用可/使用不可 50
 - 利用可能なサーバー 50

ミラーリング (続き)
 連続モード 2
 folders (paths) to be mirrored (ミラーされるフォルダー (パス)) 49
 SMART Reaction Mirroring (SMART Reaction ミラーリング) の選択 27
 メッセージ
 タイムアウト期間 46, 51
 ポップアップまたは状況バーとして 46
 Message Box (メッセージ・ボックス) プロファイル 77
 メッセージ・ボックス、サンプル 31
 モデム
 選択、ローカルまたはリモートの 32
 ポケットベルの要件 6

〔ヤ行〕

予測的障害分析
 参照: PFA

〔ラ行〕

理解、SMART Reaction 構成の 57
 リストア
 クライアント設定の作成 66
 クライアント設定の変更 69
 グループ設定の作成 65
 構成、リモートから 57
 削除、クライアントの 68
 処理、設定の 62
 全ファイル 47
 追加、クライアントの 67, 69
 デフォルト設定の作成 62
 変更および欠落したファイル専用 47
 間違ったドライブ 85
 リストア一時停止ボタン、リストア・バックアップ・ページ 42
 リストア一時停止ボタン、リストア・ミラー・ページ 42
 リストア開始ボタン、リストア・バックアップ・ページ 41
 リストア再開ボタン、リストア・バックアップ・ページ 42
 リストア再開ボタン、リストア・ミラー・ページ 42
 リストア中止ボタン、リストア・バックアップ・ページ 42
 リストア中止ボタン、リストア・ミラー・ページ 42
 リストア・ミラー・ページ・コントロールとステータス・ノートブック 42
 リモート・クライアントと通信できない 86
 利用可能なサーバーへのパス 50
 ロックされたファイル 44

A

Additional Parameters フィールド、Backup/Restore/Mirror ページ 27
 Additional Parameters フィールド、Custom Program ページ 28
 Add... (追加...) ボタン、Servers (サーバー) ページ 51
 ADSM パスワード、Backup/Restore/Mirror ページ 27
 ADSM ラジオ・ボタン、Backup/Restore/Mirror ページ 27
 ADSTAR Distributed Storage Manager (ADSM) 1
 Alphanumeric Pager (英数字ポケットベル) ページ
 Automatically restore client's backup ... 41
 Available Servers (利用可能サーバー) フィールド、Servers (サーバー) ページ 50

B

Backup Program フィールド、Backup/Restore/Mirror ページ 27
 Backup (バックアップ) ページ (Default Settings (デフォルト設定) ノートブック)
 概説 47
 Client may set (クライアントに設定を許可) チェックボックス 48
 Compress backups (バックアップを圧縮) チェックボックス 48
 Files and folders for next backup (次回のバックアップ用のファイルおよびフォルダー) 47
 Folders in Windows NT backup lists フィールド 48
 Folders in Windows 95 backup lists フィールド 48
 Skip locked files during backup チェックボックス 48
 Turn on write verify (書き込みベリファイ) チェックボックス 48
 Verify integrity during backups (バックアップ中の全ファイル検証) チェックボックス 48
 Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) ページ
 概説 26
 作成、プロファイルの 73, 74
 その他ラジオ・ボタン 27
 Additional Parameters (追加パラメーター) フィールド 27
 ADSM ラジオ・ボタン 27
 Backup Program (バックアップ・プログラム) フィールド 27
 Configure SMART Reaction (SMART Reaction の構成) ボタン 27
 Profile (プロファイル) フィールド 26
 SMART Reaction Backup (SMART Reaction バックアップ) ラジオ・ボタン 27
 SMART Reaction Mirroring (SMART Reaction ミラーリング) ラジオ・ボタン 27

C

- Cancel Backup (バックアップ中止) ボタン、Backup (バックアップ) ページ 39
 - Cancel Mirroring (ミラー中止) ボタン、Mirror (ミラーリング) ページ 40
 - CC フィールド、電子メール・ページ 29
 - Client may set チェックボックス、Backup ページ 48
 - Client may set チェックボックス、Mirroring ページ 50
 - Client may set チェックボックス、Names/Services ページ 45, 47
 - Client Settings (クライアント設定) ノートブック
 - アクセス 55
 - 概説 55
 - Clients (クライアント) ページ 56
 - Refresh Client List (クライアント・リストを更新) ボタン 55
 - Selected Client (選択されたクライアント) フィールド 55
 - 参照 : Default Settings (デフォルト設定) ノートブック
 - ClientCare 5
 - ClientCare のインストール 19
 - Clients in selected group (選択されたグループのクライアント) ページ 54
 - Clients (クライアント) ページ (Client Settings (クライアント設定) ノートブック)
 - 概説 56
 - Copy new client settings from (新しいクライアントの設定のコピー元) フィールド 56
 - Delete Selected Client (選択されたクライアントの削除) ボタン 56
 - ID (machine name) for new client フィールド 56, 85
 - Clients (クライアント) ページ (Group Settings (グループ設定) ノートブック)
 - 概説 54
 - Clients in selected group (選択されたグループのクライアント) フィールド 54
 - Client's maximum storage allowed on servers フィールド、General ページ 46
 - Close after timeout フィールド、Message Box ページ 31
 - Close (閉じる) ボタン、Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ 24
 - Compress backups チェックボックス、Backup ページ 48
 - Compress mirror files チェックボックス、Mirroring ページ 49
 - Configuration (構成) ノートブック
 - 概説 25
 - 電子メール・ページ 29
 - メッセージ・ボックス・ページ 30
 - Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) ページ 26
 - Custom Program (カスタム・プログラム) ページ 28
 - Configuration (構成) ノートブック (続き)
 - Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ 32
 - Scheduler (スケジューラー) ページ 33
 - Configure Scheduled Events (スケジュールされたイベントの設定) ウィンドウ
 - アクセス 35
 - 概説 35
 - Configure Scheduler ボタン、Response Summary ウィンドウ 24
 - Configure SMART Reaction ボタン、Backup/Restore/Mirror ページ 27
 - Control and Status (コントロールとステータス) ウィンドウ
 - アクセス 36
 - 概説 36
 - クライアント・リストを更新ボタン 37
 - グループ設定... ボタン 37
 - ステータス・バー 37
 - 選択されたクライアント・フィールド 36
 - デフォルト設定... ボタン 37
 - バックアップ・ページ 38
 - ヘルプ・ボタン 37
 - マネージャー・ページ 43
 - Client Settings (クライアント設定) ノートブック 55
 - Client Settings... (クライアント設定...) ボタン 37
 - Default Settings (デフォルト設定) ノートブック 44
 - Group Settings (グループ設定) ノートブック 52
 - Locks (ロック) ページ 44
 - Mirror (ミラー) ページ 39
 - Restore Backup (リストア・バックアップ) ページ 41
 - Restore Mirrors (リストア・ミラー) ページ 42
- Copy new client settings from フィールド、Clients ページ 56
- Copy new settings from フィールド、Groups ページ 54
 - Copy the current client list into the new Group チェックボックス、Groups ページ 54
 - Create New Group (新しいグループの作成) ボタン、Groups (グループ) ページ 54
 - Current Manager Station フィールド、マネージャー・ページ 43
 - Current Password (現在のパスワード) フィールド、Password (パスワード) ページ 52
 - Custom Program (カスタム・プログラム) ページ
 - 概説 28
 - 作成、プロファイルの 78
 - Additional Parameters (追加パラメーター) フィールド 28
 - Path and file name (パスとファイル名) フィールド 28
 - Profile (プロファイル) フィールド 28

D

- Day of Month (日) フィールド、Scheduler (スケジューラー) ページ 34
- Day of Week (曜日) フィールド、Scheduler (スケジューラー) ページ 34
- Default Settings (デフォルト設定) ノートブック
 - 概説 44
 - キャンセル・ボタン 44
 - 適用ボタン 45
 - Backup (バックアップ) ページ 47
 - General (一般) ページ 46
 - Help (ヘルプ) ボタン 45
 - Mirroring (ミラーリング) ページ 49
 - Names/Services (名前/サービス) ページ 45
 - OK ボタン 44
 - Password (パスワード) ページ 52
 - Servers (サーバー) ページ 50
- Delete Mirror Files on Server ボタン、Mirror ページ 40
- Delete Selected Backup Set ボタン、Backup ページ 39
- Delete Selected Client button ボタン、Clients ページ 56
- Delete Selected Group ボタン、Groups ページ 54
- Destination for restored files フィールド、Restore Mirrors ページ 42
- Drives stored in the backup フィールドの、Restore Backup ページ 41
- Drives stored in this mirror フィールド、Restore Mirrors ページ 42

E

- Edit (編集) ボタン、Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ 24
- Enter new password フィールド、Password ページ 52
- Enter new password again フィールド、Password ページ 52
- Error level to log フィールド、General ページ 46
- E-mail (電子メール) ページ
 - 宛先フィールド 29
 - 概説 29
 - 作成、プロファイルの 75
 - CC フィールド 29
 - Message (メッセージ) フィールド 29
 - Profile (プロファイル) フィールド 29
 - Subject (件名) フィールド 29

F

- Files and folders for next backup、Backup ページ (デフォルト) 47
- Files and folders in mirror lists チェックボックス、Mirroring ページ 49

- Files awaiting backup フィールド、Locks ページ 44
- Folders in Windows NT backup list フィールド、Backup ページ 48
- Folders in Windows 95 backup list フィールド、Backup ページ 48
- Folders (paths) to be mirrored、Mirroring ページ 49
- Frequency (頻度) フィールド、Scheduler (スケジューラー) ページ 34

G

- General (一般) ページ
 - 概説 46
 - Client may set (クライアントに設定を許可) チェックボックス 47
 - Client's maximum storage allowed on servers フィールド 46
 - Error level to log (ログのエラー・レベル) フィールド 46
 - Halt on Error (エラーで停止) チェックボックス 46
 - Message time-out (メッセージ・タイムアウト) フィールド 46
 - Only restore changed and missing files チェックボックス 47
 - Show Client Prompts (クライアントにダイアログを表示) チェックボックス 46
- Group Settings (グループ設定) ノートブック
 - アクセス 37
 - 概説 52
 - Clients (クライアント) ページ 54
 - Group (グループ) フィールド 53
 - Groups (グループ) ページ 53
 - Refresh Group List (グループ・リストを更新) ボタン 53
 - 参照 : Default Settings (デフォルト設定) ノートブック
- Group (グループ) フィールド、Group Settings (グループ設定) ノートブック 53
- Groups (グループ) ページ
 - 概説 53
 - Copy new settings from (新しいグループ設定のコピー元) フィールド 54
 - Copy the current client list into the new Group チェックボックス 54
 - Create New Group (新しいグループの作成) ボタン 54
 - Delete Selected Group (選択されたグループの削除) ボタン 54
 - Name for new group (新しいグループの名前) フィールド 54

H

- Halt on Error (エラーで停止) チェックボックス、General (一般) ページ 46

Help (ヘルプ) ボタン、Default Settings (デフォルト設定) ノートブック 45
Help (ヘルプ) ボタン、Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ 24
Hour (時) フィールド、Scheduler (スケジューラー) ページ 34

I

ID (machine name) for new client フィールド、Clients ページ 56, 85

L

Locks (ロック) ページ
概説 44
Files awaiting backup (バックアップされるファイル) フィールド 44
Stop trying (中止) ボタン 44

M

Manage SMART Reaction from Here フィールド、Manager ページ 43
Manager Name フィールド、Names/Services ページ 45
Manager password フィールド、マネージャ・ページ 43
Manager (マネージャー) ページ
概説 43
Current Station Manager (現在のマネージャ・ステーション) 43
Manage SMART Reaction from Here (SMART Reaction をここから管理) フィールド 43
Manager password (マネージャ・パスワード) フィールド 43
Release SMART Reaction マネージャー (SMART Reaction マネージャーの解除) ボタン 43
Maximum retry count (最大試行回数) フィールド、Servers (サーバー) ページ 51
Message Box (メッセージ・ボックス) ページ
応答の表示フィールド 31
概説 30
作成、プロファイルの 77
タイムアウトで応答フィールド 31
内容フィールド 31
はい/いいえの表示チェックボックス 31
表示ボタン・フィールド 31
Close after timeout (タイムアウト後閉じる) フィールド 31
Profile (プロファイル) フィールド 30
Severity (重要度) 30
Size (サイズ) フィールド 30
Title (タイトル) フィールド 30

Message time-out フィールド、Servers ページ 46
Message (メッセージ) フィールド、電子メール・ページ 29
Message (メッセージ) フィールド、Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ 32
Minimum free server space、Servers ページ 51
Minute (分) フィールド、Scheduler (スケジューラー) ページ 34
Mirror (ミラーリング) ページ
概説 39
Cancel Mirroring (ミラー中止) ボタン 40
Delete Mirror Files on Server (サーバー上のミラー・ファイルを削除) ボタン 40
Pause Mirroring (ミラー一時停止) ボタン 40
Resume Mirroring (ミラー再開) ボタン 40
Settings for Mirroring (ミラーの設定) ボックス 40
Start Mirroring (ミラー開始) ボタン 40
Status for this Client (このクライアントのステータス) ボックス 39
Mirroring (ミラーリング) ページ (デフォルト)
概説 49
Client may set (クライアントに設定を許可) チェックボックス 50
Compress mirror files (ミラーファイルを圧縮) チェックボックス 49
Files and folders in mirror lists チェックボックス 49
Folders (paths) to be mirrored (ミラーされるフォルダー (パス)) フィールド 49
Mirror files/folders are monitored and updated continuously チェックボックス 50
Turn on server's write verify for mirror チェックボックス 49
Verify mirror integrity while mirroring チェックボックス 50
Month (月) フィールド、Scheduler (スケジューラー) ページ 34

N

Name for new group (新しいグループの名前) フィールド、Groups (グループ) ページ 54
Names/Services (名前/サービス) ページ
概説 45
Client may set (クライアントに設定を許可) チェックボックス 45
Manager Name (マネージャー名) フィールド 45
Preferred backup server (バックアップ・サーバー) フィールド 45
Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ
概説 32
作成、プロファイルの 76
Message (メッセージ) フィールド 32

Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ (続き)
Pager Number (ポケットベル番号) フィールド 32
PIN フィールド 32
Profile (プロファイル) フィールド 32
Settings (設定) ボタン 32

O

OK ボタン、スケジュールされたイベントの設定ウィンドウ 35
OK ボタン、Default Settings (デフォルト設定) ノートブック 44
Only restore changed and missing files チェックボックス、General ページ 47

P

Pager Number フィールド、Numeric Pager ページ 32
Password (パスワード) ページ
概説 52
Current Password (現在のパスワード) フィールド 52
Enter new password again (新しいパスワードを再度入力) フィールド 52
Enter new password (新しいパスワードを入力) フィールド 52
Path and file name フィールド、Custom Program ページ 28
Pause Backup (バックアップ一時停止) ボタン、Backup (バックアップ) ページ 39
Pause Mirroring (ミラー一時停止) ボタン、Mirror (ミラーリング) ページ 40
PFA
アラート用のプロファイル 73
説明 1
PFA バックアップ 3, 38
PIN number (PIN 番号) フィールド
Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ 32
Preferred backup server フィールド、Names/Services ページ 45
Profile (プロファイル) フィールド
電子メール・ページ 29
メッセージ・ボックス・ページ 30
Backup/Restore/Mirror (バックアップ/リストア/ミラー) ページ 26
Custom Program (カスタム・プログラム) ページ 28
Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ 32
Scheduler (スケジューラー) ページ 34

R

Ready-to-Configure Utility Program CD 5

Refresh Client List ボタン、Client Settings ノートブック 55
Refresh Group List ボタン、Group Settings ノートブック 53
Release SMART Reaction マネージャー・ボタン、マネージャ・ページ 43
Remove ボタン、スケジュールされたイベントの設定ウィンドウ 35
Remove selected (選択を削除) ボタン、Servers (サーバー) ページ 51
Response Summary (応答の一覧) ウィンドウ 24
Restore Backup (リストア・バックアップ) ページ
概説 41
ファイルをリストアする場所フィールド 41
Automatically restore client's backup on next logon チェックボックス 41
Cancel Restore (リストア中止) ボタン 42
Pause Restore (リストア一時停止) ボタン 42
Resume Restore (リストア再開) ボタン 42
Selected Restore Set (選択されたリストア・セット) フィールド 41
Start Restore (リストア開始) ボタン 41
Status for this Backup Set (このバックアップ・セットのステータス) フィールド 41
Subject Restore Set (件名リストア・セット) フィールド 41
Restore Mirrors (リストア・ミラー) ページ
概説 42
Cancel Restore (リストア中止) ボタン 42
Destination for restored files (ファイルをリストアする場所) フィールド 42
Drives stored in this mirror (ミラーされたドライブ) フィールド 42
Mirror Recovery for this Client (このクライアントのミラーの回復) フィールド 42
Pause Restore (リストア一時停止) ボタン 42
Resume Restore (リストア再開) ボタン 42
Start Restore (リストア開始) ボタン 42
Resume Backup (バックアップ再開) ボタン、Backup (バックアップ) ページ 39
Resume Mirroring (ミラー再開) ボタン、Mirror (ミラーリング) ページ 40
Retry time-out (再試行タイムアウト) フィールド、Servers (サーバー) ページ 51

S

Scheduler (スケジューラー) ページ
概説 33
削除ボタン 35
作成、プロファイルの 79

Scheduler (スケジューラー) ページ (続き)
 スケジュールされたイベントのプロファイル・フィールド
 35
 追加ボタン 35
 日フィールド 34
 バックアップ/ミラーのプロファイル・フィールド 35
 Day of Week (曜日) フィールド 34
 Frequency (頻度) フィールド 34
 Hour (時) フィールド 34
 Minute (分) フィールド 34
 Month (月) フィールド 34
 OK ボタン 35
 Profile (プロファイル) フィールド 34
 Year (年) フィールド 34
 Selected Backup Set フィールド、Backup ページ 38
 Selected Client フィールド、Client Settings ノートブック
 55
 Selected Restore Set フィールド、Restore Backup ページ
 41
 self-monitoring, analysis, and reporting technology
 (S.M.A.R.T.) 1
 Servers (サーバー) ページ
 概説 50
 Add... (追加...) ボタン 51
 Available Servers (利用可能サーバー) フィールド 50
 Maximum retry count (最大試行回数) フィールド 51
 Minimum free server space (最小サーバー空き容量) 51
 Remove selected (選択を削除) ボタン 51
 Retry time-out (再試行タイムアウト) フィールド 51
 Settings for Backup Set フィールド、Backup ページ 38
 Settings for Mirroring ボックス、Backup ページ 40
 Settings (設定) ボタン
 Numeric Pager (数字ポケットベル) ページ 32
 Severity (重要度) フィールド、メッセージ・ボックス・ページ
 30
 Show Client Prompts チェックボックス、General ページ 46
 Size (サイズ) フィールド、メッセージ・ボックス・ページ
 30
 Skip locked files during backup チェックボックス、Backup
 ページ 48
 SMART Reaction バックアップ 2
 SMART Reaction Backup ラジオ・ボタン、
 Backup/Restore/Mirror ページ 27
 SMART Reaction Mirroring ラジオ・ボタン、
 Backup/Restore/Mirror ページ 27
 Start Backup (バックアップ開始) ボタン、Backup (バックア
 ヅ) ページ 39
 Start Mirroring (ミラー開始) ボタン、Mirror (ミラー) ページ
 40

Start Restore (リストア開始) ボタン、Restore Mirrors (リスト
 ア・ミラー) ページ 42
 Status for this Backup Set フィールド、Backup ページ 38
 Status for this Backup Set フィールド、Restore Backup ペ
 ージ 41
 Status for this Client ボックス、Backup ページ 39
 Stop trying (中止) ボタン、Locks (ロック) ページ 44
 Subject (件名) フィールド、電子メール・ページ 29
 S.M.A.R.T. 1

T

Title (タイトル) フィールド、Message Box (メッセージ・ボ
 ヅ) ページ 30
 Turn on server's write verify for mirror チェックボックス、
 Mirroring ページ 49
 Turn on write verify チェックボックス、Backup ページ 48

V

Verify integrity during backups チェックボックス、Backup
 ページ 48
 Verify mirror integrity while mirroring、Mirroring ページ
 50

W

Windows NT
 インストール、Windows Networking の 16
 準備、クライアント・ワークステーションの 16
 使用可能化、フォルダー共有の 12
 folders in backup list (バックアップ・リストのフォルダ
) 48
 Windows 95
 準備、クライアント・ワークステーションの 14
 使用可能化、フォルダー共有の 13
 folders in backup list (バックアップ・リストのフォルダ
) 48
 SMART Reaction クライアントのロードが遅い 86
 WWW アドレス 5

Y

Year (年) フィールド、Scheduler (スケジューラー) ページ
 34



Printed in Japan

日本アイビーエム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6532-00